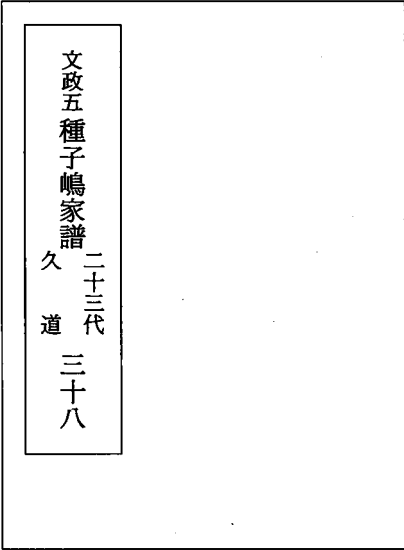


(表紙)



- 文政五年壬午正月元日、諸式、依舊、
- 同日、國上村猷野老、
- 同日、以病止朝儀・本源寺社參、
- 同日、喫菖蒲茗、如例、
- 同日、見家老及物奉行於奥座、
- 同日、與家老・物奉行・用人冷酒於奥座如例、又於廣間定寶、主行賀儀、客位河内熊右衛門時義・平山茂傳次武後、主位西村藏多時措・知賢翁之丞行可

- 二日、觀馬、名代家老時任丈左衛門時子及馬役姓失
- 各
- 同日、現和村庄司浦猷海物、國上村猷瀨物、
- 同日、八箇寺進上如例、名代家老時任丈左衛門時子、
- 四日、上之郡庄官・小觸進上如例、名代家老羽生仙右衛門能寧、
- 五日、母堂詣三箇寺、
- 六日、初狩、名代家老羽生仙右衛門能寧、物奉行種子島大九郎時雍、用人種子島大五郎時義、三組頭美座三十郎時資・時任右源次・西村仲左衛門、山奉行宮浦喜右衛門・羽生嘉右衛門・河内覺右衛門・西村太平次、西之表保正猷酒食、如例、
- 七日、中之郡・下之郡庄官進上如例、名代家老羽生仙右衛門能寧、
- 九日、赦嚮所坐之木原半蔵而入於伍籍、開事于左、

(文書欠)

○十一日、軍陣・温座祈念、如例、

○同日、贈佳札於兩本山、

○同日、古田村蓮勝寺献神酒及黍盛、如例、

○同日黄昏、的始、名代家老羽生仙右衛門能寧^{失用}人姓
名、射手一番^{美座矢太郎}、二番^{西村仙九郎}、三番^{羽生}
^{八板木、}鯨島半五^{宗藏}、
^{工之進、}

○同日、飾甲冑二領^{日深公鑑}於廣間、為賀筵、

○同日、在郷諸寺進上、如例、

○同日、官命興國寺火消、

○同日、現和村庄司浦漁人與三太宅火、餘煙及次平

太・庄吉・孝右衛門・權七・小市・吉藏・仁三太

・小八・善五右衛門・利左衛門・善七・矢市・次

郎右衛門・万吉・權藏・庄次郎・矢八・善八・權

左衛門^{合二十戸、人}、休太・休右衛門宅^{休太夫婦、}

手札、人^{馬、手札無恙、}、縮方横目篠原善七・兒玉小八、吾横目時

任右源次・種子島大五郎、檢察之以聞于官、

○十二日、赦公儀流人藤吉、初以竊盜繫於獄及百三
十日餘、

○十四日、以病瘵、詣本源寺拜先塋、尋而拜神社禮
三堂、

○同日、日州諸縣郡高城穗滿坊村素麵門名頭源右衛
門有罪見放來、

○點檢丁夫・病夫・有職者告官、如例、

○廿一日、行女子^{久美}髮立賀、産弓時任丈左衛門時
子、

○廿五日・廿六日・廿七日・廿八日、見東町歌舞伎
於城内、

○國老町田監物久視傳前太守公命、令以於隣殿妊娠
之故、不論官暇之期、平産之後俟身健、而與久徵

共宜渡海事、開于左、

(文書欠)

○廿八日、釋公儀流人龜次郎、賜古田村村吏、

○廿九日、狩于安城村・増田村、家老知覽才兵衛行
寬從之、

○晦日、覺府下町大火、

○同日、御内證御方賜産衣一領・干鯛一匣於女子
美久、

○同日、於隣殿奉命、献金子各百足太守公・前太守
公・御内證御方、久徵亦献金子百足太守公・前太
守公、而賀七夜、開事于左、

(文書欠)

○十六日、與山畑八區高五斗三升八合五勺四才於國
上村濱脇塩戸、開事于左、

○九二 役所物奉行覚
覺

一山畑八竿 高ニシテ五斗三升八合五勺四才

右、諸塩居地面之儀以際限被成下置事ニ候、就ハ
安永年中御竿之節、右之分伊關方持留畑濱脇へ引
出シ竿ニ相成候儘ニテ有之、濱脇塩屋迷惑ニ及、
塩屋中困窮之段、物奉行吟味の趣奉伺候処、右之
通御加増被仰付候通仰出候間、如例支配可被申渡
候、以上、

御役所印

閏正月十六日

御物奉行

○同日、大會寺歌會、題浦籠、久徵及孺人竝母堂、

家老種子島五郎左衛門政賢・知覽才兵衛行寬、物
奉行鮫島五郎兵衛・上妻九郎左衛門、用人時任右
源次、講師梶原瀬左衛門、讀師下村新五郎、大會
寺住持日(イ)、各侍席、

○二十七日、巡回上之郡、二月四日歸館、

○二月二日、締方横目伊集院清之助・國分與左衛門
來、

○四日、奥州仙臺杜鹿郡湊圓藏船沖船頭漂到于國上

村湊、縮方横目伊集院清之助・國分與左衛門及吾
横目種子島大五郎・時任右源次、船奉行西村仲左
衛門、舟功者松下仲兵衛到彼地監察之、

○六日、入家老羽生仙右衛門能寧家、與上下一領、
能寧獻太刀・馬代銀、

○九日、慈遠寺歌會、題軒梅、久徵及孺人竝母堂、
家老種子島五郎左衛門政賢・時任丈左衛門時子、

船奉行前田大兵衛宗周・種子島大九郎時雍、用人
西村十郎次時興・西村甚五太夫時員、講師梶原瀨
左衛門景甫、讀師下村新五郎時純、慈遠寺日(A)
各侍席、

○十日、阿高磯新八船運米于覺府邸、及歸洋中途西
風強大、破舟於佐多伊佐敷、水梢等無恙、事達覺
府邸、於是下村善左衛門携足輕一人・丁夫一人到
于伊佐敷、監察之、

○十四日、西村勘九郎元服、久徵加冠、獻太刀・馬
代、與字周左衛門、又與的矢一手、理髮家老羽生
仙右衛門道寧(A)、侍席家老時任丈左衛門時子、物奉

行鮫島五郎兵衛、用人平山二郎太夫、奏者用人西
村次郎兵衛、

○十六日、有留宗次郎宅火、餘煙及牧覺之丞宅、告
事于官、人馬・手札無恙、宗次郎入于下西之表妙
泉寺而謝罪、

○二十日、屋久島宮之浦之龜太郎船載官米到覺府、及回
風浪俄起不知東西、遂漂到于島間村大星岬破焉、
覺府士相良甚五右衛門溺死、其餘江田源助・五代
專之助・大牟田善兵衛・塩津庄左衛門・河添喜
八、僅得保命、島間村村吏以急使告之、縮方横目
伊集院清之助・國分與左衛門、吾横目時任右源次
・種子島大五郎到彼地監察之、以告于官、

○二十二日、以官暇迫期、親類北條織部守道上書以
再請之、開事于左、

(文書欠)

○同日、狩于安城村蘆野是日、家老知覽才兵衛行寬

・物奉行前田太兵衛宗周從之、梅北新兵衛・西玄可從于孺人、狩奉行平山二郎太夫武正・西村次郎兵衛時景、串目奉行八板庄右衛門・下村珠兵衛・上妻親七・河内九郎右衛門、山奉行宮浦喜右衛門・羽生嘉右衛門・西村太平次・河島源四郎、率十六村丁夫千九百七十六人二分隊、傳命圍芦野平夜以火旗畫以旗獲大鹿二頭、法令如左、

○九三 役所条書

條々

一今度安城村芦野小立被仰出候ニ付、村々より無残勢子罷登ル事ニ候条、人々受取の場より猪鹿不洩様、第一可心掛事、
一勢子の立用足並不揃候へバ、必洩恣完有之者ニ候、人々其心得專要ニ候、
一多人数相集ル事ニ候へバ、等ニ相嗜ミ、喧嘩口論等曾て不仕、御立の行儀無作法無之様可相守下知事、

右条々、堅固可相守之候、狩奉行平山次郎太夫・西村次郎兵衛、串目奉行八板庄右衛門・下村珠兵衛・上妻新七・河内九郎右衛門、山奉行宮浦喜右衛門・羽生嘉右衛門・西村太平次、寄山奉行河内源四郎可得差圖者也、

文政五年午二月二十二日

御役所印

- 狩已而與杯酒於狩奉行・串目奉行・山奉行、又召諸村主取而與杯、而後與暇、諸式依舊、
- 二十三日、葬相良甚右衛門繼死於本妙寺、
- 二十五日、按察一向宗告官、如例、
- 同日、與米二石于家老種子島五郎左衛門政賢、以今丁役于本府、(ノ)國家貧不能給旅費且年凶也、
- 締方横目兒玉小八・篠原善七歸、
- 三月三日、使渡邊源十郎直讀法令書於廣間、
- 同日、與艾餅于三箇寺、慈遠寺獻同品、
- 同日、西之表庄官進上、如例、

○買川畑昌軒宅地以爲下莊、開事于左、

(文書欠)

○十四日、觀射禮於本源寺弓場^{三役・組}、^{頭失姓名}、射手五十

九人、羽生藤太郎太腑當中束矢、子島龍藏・羽生

宗藏金的中束矢、與弓各一張、

○二十二日、狩于馬毛嶋、家老知覽才兵衛行寬・物

奉行種子島平左衛門・用人時任右源次隨行、

○同日、納三狩所獲鹿皮于山奉行所、

○四月二日、上西之表秋山金四郎釣而不歸、告事于

官、

○同日、嚮所漂到之奥州船、處々損壞不堪歸航、故

請賣之、國老安房久備傳命許之、且命厚接待之、

開事于左、

(文書欠)

○八日、異國方御用人田畑武右衛門禁商唐貨、且示

糸荷船漂來之日處置法、如例、

○十三日、國老町田監物久視・嶋津安房久備・新納

内藏久邦命禁驕奢守質素無爲遊護護身可以正俗、

記事于左、

○九四 新納久邦外二名連署違書

當時格外之御省略中、殊ニ諸人一統差迫り難渡之

砌ニ候間、無益之參會等相催す間敷との趣、每度

申渡有之候處、程過き候へバ不守之者も有之、不

可然事ニ候、且又下町の儀、先年以来無間も三度

の大火にて、市中ハ勿論一統不廻り可相成儀、何

篇當時節柄ニ應し質素ニ無之てハ不叶事ニ候処、

近年藝妓躰之者共多人數入り居り候、不依貴賤

御時節柄を不憚、平日油断勝て借座敷等へ召

呼、酒宴相催し、終ニハ不勘辨之儀致到来候も有

之、他所へ見聞も如何敷、第一風俗を相乱、言語

同断之至ニ候、去年も分て申渡置候通り、一切徒

ニ參會等相企問敷候、右ニ付てハ見分を申付置候
間、聊無忘却急度可相守候、此旨向々へ不洩様可
致通達候、

四月

(町田久視)

監物

(島津久備)

安房

(新納久邦)

内藏

○十五日、以異國船來之候、國老島津安房久備・新
納内藏久邦・町田監物久視、傳長崎奉行令、如
例、

○十六日、自馬毛島歸、

○五月、按察一向宗告官、如例、

○三日、入家老西村源五左衛門時熙家、與上下一
領、時熙献太刀・馬代、又献白銀二兩於母孺人、

○四日、賀端午、普之進殿賜白銀一兩於久道及孺
人、

○同日、献菖蒲兜一飾于普之進殿、

○五日、與粽二束于三箇寺、慈遠寺献同品、

○十日、令家老・物奉行・用人曰、此地邊鄙風俗甚
陋、隨其俗而為政乎、抑又改易其俗而為政乎、各
書其所思教吾、開事于左、

(文書欠)

○十二日、禁本源寺門内爲牛馬通路且入不淨、

○十五日、叱緒方寛右衛門、以作島間村蠟澄屋之簿
書不正也、

○十七日、献活鹿四匹杜於太守公、

○廿一日、家老呈書、聞嚮所令之正風俗之事、開于
左、

(文書欠)

○二十四日、送奥州舟子於本府、榎本宗之進監之、

○六月朔日、以日高惣太夫・美座六兵衛爲高奉行、

○六日、大風、

○十一日、與米二斗于飛船船長直吉及水手、賞七日而往來于本藩也、

○廿一日、因嚮所送于本府之奧州仙臺領舟子之事、

御使番座召用頼染川伊兵衛、命書奧州人種子島留滯中接遇之狀以可呈、又漂流方官吏云、太守公與仙臺侯素為等輩、然仄聞禮遇疎濶、種子島疎濶即太守公失禮、彼徒歸鄉之日語其事則國家瑕瑾也、故使用頼密議其事之宜於漂流方官吏、於是與御使番官吏相議云、留滯中費用以金償之即可得稍其宜乎、御使番官吏私竊窺之於國老島津安房久備而可之、由是會計留滯中費用金、而以錢九十二貫八百十四文與奧州人、

○晦日、和儼規式、如例、

○七月四日夕、以母孺人急發病中風、四躄痿痺、所從

孺人之官醫西玄可視病症、直躡小舟以使河東專左衛門告之於本藩、

○七日、飾鎧於廣間而如例、家老時任丈左衛門時子拜之、

○八日、名代西村源五右衛門時熙詣于大會寺而祭先祖・宗祖及戰死者靈、

○十三日、名代知覽才兵衛行寬詣慈遠寺而祭祖先・宗祖及戰死者靈、

○十四日、名代羽生仙右衛門能寧詣本源寺而祭宗祖、

○同日、穀料金子百疋、賀生身魂而普之進君贈夫婦、

○同日、穀料金子百疋、賀生身魂而夫婦獻普之進君、

○十六日、名代時任丈左衛門時子詣本源寺方丈而祭祖先及戰死者靈、

○廿九日、孺人年寄龜野疾病、告甥榎本庄兵衛、按察鬼利支丹宗而告官、如例、

○八月朔日、與中紙二束於慈遠寺・大會寺、

○三日、締方横目河野直左衛門・山口藤四郎來、

○七日、赦所放於沖永良部島之羽生長次郎、以其性彊戾欲懲之、以聞于官而放彼地數十年、以今悔過

改暴行也、

○十三日、榎本庄兵衛來省視龜野病、

○十五日、蓮勝寺進上、如例、

○同日、欲禁射鹿而問平生所以田獵之事、開于左、

(文書欠)

○晦日、因禁射鹿而家老議警衛鹿倉之事而呈書、開事于左、

(文書欠)

○同日、以經年在島將赴本府、前太守公命曰、時向冬寡順風、可待春和而渡海、國老新納內藏久邦傳命、開事于左、

(文書欠)

○締方横目伊集院清之助・國分與左衛門歸、

○九月九日、用人平山傳一郎武世讀法令書於廣間、

○廿八日、西村菊千代元服、久道加冠、理髮家老西村源五右衛門、獻太刀・馬代、賜字城之助且的矢、

○同日、頃以土居市街之徒漸多、或構店賣庶品、或獲舟楫之利、今也士商無別尊卑失序、因此命自是五閏年而移居於土區、則爲士不能轉移、則降一等而為町奉行座屬之士、且市街構石垣門扉頗彷彿土區、後造家者宜除石牆門扉、

○同日、欲修整俗弊而命府下每鄉擇壯士有志氣者爲盟主、宜率勵少年輩教導文武及言行之節、

○同日、平生接待父母及伯叔父・兄弟而應對之辭甚驕、且事主之言行亦甚鄙、故命自是勿以不遜之辭、

○同日、官命山崎六郎・長野兩助唐通事、及扶持米、開事于左、

(文書欠)

○廿九日、古田村百姓小六宅火、人馬・手札無恙、

○十月二日、曩官命高每一石納銀二分、直示之衆、

然未納、今也一統少錢、故察其不能納而命自是高
每一石納米三合、

○九日・十一日、名代羽生仙右衛門能寧詣本源寺、

祭宗祖、

○十八日、嚮水手仲之丞・徳松到琉球沖永良部島、

及皈逢逆風而漂到于唐土、乘來朝之船而得歸、因
此官命之、事如左、

(文書欠)

○十九日、入平山藤左衛門親好家、献太刀目錄、又

献青銅百足於孺人、賜上下一領藤左衛門、孺人賜
包物藤左衛門妻、

○廿四日、曩買川端昌軒邸、而使奴僕守邸、其邸素

構店、由是訴開店商庶物、開于左、

(文書欠)

○同日、發府、到深川而宿、廿五日、狩于住吉山・

古田山、廿六日、孺人發府而來牧川、與宿牧川、

廿七日、到油久村而宿、廿八日、到莖永邑、至十

一月朔日留滯、二日、獵于長谷山・立本山、是日

到上里邑而宿、三日、到西之邑而宿、四日、獵于

牛木山、到島間村、至五日留滯、六日、到坂井

村、七日、詣權現宮、後到濱崎而遊觀焉、皈坂井

村、八日、到野間邑而宿、九日、到住吉邑而宿、

十日、歸府館、

○廿五日、因買川端昌軒邸而市人内田喜次郎訴訟之
事、記于左、

(文書欠)

○同日、高奉行筆記田地之數、以呈之、記事于左、

(文書欠)

○十一月朔日、國老川上美濃久芳命云、往來攝土之商船不受、津口番所檢察而違法度、然有之、自是勿犯禁法、開事于左、

○ 九五 川上久芳申渡書

美濃殿より被相渡候御付寫(書脱カ)

右者、種子島船々津口番所改を不受致上坂候由不可然事ニ候条、已来右通無之様迄と取締り行届候様可申渡候、

十一月 (川上久芳)
美濃

○二日、因税錢不足而假鬻國高四十八石於北條十次、以補不足、

○十四日、賀普之進殿生辰、而夫婦獻穀一折、

○十六日・十七日、三役・組頭覽武藝于廣間庭上、

鏡智流師範平山藤左衛門親好平山二郎 太夫代之

子島五郎左衛門政賢種子島大、五郎代之、天真流師範日高源

七郎實影・同師範遠藤壯兵衛、示現流師範宮浦平

右衛門・同師範吉良勝兵衛吉良吉次、郎代之、竹之内流師

範日高源七郎、竹之内流鎧組討師範遠藤壯兵衛、

性一流師範羽生主右衛門直、心影流師範長野良左

衛門高崎孫九、郎代之、水野流師範羽生嘉右衛門・梶原源

左衛門・長野良左衛門武清高崎孫九、郎代之、下村要二、

金子流師範長山喜兵衛敷島貞伯、高弟也、無双流師範大瀬

源兵衛道具

○廿七日、家老西村源五右衛門時照致仕、

○廿九日、按察一向宗告官、如例、

○十二日朔日、牧直之進繼宗家、牧太郎右衛門家舊為家老組、然以直之進家平士降一等而為代代小

頭、

○二日、入美座半兵衛(家脱カ) 献太刀目錄、又献青銅百足

於孺人、賜上下一領半兵衛、孺人亦賜包物半兵衛

妻、

○三日、爲獲莖永邑池鴨發駕、到野間村而宿、

○十一日、嚮以榎本惣之進妻爲女子乳母與扶持米、又比年增加米三石六斗以命永可乳、

○十三日、上妻新七献斗搗之餅、如例、

○十六日、入種子島平左衛門時甫家、献太刀目錄、

献青銅百疋於孺人、賜上下一領平左衛門、孺人亦賜包物平左衛門妻、

○十七日、國老川上美濃久芳云、(命脱力)諸島牛馬皮官所用

之餘、皆繫於攝州兵庫津商人吉田喜兵次、因不可猥商賣、開事于左、

○九六 川上久芳申渡書

島々牛馬皮の儀、御用の外都て兵庫吉田喜平次へ一手買圓め被仰付置候付、脇賣一切不相成候、此旨向々へ不洩様可申渡候、

十二月 (川上久芳 美濃)

○十八日、御納戸奉行贈瀬落魚於孺人、開事于左、

(文書欠)

○二十日、命在逆旅之時、於朔望及比月之命日番頭代參、於正命日家老爲名代、而詣家廟及墓處可拜之、

○廿二日、本源寺墓所接僧徒墓、乱雜尊卑無別、由是命移僧徒墓於其側、以牆隔之、後可爲石垣、

○廿五日、西之村漁者四十四人、乘漁舟六艘出以釣、俄風興、波騰舟難浮、終不知其所往、即聞于官、

○同日、東市街之嘉三太船、爲載倉米到覺府、洋中遭逆風而漂泊諸所、漸著佐多尾波瀨、濕米三十三俵、佐多大泊問屋利八及尾波瀨之辨指等相集、以算其俵數、濯於水而乾之、船長庄藏來邸告之、直使下村惣十郎及足輕一人往而點見之、賞其勞而與米三俵于大泊利八及尾波瀨辨指等、

○廿七日、三箇寺・廿人家・鍛冶献上、如例、

○同日、以銀一兩爲破魔弓一飾、以金百疋爲穀代、夫婦獻普之進君而賀歲暮、

○廿九日、自増田邑歸府、

○同日、官屢命異國船漂來之候、不可緩平日之令、由是曩請於領地製白焰硝、以備夷賊之變、得免而製之、然產寡之故訴比年納價以賜白焰硝百斤、至翌年三月許之、國老島津安房久備傳命、記于左、

(文書欠)

○歲暮、規式、如例、

文政六種子嶋家譜 二十三代
久道 三十九

- 文政六年癸未正月元日、國上村猷野老、
- 同日、於奥座喫菖蒲茶見家老・物奉行・用人、
- 同日、拜持佛堂、詣本源寺番神堂、太刀役失其姓名、
- 於廣間與盃酒於家老・物奉行・用人、畢而見家老
- 組・組頭・諸奉行・平土、
- 二日、國上村猷瀨物、現和村庄司浦猷腹、
- 同日、覽馬、馬役羽生直一郎、

- 同日、八箇寺進上如例、名代種子島五郎左衛門政賢、
- 四日、上之郡庄屋・小觸進上、如例、
- 五日、大會寺歌會、久微以病家老羽生仙右衛門能寧代之、詠浦霞、其餘侍席不詳、
- 同日、賀新年、孺人猷着各一折於太守公・三位公・前太守公・大守公夫人・世子又三郎君・英姫君・於八百御方、又久微夫婦猷金子百匹於普之進殿、
- 六日、初狩、組頭西村十郎次・渡邊源十郎・西村次郎兵衛、山奉行宮浦喜右衛門・羽生嘉右衛門・西村太平次、久微觀夕狩場、家老知覽才兵衛行寬、物奉行種子島平左衛門時甫、用人西村甚四郎時宴、西之表庄官進上如例、夕狩場式終而諸隊按行歸城、於城門外呼士卒姓名、以點檢賜暇、
- 七日、中之郡・下之郡庄官進上、如例、
- 十日、西村仲左衛門寺入于西之村本因寺、即免之而禁謁見、昨九日夜、入河內覺右衛門宅而宴、時

召仲左衛門云、使荒木拙之助推海苔、仲左衛門云、推古人所惡也、如是商路塞則餓死者到死、曰必可死乎、曰雖不死幾死、因而責曰、野哉說利害、宜有時、當宴席妨其興大非不敬乎、於是仲左衛門親戚相議而使人寺謝罪、乃赦入寺而禁謁見、

○十一日、甲冑賀筵、如例、

○同日、本源寺軍陣・溫座祈念、如例、

○同日、觀的始、家老種子島五郎左衛門政賢・用人

西村十郎次、射手一番美座六七、二番下村善太郎、三

番日高惣七郎、八板李之進、

○同日、蓮勝寺進上、如例、

○同日、在郷諸寺進上、如例、

○赴安城村、爲狩也、

○同日、贈佳札于本能寺竝本興寺、

○同日、高橋轉種賢代久徵奉興國寺火消之命、

○十八日、以母孺人病上書請緩官暇、開于左、

(文書欠)

○廿四日、岩河六次郎、以誤留傳帖於己家、入于上西之表滿德寺而謝罪、即免之、

○廿五日、褒詞羽生藤太郎從東郷長左衛門而受盛矢於籠之傳、

○晦日、久徵及孺人詣本源寺、而詠聞鷲種子島五郎左衛門政賢・鮫嶋五郎兵衛宗以・西村甚四郎時

宴・西村四郎左衛門時貫・種子島平左衛門時甫、

講師梶原瀨左衛門景甫、講師下村新五郎時純、否

笠氏女沙門日可侍座、

○點檢丁夫・病夫・有職者而聞于官、如例、

○二月五日、久徵及孺人於廣間詠門柳、家老種子島

五郎左衛門政賢・知覽才兵衛行寬、物奉行鮫嶋五

郎兵衛宗以・前田太兵衛宗周、用人西村四郎左衛

門時貫・平山傳一郎武世、沙門日可侍席、講師梶

原瀨左衛門景甫、講師下村新五郎時純、

○十九日、油久村阿高磯新八船船頭安右衛門被禁旅行一年、坐運送米于覺府之中途遇風浪、投載米而

漂到于硫黃島、恣賣所殘之米、或稱謝禮而贈米於與勞之人等之事也、又以其所賣之米價做之於覺府米價、不足者及二十七貫三百八十九文、即使納之、連及叱水手孫市・安之丞、

○廿一日、締方横目深見十郎・國分與左衛門來、

○前太守公教諭孺人、命與久徵同盡力而宜省視母孺人病、開于左、

(文書欠)

○按察一向宗聞于官、如例、

○三月三日、使西村四郎左衛門時實講法令書、

○同日、與艾餅于三箇寺、慈遠寺獻同品、

○同日、賀瀨引、西之表庄屋進上、如例、

○十日、以平山二郎太夫爲物奉行、

○十一日、赴納官村濱津脇、爲射雉也、

○十二日、以日高源右衛門爲用人見習、長野良左衛門・西村七郎船奉行、西村喜右衛門加船奉行高奉行如

故 前田十九郎納戶奉行、河内熊右衛門兵具奉行、日高源七郎山奉行、

○十三日、羽生嘉右衛門以高奉行聽山奉行之事、役于近習役、今以高奉行少同僚、免近習役而出坐于高所、

○十五日、桂宇右衛門家來德永壽圓來而爲臣、

○廿七日、改寺奉行爲寺社奉行、且古來諸僧有事則就役僧訴之、命自今就寺社奉行須奏之、

○太守公定獵害苗獸之法、且命一門大身分以下不怠年頭節句朔望之登城、至諸有司、各守法令不可忽職事、開于左、

(文書欠)

○締方横目河野直左衛門・山口藤四郎歸、

○四月六日、納三狩所獲鹿皮于山奉行所、

○八日、異國方御用人田畑武右衛門禁私商唐貨、示糸荷船漂流之日處置法、如例、

- 十五日、以異國船來之候、國老新納内藏久邦・島津安房久備・川上美濃久芳傳長崎奉行令、如例、
- 廿一日、洪水、
- 廿八日、與米二斗于飛船船頭新平、使彼告急於覺府七日而往來之故也、
- 五月一日、流人踊郷土舊木佐貫氏源右衛門得赦而歸、三位公拜吹上御苑之故也、
- 五日、與粽二束于三箇寺、慈遠寺獻同品、
- 同日、見組頭・家老組・諸奉行・平士於廣間、
- 同日、獻肴一折于普之進殿、
- 十五日、盜偷下西之表三好休太右衛門錢十貫文、
- 十六日、為推鞠博奕召油久村百姓平五郎、昨日潛遁去不知行處、搜索之、在阿世知理兵衛宅地藪、即繫于牢、
- 知覽小右衛門禁錮二七日、坐為催馬樂邸番人與指宿仙蔵諍論也、
- 太守公賜書及菓子一箱于於隣殿、使知覽小右衛門護送之、廿一日、到此地、

- 國老川上美濃久芳・嶋津安房久備・新納内藏久邦傳令、命重出米出銀之事、開于左、
- (文書欠)
- 國老川上美濃久芳令堀殿衛、禁私商鬻金、開事于左、
- (文書欠)
- 按察一向宗告官、如例、
- 六月七日、觀瀨引於西之濱、諸式如例、獲龜及諸魚許多、家老種子島五郎左衛門政賢・時任丈左衛門時子等從之、
- 八日、許西村仲左衛門謁見、
- 十五日、以池野順悅為代々組士、以醫能勤仕、
- 同日、與高八石三斗二升七合九勺三才于鮫島九郎次、父五郎兵衛所賣於府庫之田也、九郎次勤仕於

吾左右十六年、猶欲使久勤仕于覺府、且憐其貧而返與之、

○同日、以種子島十左衛門時雍爲家老、

○廿九日、夏越式、如例、

○七月二日、慈遠寺本堂落成、

○七日、飾日深公鑑於廣間、家老時任丈左衛門時子拜之、

○八日、名代家老平山藤左衛門親好詣大會寺、

○十三日、詣慈遠寺而祭祖先・宗祖及戰死者靈、

○十四日、名代家老時任丈左衛門時子詣本源寺、而祭宗祖、

○十六日、名代家老種子島五郎左衛門政賢詣本源寺於方丈、祭祖先及戰死者靈、

○廿日、河島嘉軒寺入于滿德寺七日、西之村足輕調菜人名越惣四郎寺入于日輪寺三七日、河島役于覺府茶湯、名越爲調菜人、各坐其簿不正也、

○廿六日、馬追、馬役田上市郎・河内十郎・羽生平左衛門・鮫島孫右衛門、名代及物奉行・用人等失

姓名、

○廿九日、禁殺牛馬、開于左、

(文書欠)

○監察鬼利支丹宗告官、如例、

○八月一日、與中紙各二束于慈遠寺・大會寺、二箇寺又獻同品、

○同日、現和村近政休之進坐妄欺人掠財、或竊盜、或博奕、且殺牛而下獄三年、足輕鮫島清助坐欺坂井村百姓吉之丞、取其所有田而賣之、以其價博奕、且與近政休之進共殺牛而下獄百五十日、納官村周次郎坐於處々博奕、有與休之進殺牛之說、而下獄二百日、古田村之七右衛門坐犯禁博奕、有殺牛之說、而下獄百五十日、油久村足輕細山勇右衛門坐嘗博奕被罪今復博奕、而使修治道路五十日、同村足輕日高仙之進坐嘗受博奕之罪、今復犯之而使修治道路六十日、連及坂井村百姓彌六三十日、

金八十五日、六藏廿日、仲之進・兵左衛門各十日、油久村百姓平五郎・同村足輕山口万次郎・坂井村足輕古市甚太郎各十五日、納官村周太・足輕春田源五郎各二十日、同村足輕遠藤孝之丞・春田甚太・春田休次郎・春田幾次郎、油久村足輕山口新之丞・徳永貞之進、野間村足輕隅田八百八各七日、阿高磯辰次郎五日、金之丞・勘藏・喜之助各三日、美座三十郎僕下西之表五平太・同所六次郎坐再犯法博奕、而使修治道路六十日、六次郎五十日、連及古田村郷土榎本利八・下西之表小川新左衛門三十五日、下西之表日高文次郎・山崎六郎僕長四郎二十日、妙泉寺教存坊納贖錢二貫文、

○同日、野間嘉右衛門寺入于本因寺百日、三好平次寺入于本善寺百日、坐犯法博奕也、

○七日、居住人久保平内左衛門之政死、即告締方横目國分與左衛門・深見十郎、使西之表庄屋司葬送之事、以慈遠寺僧乘乘院等三人葬之、贈米六斗・錢二貫文助費、

○十日、以西村甚五大夫爲物奉行、

○十一日、以日高源右衛門爲用人、長野良左衛門用人兼組頭、西村七郎組頭、高崎孫九郎船奉行、上妻才次郎兵具奉行、鮫島甚之丞山奉行、

○同日、以河東茂兵衛爲一世小頭、以勤仕於勝手方也、

○同日、褒詞羽生六郎左衛門、賞多年就伊勢家學禮受皆傳也、

○十五日、蓮勝寺獻上、如例、

○十七日、締方横目市來中央・山口藤四郎來、

○十八日、久保七兵衛來、聞父病爲省視也、

○廿日、西之村西目小田之坊火、宗門手札等無恙、

○廿三日、以河東仲大夫爲馬役、

○以日高源右衛門爲慈遠寺社奉行、時任右源次大會寺社奉行、

○締方横目深見十郎・國分與左衛門歸、

○九月七日、廿人荒木拙之助寺入于浄光寺、欲強奸警女竹、或鞭笞之、或蹴踏之到昏倒、故及茲、

○九日、使長野良左衛門講法令書、如例、

○十七日、坂井村百姓傳之助宅火、延及市之進宅、宗門手札等無恙、

○廿日、與高一石八斗八升八合七勺九才于種子島十左衛門時雍、嘗所以困窮賣於府庫之田也、今十左衛門勤勞於職事、故返與之、

○廿一日、本源寺役僧蓮性院・本事院逼塞、叱寺社奉行西村四郎左衛門・西村十郎次、告時之鐘不合刻、故命正之、此輩謂無自鳴鐘之故不能正而拒命、故及茲、

○廿二日、孺人產女子、產弓知覽才兵衛行寬、

○十月五日、與米三石安城村、米四斗古田村、以數狩為村之煩也、

○九日、赦慈遠寺僧慈性坊之罪而復舊、

○同日、與米一石于慈遠寺衆徒、賞不厭勞而造營本堂也、

○十日、住吉村深川上妻儀右衛門寺入于本成寺七日、使儀右衛門取府庫之材、坐不得命而伐翳前之木

也、

○同日、納官村山役德永四郎右衛門寺入于日輪寺七日、德永源四郎寺入于清淨寺七日、坐使儀右衛門伐翳前之木也、連及叱山奉行、

○十五日、與米二斗于飛船船頭吉次、使告急於覺府七日而往來故也、

○廿四日、女子髮立賀、字婦美、使種子島三左衛門妻行其式、

○廿六日、之莖永村、爲獲鴨也、

○廿九日、東街市人柳右衛門船自島間港運送米、於納官村平田破船、

○十一月四日、現和村庄司浦仁三太宅火、延及市六家、燒宗門手札八枚、聞事于官、

○七日、連日西風大起波濤甚惡、見一大船宿碇于馬毛島及艱難、促舟欲救之不能、及九日少和、故發數艘救之、波浪猶惡而不可近、於是使善水者（編脱之）洲之崎浦政吉・池田浦喜太郎・海士泊浦政次郎三人游而乘本船、取楫操船、乃入港、是波見新助也者

船、自大島歸者也、櫓楫等大損、乃為粥與之、使士卒警衛之、

○十五日、與米二斗于政吉・喜太郎・政次郎、賞助新助船也、連及與米二斗于洲之崎浦金之丞・太藏

・仲五郎、鰯泊浦善次郎・喜三次・伊三次、池田浦太吉・政吉・惣吉、

○廿四日、以女子七夜賀、久徵及孺人獻肴代金子百疋太守公、同品前太守公、同品御内證御方、

○廿九日、以吉留仁左衛門為代々郷士、以鍛冶之功也、

○按察一向宗告官、如令、例

○十二月四日・五日、西街市人為歌舞伎於城内、以

慰母孺人病苦、

○七日・八日、使東街市人為歌舞伎於城内、

○十日、西街歌舞伎、如前、

○十三日、上妻新七獻斗搗餅、如例、

○十六日、出法禁狩獵使家老傳令於一島、開事于左、

〔文書欠〕

○廿日、莖永村百姓彌五七宅火、燒宗門手札三枚、聞于官、

○廿一日、平山村百姓仲之進宅火、人馬・手札無恙、

○廿七日、廿人家及三箇寺・鍛冶進上、如例、

○普之進殿賀歲暮而賜肴代二百疋久徵夫婦、夫婦亦獻破魔弓一節・肴代各百疋、

○以久徵在島故、北條織部守道上書、請來年正月以名代獻太刀、被許之、開于左、

〔文書欠〕

○晦日、詣本源寺而拜祖先墓、

○歲暮、規式、如例、

文政七種子嶋家譜 二十三代
久道 四十

○文政七年甲申正月元日、於奥座喫葛蒲茶、後見家老・物奉行・用人、

○同日、拜持佛堂詣本源寺番神堂、太刀役失姓、歸而與杯於三役、

○同日、國上村猷野老、

○二日、覽馬、馬役羽生藤太郎、

○同日、國上村猷瀨物、現和村庄司浦猷腹、

○同日、詣三箇寺、

○同日、八箇寺献上、如例、

○四日、上之郡庄屋・小觸進上、如例、

○五日、大會寺歌會、久徵及孺人、家老種子島五郎

左衛門政賢・平山藤左衛門嗣喜、物奉行前田太兵

衛宗周・西村甚五大夫時員、用人日高源右衛門爲

武・西村四郎左衛門時貞、講師兼宗匠美座六兵衛

時觀、讀師兼奉行田上市郎義福、沙門日可、各詠

浦霞、

○六日、初狩、組頭西村惣兵衛・長野良左衛門・西

村七郎、山奉行河内覺右衛門・鮫島甚之丞・日高

源七郎、夕狩場、名代家老平山藤左衛門嗣喜・物

奉行西村甚五大夫時員・用人時任宇源次、西之表

庄屋献上、如例、

○七日、中之郡・下之郡庄屋献上、如例、

○八日、慈遠寺歌會、久徵及孺人、家老種子島五郎

左衛門政賢・時任丈左衛門時子、物奉行美座半兵

衛時息・鮫島五郎兵衛宗以、用人西村次郎兵衛時

之・長野良太郎武清、講師兼宗匠美座六兵衛時觀、讀師兼奉行田上市郎義福、沙門日琮、各詠軒梅、

○九日、納官村坂元平太宅火、宗門手札等無恙、

○十一日、蓮勝寺献上、如例、

○同日、在郷諸寺献上、如例、

○同日、甲冑賀筵、如例、

○同日、本源寺軍陣・温座祈念、如例、

○同日、觀的始、家老羽生仙右衛門能寧・用人西村

甚四郎時宴侍席、射手一番美座六七、二番上妻庄太、仙九、三番日高周左衛門、八河内六七、郎、西村板西村孫西村太郎

○同日、奉興國寺火消命、

○同日、贈佳札于兩本山、

○十四日、褒詞慈遠寺寺役人寬照院、以勤勞本堂造

營之事也、

○十六日、西之村百姓七右衛門仕種子島次郎右衛

門、三日前以有過差次郎右衛門叱之、即出去、搜

索之不得、後見縊死于惣牟田川邊、即聞于官、葬

于隆盛院、

○廿日、與米一石・木綿二端于松下仲左衛門、賞每狩以仲間相從也、

○廿一日、官以今歲改宗門手札示其法、如例、

○廿五日、於城内廣間歌會、久徵及孺人、家老平山

藤左衛門嗣喜・時任丈左衛門時子、物奉行鮫島五

郎兵衛宗以・種子島平左衛門時甫、用人平山翁之

進武雄・岩河喜太郎時行、沙門日可・日琮・日清

・日敬、講師兼宗匠美座六兵衛時觀、讀師兼奉行

田上市郎義福、名詠門柳、

○賀年頭而孺人献肴代、各一匁五分太守公・三位公

・前太守公・同夫人・又三郎公・英姫君、二百足

御内證御方、又久徵及孺人、献金子二百疋普之進

殿、

○去歲以大凶年爲買米救庶民、載材於熊野丸、以次

兵衛爲船長、以三浦藤兵衛檢使五月発赤尾木港到

下之關商材、歸路、六月廿九日遇逆風、伐檣損楫、

隨風漂流、七月廿三日漂到于朝鮮國、廿七日破

船、九月十二日乘彼地之船、經三十一日而到釜山浦、船長次兵衛十一月十五日發書告之、其書今月達覺府、

○晦日、頃日有現和村近政平五郎者殺其姉之說、締方横目市來中央・山口藤四郎、吾横目長野良左衛門・日高源右衛門・西村甚四郎捕平五郎推鞠、竟白狀曰、去冬十二月廿日耕野歸而見姉者放火於吾家而逃去、即揚聲呼何故放火、入家救火不能、到姉庵責曰、爾放火於兄弟之家之賊、在世爲人害不可量、速縊死、姉亦惡聲叱咤、於是不堪怒執之踏之、以薪擊死、以索縊之、詐爲自縊者、又問曰、爾與姉平日有宿怨乎、曰、嘗祭祖先之日借器皿於隣家、促姉返之不肯、放火之朝、來吾家故言此事及諍論、別無異事、即下之於獄、聞事于官、

○同日、本源寺歌會、久徵及孺人、家老羽生仙右衛門^能道寧・知覽才兵衛行寬、物奉行鮫島五郎兵衛宗以・前田太兵衛宗周、用人西村甚四郎時寡・種子島友右衛門時宜、沙門日清、講師宗匠兼美座六兵

衛時觀、讀師奉行兼田上市郎義福、各詠聞驚、

○同日、以西村藏多・河内六郎時然爲馬役兼番頭、^主褒詞海士泊浦仲太郎・仲五郎・嘉吉・平太郎・小市、是徒去冬自馬毛島歸之中途、俄而西風大起、

波濤如山、時見池田浦善太郎船爲波濤轉覆、即廻船捨身命而救之、故賞之也、

○點檢丁夫・病夫・有職者而聞官、如例、

○二月五日、國上村祭山神之狩^{謂直命唯山奉行可狩狩}之禁其餘射手、

○六日、叱莖永村庄屋・横目、以失禮、於締方横目也、

○廿三日、納官村竹之川塩釜破、火焰觸擊三平・伊三次者、三平即死、伊三次幾死、事達於締方横目、

○廿五日、現和村百姓太七縊死、締方横目本田喜八・川上源七郎、吾横目時任右源次・西村次郎兵衛、監察而聞事于官、

○廿七日、住吉浦次郎吉船自島間浦運送米於覺府、

中途遇逆風而漂到于久志、破船而載貨盡流沒、水手等無恙、

○吾地水手仲右衛門・甚作・甚七・孝右衛門・万蔵・次郎・三四郎、去歲爲天滿丸水手漂到于清國、今歲乘來朝之船而歸長崎、故國老町田監物久視傳長崎奉行命、琉球國外禁他國旅行、如例、

○按察一向宗告官、如例、

○三月三日、使西村十郎次時興講法令書、

○同日、與艾餅于三箇寺、慈遠寺献同品、

○同日、賀瀬引而西之表庄屋献酒肴、

○同日、北條織部上書請隨孺人來梅北新兵衛以有病歸家、開事于左、

(文書欠)

○十七日、流人仙吉坐盜現和村庄司浦吉之丞所蔵之和鼈甲而賣之於牧瀬仁兵衛下獄、

○廿一日、締方横目市來中央・山口藤四郎販、

○廿五日、與木綿布二端于榎本善次郎、以下島以來役于僕也、

○廿八日、梅北新兵衛歸、

○同日、名勝誌再撰方橋口今彦傳命、告細記種子島高山大川・神社佛閣・村落里程・名所舊蹟、其他出產等之事而可呈之委記別格、

○廿九日、用頼染川伊兵衛來、

○去歲漂到于清國水手喜蔵・次郎右衛門・源次郎・

休次郎・善太郎、今歲販長崎、是月到覺府、

○納三狩所獲鹿皮於山奉行所、

○四月二日、以上妻七兵衛爲用人、近習役如故、

○三日、褒詞上妻七兵衛就川上十郎左衛門學鎌倉流調馬受其傳、

○八日・九日、久徵及孺人、詣本源寺而修大歡院殿

二十五年忌、初日八講眞讀、結日頼寫說道、母孺人名代西村次郎兵衛、久美・婦美名代西村仲右衛門、時中及佐登名代種子島丈之助、良照院・清壽院名代西村熊之助、庄次郎名代西村惣兵衛、法事

奉行長野良左衛門・時任右源次、靈膳奉行西村權右衛門・上妻小左衛門、手下下村惣太郎・美座庄左衛門、

○同日、異國方御用人田畑武右衛門、禁私商唐貨、

示糸荷船漂來之日處置法、如例、

○十日、以家村清兵衛爲用頼、

○十一日、叱住吉村庄官・横目、以染川氏詣住吉明神之日接待甚疎也、

○十四日、以修大歡院殿二十五年忌、赦莖永村平吉

・中之村金六・其子金之丞・現和村鯨島與平次女、

○國老町田監物久視豫傳命、告放流自大阪之流人可四五人於此地、開事于左、

(文書欠)

○十五日、以異國船漂來之候、國老新納内藏久邦・

嶋津安房久備・川上美濃久芳傳長崎奉行命、如

例、

○十八日、奉官命、書記日窓公自龍伯公所賜之鎧及於朝鮮所服之鎧而呈之、開事于左、

○九七 種子島久時鎧由緒書

鎧壹領 緋威 最上胴

冑 但シ五枚 素掛

立物 茗荷

越中頰 但五所素掛菱ノ板ニ茗荷紋有り

祖傳 但六紋五所素掛裝束ノ板水引有り

籠手 但なます手甲 諭石一重鎖

身甲 對向蝶番ツカヒ

胸板金具廻り金梨地 但茗荷金紋有り

下散六間下り 但三所素掛菱縫

襟籠手隱シ 亀甲仕立

臺座金物赤銅ニ唐草置揚 但總角結有り

佩楯 但板佩立四下り塗黒抱茗荷

家坑 籠手ニ同シ

歴當 但五本篠 白禮鎗石鎖

家坑佩立ニ同シ

右、天正十一年可癸未 太守義久公薩州田布施山御狩の節、十六代左近大夫久時十六歳ニテ御供仕リ、無双之大猪御前近ク參リ怪我人等有之、久時右ノ大猪ニ跨リ刺留候節、為御褒美頂戴被仰付候、

○ 九八 種子島久時鎧由緒書

鎧壹領 卯花威まはなごゑ 小札こざ

胄 筋四十八間 但金筋ニ八枚

二方篠垂

眞之八幡座

三枚笠 鞆角本有り

喉輪 頬なし

身甲 但筒丸仕立

胸板 金具廻り正平皮包

但獅子牡丹

下散六間五下リ

祖傳 法之通

但大袖

右鎧、左近大夫久時慶長二年丁酉日本諸將再朝鮮渡海、同三年戊戌十一月總勢帰朝之節、大明の兵海陸を塞大合戦之節、久時敵船へ乗移リ強敵数多討取候、其節胸板へ一矢を受ケ札四枚折申候、

○ 九九 役所覚

覚

御先代由緒有之候御鎧申出候様被仰渡趣有之、別紙之通御坐候間、都て能御取計被成度御坐候、委細之儀染川伊兵衛様御承知にて、右書月日等之儀宜御心配被成度御掛合申達候、以上、

四月十八日 御役所

平山藤左衛門殿(副書)

種子島十左衛門殿

○廿一日、染川伊兵衛歸、

○以御船奉行令、記去々年西之村漁人釣而遇逆風而不販者之字而呈之、開于左、

○一〇〇 西村惣兵衛・高崎道直連署届書

一瀬渡舟壹艘 船主種子島西之村

新右衛門

乗組水手七人

伴右衛門 榮八 與次郎 與吉 孫之進 善助

周之丞

同所

一同一艘

與平次

乗組水手十二人

與之助 次郎右衛門 曾吉 周吉 休右衛門 元

吉 金次郎 瀧右衛門 權次郎 權五郎 武助

利八

同所

一同壹艘

善助

乗組水手七名

嘉助 善平 彌助 金藏 休太 長太郎 太助

一同壹艘

同所

清次郎

乗組水手六名

嘉三太 善四郎 五平太 兵十郎 虎次郎 喜市

一同壹艘

同所

休助

彼岸次郎 孫九郎 休之進 紋之丞

同所

一同壹艘

長市

善藏 長八 清之丞 五平次 百次郎

合六艘

乗組合四十四人

右之通御坐候間、此段御申被下度奉存候、以上、

申四月

種子島浦方役人

高崎孫九郎

西村惣兵衛

種子島

御役人衆中

○五月一日、以平山翁之進爲納戸奉行、宮浦喜右衛

門普請奉行、

○五日、與粽各二束于三箇寺、慈遠寺獻同品、

○同日、普之進殿賀端午、而賜有一折于久徵夫婦、

○八日、以長野良左衛門爲組講釋人、

○十二日、北條織部守道上書、(讀)講緩久徵夫婦官暇、
被許之、開于左、

(文書欠)

○十六日、縣官命改鑄金銀一朱判・二朱判可以通寶、

○晦日、現和村横目榎本覺兵衛寺入于妙昌寺三七
日、犀川仁平太寺入于清淨寺三七日、小山田平吉
寺入于妙昌寺三七日、庄屋羽生平太左衛門寺入于
清淨寺三七日、不告近政平五郎宅焼失且殺姉之
事、坐大失其職也、

○同、使平山傳一郎武世講孟子於本源寺方丈、

○國老新納内藏久邦命官於山川、以綿實製油而賣
之、有小毒、不當食用、

○按察一向宗聞于官、如例、

○六月二日、以田上市郎爲組講釋人、

○三日、以高崎孫九郎爲組頭、

○四日、御船奉行東條半右衛門傳命、令以今歲點檢
大小船爲至其期無煩雜豫宜點檢、

○十六日、午刻異國船來於大崎洋、船奉行告之、即
到古城原見之、到花里濱洋船長可三十間、檣三本
又有斜立檣、張布帆旌旗數十、不論風順逆而來往
甚自在、不用碇而能留船、漸近來一里許、攀危檣
縋繩索者如猿、有功於船者視而謂、是伊奴鬼利須
也、於是放三鐵砲於矢倉臺、傳信招諸士、諸士各
携兵爭先到城中、家老種子島政賢・知覽行寬・時
任時子・羽生能寧、物奉行前田宗周・西村甚五太
夫時員・上妻宗義、用人渡邊源十郎直・長野良左
工門武清・平山武世・西村時興・時任右源次時(ト)
・西村甚四郎時宴、船奉行西村惣兵衛時(ト)・高崎
孫九郎道直・西村七郎時民・平山一右衛門友章會
船手而令諸事、大崎塩屋釜司者來曰、異國人七人
乘小舟而到大崎、徘徊塩戸、其躰、面甚赤如着紅

粉、髮赤縮曲、目多白眼、頭戴帽、身服氈衣、腰鐵砲、長許尺五寸、言語不通、與小魚・甘藷等於之、則喜受之、食生藷・生蒜葷・鮮小魚、喫酎酒之糟、彼亦贈麥餅・小刀、其風大異尋常人也、乃異國方用人渡邊源十郎直・高崎孫九郎道直、內橫目上妻庄次、船功者荒木拙之助赴之、又使小頭下村惣太郎・田上市郎率組下行備不虞、到則已乘舟離岸、時放二鐵砲、去七時也、組頭平山武世・西村時興引一番組諸士七十餘人及足輕而守大崎、上西之表郷士・足輕亦隨之、二番組頭時任右源次時(平)・西村時民・西村時宴、三番組頭西村仲左衛門時(平)・美座時資、各率諸卒而屯慈遠寺、三箇寺僧徒誦經析海賊退散、令西市街備火、且傳令於一島諸村、若有異國船則速告之、安城村・現和村・安納村・住吉村横目・郷士・足輕等盡來、十八日、増田村・油久村村吏亦來請受役、命各守其村有急則速告之歸之、是日、催雨海天濛濛不知在處、及晚見在離馬毛島三四里、十九日、不知行處、平山

氏・西村氏自大崎歸慈遠寺、廿日、三組頭各按隊至城下、久徵以病家老羽生能寧代之、於城門外賜暇、留八板藤角・羽生藤太郎於慈遠寺而猶備不虞、

○廿日、促飛船使日高源右衛門・羽生嘉右衛門、告異國船到來于本府、開于左、

○一〇一 種子島五郎右衛門・知覽行寬連

署覺

覺

今日晝九ツ時、府本より行程一里半餘相隔たり居候大崎塩屋沖ニ異様の船一艘相見え、折節風浪強く忽ち一里餘の所へ近寄り候て、本船ハまぎり居り、橋船卸し候模様見及ヒ候段、塩屋の者申出候ニ付、掛役々馳付け申候処、最早橋船ニ乗付き、陸地漕離れ間に合ひ申さず、在所の者共相糺候処、人数七人橋船ニ乗組み、三人ハ残り居り四人陸ニ上り、銘々衣類下ニハ股引の様なを着し、

上ニハ赤色又ハ黒色等の袖小さき物を着、胸合くわいあひは牡丹掛つばきにて、頭ニハ頭巾或ハ笠を着け、人の恰好常躰じょうたうより少シ長く、髪かみの毛薄赤縮み、口髭くちげ同様、眼常人と違ひ、言語不通、或人ハ長サ一尺四五寸の鐵砲所持致シ、其の近辺徘徊致候ニ付女共ハ逃去り、少人数の場所故、時分柄大形作式等ニ差越シテ兩人罷在、大ニ驚き入り前後當惑ニ及び、野菜鯨くじらご少々有合ハせたるニ任せ差出候処、甚喜悦よろこびの躰たうにて、返礼の心入にても候哉、菓子一・小刀と相見え候物前ニ差出シ置候得共、互ニ言語相通シ申さず、其俣召置申候處、立去候砌打捨て置き端船ニ乗り付候、煙草の火杯貰候儀御座なく候処、火打鏽くさにても御座候哉、直ニ鉄砲ニ発打ち沖おきに漕出シ申候、端橋はなはしの儀ハ川渡船之様にて、やこを以て餘程速ニ往来シ、何ぞ狼藉ろうじやくなど仕たる儀御座無き段届け申候、委敷ハ見分け難く御座候へ共、船長さ三十間餘も有之可き哉、帆柱ふちゆう三本、外ニ表の方ニ横ニ出シ候柱一本有之様ニ見え、白帆

多く掛り、大概阿蘭陀船ニ似寄り申候へ共、船印御坐無く候ニ付、外國の船ニても御座あるましくやと船功者申出候、本船三四里の處を、向ふ風にも構かまひ無く終日北南へ往来致し、夜に入る前西洋へ向け行辺相知れ申さず候、かねて仰せ渡され置候通、在々浦々多人数を以て勤番申渡し候、猶又以来の形行ハ追々申上べく、依て此旨飛船を以て御披露仕り候、申上らる可く候、以上、

但豫て仰せ渡され置候通り、兩人差登せ申候、

知覧ちらん才兵衛

申六月廿日

種子島五郎右衛門

平山藤左衛門殿

○同日、官繫東市街賣人柳田慶蔵於獄、坐私商砂糖也、開事于左、

(文書欠)

○廿七日、命能守縣官之法不可怠異賊之備、開于左、

○一〇二 申渡書

異國船の儀ニ付ては公邊ニ對し輕からざる事ニ候、然ル處今度異様の船相見え候ニ付てハ、万一不束の儀有之まじく哉と、甚以て心遣ひ候處、其後相見えず一先安心ニ及び候、此涯猶以て仰せ渡され置候趣一入念候様、在々浦々ニ至る迄委敷申渡す可く候、

右、如例可申渡候、

六月 役人へ

○廿八日、以異國船來國老新納内藏久邦・島津安房久備・北郷内記久珉・町田監物久視・川上美濃久芳遣書、命若不殘置異國人乎、按察島中而可聞之於官、開事于左、

〔支書欠〕

○褒詞現和村・安納村村吏、異國船到來之日村吏及郷士・足輕速馳來而請命、平常不怠事之志堪賞矣、故及茲、

○叱國上村村吏、十五日異國船到國上村洋、有見之者、不告村吏、故十六日來大崎之時、事起於不意大妨號令、平日怠一村之令而失其職、故及茲、

○浦田浦辨指納科錢一貫文、為浦長雖見異國船不告之、異賊生變則國家大事也、然今如是、故罪之也、

○叱住吉村村吏、以異國船到來之日有違令之事也、

○叱油久村庄官、坐異國船來之日留滯傳令於島中之傳帖也、

○國老町田監物久視命諸郷有訟獄本府諸有司及足輕等行而治之時、於其費用分賦之於其地庶人可以償之、開事于左、

〇一〇三 町田久視申渡書

諸所ニ於て入組等これ有る為御詮儀、御裁許掛並ニ横目及足輕差越され候節、諸失費等の儀ハ本人相除き、其郷の人別ニ相掛け出張致させ相償ふ可く候、尤所役々迄も糺方等致候節ハ、銘々自分賄ひ申付け候事ニ仕出候者御當地列れ越シ候節、幸領人等失費ハ外御用ニ付差越シ候節の通り申付候との趣は、先年来追々申渡置き候処、程過ぎ心得違の向も有之哉ニ相見え、然る可らざる事ニ候条、已来急度申渡シ候通り忘却なく相心得可く候、

右致通達、末々迄も致承知候様、地頭・領主其外可承向へ可申渡候、

六月 (町田久視)
監物

〇國老町田監物久視傳命、告大坂流人巳之助・七兵衛見放來、示其法令、如例、

〇縣官改鑄金銀之故、過來年酉二月則禁用故金銀、

〇晦日、賀夏越而西之表庄屋獻西瓜一臺・鯛一双、

〇七月三日、御船奉行所問何故不聞異國船到來之事乎、故寫所呈異國方之底册以聞之、異國方告用頼曰、異日有是等事則就御船手亦宜聞之也、

(文書欠)

〇七日、召用頼染川伊兵衛於異國方、禁語異國人上陸、或與食物、或彼贈菓子・小刀等之事、且有洩於上疏之事宜聞之也、國老町田監物久視傳命、開事于左、

〇一〇四 町田久視達書

種子島伊勢

右者、先月十六日種子島沖ニ漂來の異國人橋船より上陸致シ候砌、其邊の者共小魚等差出候処、異國人よりも刃物等差置候段相達し、別段取締り向キの儀申越候通ニ候、異國人の儀ハ輕き品迎も相

渡さざる大法ニ候、乍然水・薪拂底の段望み出候は、其節の時宜次第ニ候、依之異國人上陸致候折、小魚・野菜相與へ彼方より刃物・菓子残置候儀、且翌十七日馬毛瀬辺へ右船等數相見え居り候等の文言惣て相除かれ、種子島沖へ異國船相見え異國人七人橋船より渚迄漕寄せ候へ共程なく本船へ乗り帰り候旨、其邊へ罷居候漁人共申出候、依之追々役々差越候處、遙沖合ニ走出、既ニ夜ニ入り候ニ付陸より相守居候、然る處翌十七日雨風強く、何方へ乗行候儀相分らざる趣にて公邊へ及御届ニ、長崎御奉行へも同断及御届候間、他領の者ハ勿論、御領内込も前条御届ケ向相除かれ、文意の趣一切口外致さる様、領分末々の者までも^(一)吃と申渡置かる可く、萬一相洩れ公儀御糺方ニ及バ^(二)れ候儀共到来致候てハ、御難題の事ニ候間、旁々其意を得らる可く候、

右、可申越候、

七月

(町田久規
監物)

種子島伊勢^(久通)

用頼に

○同日、飾日深公鑑于廣間而當番拜之、

○八日、知覽才兵衛行寛詣大會寺、而祭先祖・宗祖及戰死者靈、

○同日、用頼染川伊兵衛上疏、聞異國船到來始末無違於所向聞、開事于左、

(文書欠)

○十三日、名代時任丈左衛門時子詣慈遠寺、而祭先祖・宗祖及戰死者靈、

○同日、普之進殿賀生身魂、而賜有代金子百疋于久徵夫婦、

○十四日、名代羽生仙右衛門能寧詣本源寺而祭宗祖、十六日、於方丈祭祖先及戰死者靈、

○十六日、上疏告按察一島而異國人不在、開事于

左、

(文書欠)

○廿日、以美座六太郎為馬役、

○廿一日、河内源四郎政休為普請奉行、

○同日、以渡邊源一郎直為講釋人、

○同日、叱最上孫右衛門、坐為平山村稅吏而簿書不正也、

○廿一日、國老町田監物久視傳命、告去年八月所漂到朝鮮國之熊野丸水梢等、五月廿八日到長崎、翌

廿二日從奧四郎而歸本府、開事于左、

(文書欠)

○廿六日、家老平山藤左衛門問患狂而囚於私室者得快氣之後得奉家否於用頼染川氏、染川氏示其法、如左、

(文書欠)

○七月、按察鬼利支丹宗而告于官、如例、

○八月一日、與中紙各二束于慈遠寺・大會寺、慈遠寺・大會寺獻同品、

○同日、赦大山五右衛門竝女子國老新納內藏久邦傳命、如左、

(文書欠)

○同日、官赦所嚮見放來之素麵門名頭源右衛門、開事于左、

(文書欠)

○五日、以西村甚五太夫時員為物奉行、

○六日、國老町田監物久視傳長崎奉行命、許漂到朝

鮮國三浦藤兵衛及水梢等旅行、開事于左、

(文書欠)

○九日、與赤米二石于三箇浦水手、以長留滯此地而勞役甚滋之故也、

○同日、使公儀流人仙吉出牢、

○十二日、以有異國船伊須來七島寶島而及狼藉之事、國老新納内藏久邦・北郷内記久珉・町田監物久視・川上美濃久芳傳命、令無怠異賊之備、開事于左、

○一〇五 川上久芳外三名連署申渡書

去月八日、七島の内寶島へ白帆の異國船壹艘漂來、橋船より異國人上陸致シ、旁狼藉ニ及び手に及はず候ニ付、彼の島へ遣され置候横目、鐵砲を以て異國人壹人打留め候処、残り人数小船へ逃歸り、直ニ出帆致候段申越候へ共、乗戻シ候儀も計

り難く候ニ付、取締の為物頭鳴津権五郎へ御兵具方與力六人・同足輕三十人相添へ差遣され候条、領分浦々晝夜チカヤ心掛け吳様の船見掛候は、早々申越シ、かねて申渡置候通り手抜き無き様、種子島へ可申渡者也、

八月十三日

新納内藏印(父惣)

北郷内記印(父惣)

町田監物印(父惣)

川上美濃印(父芳)

種子島伊勢殿

○同日、以太守公夫人薨、禁殺生・鳴物十日、禁作事及漁獵一日、

○十五日、蓮勝寺献上、如例、

○廿八日、締方横目野崎四郎次・河野次兵衛來、

○同日、國老町田監物久視命異國船到來之日以飛船二艘同案二通可告之、開事于左、

(文書欠)

○閏八月朔日、島津讚岐貴典臣東郷十左衛門贈書、問慶長中祖右馬頭以久移封所住之古迹・菩提所心翁院寺跡、開事于左、

(文書欠)

○四日、以鮫島孫右衛門爲納戸奉行、

○五日、以中之村・島間村・西之村・納官村・坂井村之田地不熟請檢地、家老・郡奉行議而減其賦、

○十三日、馬追、名代家老・物奉行・用人失姓名、馬

役前田次郎左衛門・國上伴九郎・西村權太夫・羽生直一郎、諸式如例、

○同日、上疏請緩官暇、開事于左、

(文書欠)

○十七日、以荒木拙之助爲船頭役、長勤仕于船手、

以異儀俚須船漂到之刻多勤勞也、

○同日、公儀流人已之助・七兵衛見放來、横目東郷半之允、同心湯田仲八・松元休兵衛護之而到、締方横目本田善八、家老知覽才兵衛行寬・羽生仙右衛門能寧、横目・物頭出迎之而受流人、開事于左、

(文書欠)

○十八日、與赤米二斗于飛船船頭二郎吉及水梢等、

來往覺府邸五天、賞其速也、

○同日、中之村中村門名子次右衛門釣于西之村加登倉岬而溺死、聞事于官、

○廿二日、與眞米二斗・赤米二斗于二十人荒木拙之助、以屢到其宅而爲遊宴、或借器皿、或丁役家累有煩生計也、

○廿五日、締方横目川上源七郎・本田善八歸、

○廿七日、名勝志再撰方問覺府邸何年自何處移來

否、開事于左、

(文書欠)

○同日、使慈遠寺住職南光院、為本源寺住持格時本
無使監兩寺之事、

○町田監物久視示異國船到來之日處置法、開事于
左、

○一〇六 町田久視申渡書

浦抱候諸所

地頭

領主

大番頭

先達て七島の内寶島へ白帆の船漂來、異國人上陸
致シ狼藉ニ及候砌、横目吉村九助鐵砲を以て吳國
人一人打留候始末、時宜相當の働に候、此以後何
方の浦にても自然吳國船漂着候は、委曲相糺シ、

何國の船竝ニ言語・文字相分らず候とても、手様
を以て相尋差知、食物・水・薪等拂底之趣候
は、其場ニ相與へ叮嚀ニ申シ諭シ無難帰帆致す
べく、乍然万一不法の働致候は、時宜相當相計ら
ひ候様、尤頭役の儀ハ夫々勤辨も有之候へ共、
未々ニ至り候てハ右様之辨薄く、粗忽の働等有之
候てハ然るべからざる事ニ候間、島々へハ勿論、
津々浦々未々の者共前文の趣意取違無き様心
得、万一不法の儀到來候は、此節躰の取計ひ當然
の事ニ候条、未々の者迄右之趣豫て相含ミ居候儀
ハ、不洩様屹と申渡さる可く候、

右、可申渡候、

閏八月

(町田久視)
監物

○同月、應名勝志再撰方之索而、探家譜求日記採可
徵以呈之、開于左、

○一〇七 田上義福・遠藤壯兵衛連署覚

覺

此節鹿兒島表屋敷相立候年間調へ方仕申出候やう被仰渡、家譜・文書等儘ニ相知れ不申候、寛陽院様御意にて左近大夫忠時夫婦共混と鹿兒島へ相詰め候ハ寛永二十年六月にて、當分屋敷にて御座候、然れハ寛永十九年三月十九日、堀之面織田勘解由様火本にて屋敷西北隣悉く焼失仕候由相見え候ハ、已前より屋敷建立と相見え候、

一 當屋敷より以前の屋敷ハ當時御厩地と相傳へ申候、

一元和六年三月忠時於鹿兒島元服、寛永三年 中納言様御姫忠時へ御結納、同八年婚禮、寛永十三年七月十九日中納言様御光儀等相見え候へ共、何連の屋敷と申す儀分り不申候、

一 慶長三年左近大夫久時朝鮮より惟新様・中納言様御供仕り於伏見御家老職被仰付、同年十二月濱之市へ屋舖召建候由御座候、右之外琉球館等の儀一切見え不申候、依て此旨申出候、以上、

閏八月

遠藤壮兵衛

田上市郎(義徳)

○九月八日、北條織部守道上疏、請緩久徵夫婦官暇、開事于左、

文書欠

○九日、使日高源右衛門為武講法章於廣間、

○十六日、本源寺名代時任丈左衛門時子、

○十九日、以高崎孫九郎道直為組頭、

○同月、以平山傳一郎武世為物奉行、

○十月朔日、以普之進殿生日、久徵及孺人、使用頼染川伊兵衛獻肴一折、開于左、

文書欠

○同日、普之進殿賜御肴代青銅百疋于久徵及孺人、

○二日、坂井村百姓文六宅火、人馬・手札無恙、聞于官、

○廿一日、以玉貌院殿五十年忌、孺人獻白銀三匁、

○廿八日、賜太守公夫人遺物數品于久徵及孺人、記事于左、

(文書欠)

○十一月朔日、國老北郷内記久珉傳命、赦所嘗囚於獄之足輕柳田慶藏、

○二日、以河内十郎政始為山奉行、

○十六日・十七日、三役・組頭覽諸士武術槍・天眞流・性一流・眞影流・水之流・無双流、於廣間庭上、師範家・三役・組頭失姓字、

○十九日、三浦藤兵衛慎三十日、熊野丸船頭西町市人次郎寺入六個月、以去年漂到朝鮮國之日有不正之說也、

○廿七日、以服部矢平次為代々足輕、

○廿九日、夜增田村半次郎宅火、人馬・手札無恙、告事于官、

○同日、使西町野町人桶口六次郎納科錢四十貫文、渠嘗造商船之日約永載府庫之財以借錢穀、直往浪華而賣之、未納木代銀坐且大失信也、

○按察一向宗告官、如例、

○十二月三日、大風洪水、莖永村岸崩椎木門名子六太郎妻及女子當・藏、井手平門名子七藏男子犬之子壓死、締方横目野崎四郎次・河野次兵衛、吾横目長野良左衛門武清・渡邊源十郎直至莖永村、檢視屍告官、

○八日、與赤米一俵于野町人新原治平、嚮西風強大載米船甚危、新原出群能保護故也、連及褒詞八板作右衛門・榎本新四郎、與赤米二斗于池田浦喜太郎・周太郎・儀平太・新次郎・万四郎、蟹泊浦藤之助・岩吉・辨吉・佐吉・友吉・嘉吉・庄五郎・政次郎、洲之崎浦七太郎・清五郎・政吉・喜平太・休太郎・仙吉、

○十二日、為慰母堂病苦東街・西街之徒成俳優於廣
間庭十二日至十八日、

○十三日、上妻新七獻餅、如例、

○十八日、住吉村保正上妻市次郎寺入于油久村本隆
寺、催子長四郎・仲太入炭五俵贖罪、共以有不正
之說也、

○十八日、禁壞街道而為畑、

○廿七日、三箇寺・二十人・鍛冶進上、如例、

○同日、久徵夫婦獻破魔弓一飾・肴代青銅百足于普
之進殿、普之進殿亦賜肴代青銅百足于久徵及孺
人、

○歲暮、規式、如例、

文政	廿三代
種子島家譜	四十一
八年	久道

- 文政八年乙酉正月元日、於「奥座」喫「菖蒲茶」、后見「家老・物奉行・用人」、
- 同日、詣「本源寺番神堂」、下村珠兵衛持「太刀」、歸而於「廣間」賜「盃酒于家老・物奉行・用人」、畢而組頭・家老組・諸奉行・諸士見、
- 同日、國上村獻「野老」、
- 同日、普之進殿賀「新年」賜「肴代金子百匹于久徵

夫婦、

- 二日、覽「馬」、
- 同日、國上村獻「瀨物」、現和村庄司浦獻「鯉」、
- 同日、詣「于三箇寺」、
- 同日、八箇寺獻上、如「例」、
- 同日、賀「新年」孺人獻「肴代各七匁五分于 太守公・三位公・中將公・少將公・英姫君、金子百足于御内證御方」、又久徵夫婦獻「金子百足于普之進殿」、
- 四日、上之郡庄官・小觸進上、如「例」、
- 五日、大會寺歌會、久徵及孺人、家老羽生仙右衛門能寧・知覽才兵衛行寬、物奉行上妻九郎左衛門宗義・鮫島五郎兵衛宗以、用人西村次郎兵衛時之・日高源右衛門為武、講師宗匠兼美座六兵衛時觀、讀師奉行兼日高杉右衛門實保、沙門知了、各詠「浦霞」、
- 六日、初狩、組頭美座三十郎時資、西村甚四郎時宴・高崎孫九郎道直、山奉行河内覺右衛門・河内

十郎・日高源七郎・西村太平次、夕狩場、名代種子島十左衛門時雍、物奉行上妻九郎左衛門宗義、

用人西村次郎兵衛時之、西之表庄官進上、如例、

○七日、中之郡・下之郡庄官獻上、如例、

○八日、慈遠寺歌會、久徵及孺人、家老種子島十左衛門時雍・知覽才兵衛行寬、物奉行種子島平左衛門時甫・平山傳一郎武世、用人西村次郎兵衛時之

・渡邊源十郎直、講師宗匠兼美座六兵衛時觀、讀

師奉行兼日高杉右衛門實保、沙門日琮、各詠二軒

梅一、

○九日、觀二山鹿流及新流軍陣行伍之備于廣間、

終而賜三盃酒于師範西村四郎左衛門・美座正左衛

門流盡于門弟一、

○十一日、甲冑之賀筵、如例、

○同日、本源寺軍陣・温坐祈念、如例、

○同日、蓮勝寺進上、如例、

○同日、在郷諸寺獻上、如例、

○同日、的初、名代種子島十左衛門時雍、用人長野

良左衛門武清、射手一番美座矢太郎、二番上妻七郎左衛門、

善次、三番日高勳太郎、西村仙九郎、下村八板孫太郎、

○同日、以二日高杉右衛門一再為三高奉行一、

○同日、奉二興國寺火消之命一、

○同日、贈二佳札于兩本山一、

○十五日、家老平山藤左衛門嗣喜致仕、

○十八日、納官村牧見舞日高吉左衛門納二科炭廿俵、日高五左衛門十俵一、以違二馬役之令一也、

○廿日、本源寺歌會、久徵及孺人、家老羽生仙右衛門能寧・時任丈左衛門時子、物奉行上妻九郎左衛

門宗義・平山傳一郎武世、用人西村甚四郎時實・

長野良左衛門武清、講師宗匠兼美坐六兵衛時觀、

讀師奉行兼日高杉右衛門實保、沙門日僉、各詠二

聞鶯一、

○廿日、女子患二麻疹一愈、

○廿五日、於三城内一歌會、久徵夫婦、沙門日僉・

東乘・知了・寬照・信行、家老羽生仙右衛門能寧

・時任丈左衛門時子、物奉行上妻九郎左衛門宗義

・種子島平左衛門時甫、用人日高源右衛門為武、

講師宗匠兼美座六兵衛時觀、讀師奉行兼阿世知圓

右衛門良夫、各詠門柳、

○廿八日、以西村惣次為馬役、

○點檢丁夫・病夫・有職者等一告于官、如例、

○二月朔日、池田浦水手從古有二十人、今以困窮一除二人于洲之崎浦・^(號)窪泊浦二人于田舎浦、

○同日、種子島次郎右衛門來、為蕃殖此地之產物也、

○同日、長野休太右衛門寺入于滿德寺、一旦嗣三好家、今有所思復本氏、然嗣三好家之時、措長野家相續之事不請之、故坐怠慢及茲、

○改諱久道、避世子公之諱也、

○十一日、令廿人八ヶ代平作禁錮、對種子島次郎右衛門有失禮事、以盲目減罪及茲、

○十五日、締方横目久保七兵衛・相良與左衛門、札改檢使村田市助・天辰助七來、

○十六日、與銀一貫目于種子島十左衛門、以負債之事取陸登坂、故與之以助費、

○十九日、國老島津但馬久風・町田監物久視・新納内藏久邦傳・太守公之命、令慎言行能可守禮讓、事開于左、

二〇八 新納久邦外二名連署達書

御領國中御取締向ニ付而者、每度被為及御沙汰、去秋

御發駕前細々被仰出置候處、又候不慮之儀致到來、兎哉角取締も行届兼、且又年若之者と八乍申、兼而被仰出置候、御趣意者厚奉汲受、吃与相愼可致勘弁之處、右様之弁も無之一己之様相心得、破事候儀不忠不孝之至不届至極被思召上候、依之以來者猶又仰出之趣深汲受、年若之者共江親兄弟身近者より、稠敷行跡令教訓、互禮讓

を以相交候風俗ニ成立候ハ、右様理不尽之儀も有之間敷、乍其上自然取守薄挨も有之候ハ、夫々取計様も可有之事候間、大目附以上者勿論、大番頭・御小姓與・番頭等、猶又申談、一涯取締向行届候様吃与可相計、左候而時々見分之趣可被間召上旨 御沙汰被為在候条、難有可奉承知候、風俗之儀ニ付而者每度被 仰出、別而取締向申渡有之候得共、追々不慮之儀致到来、兎角 仰出之御趣意行届兼、又候右之通 御沙汰被為在、何共奉恐入儀候間、聊無忘脚堅可相守候、乍此上萬一不守之者も候ハ、當人者勿論親兄弟迄も吃与可及沙汰候間、夫々支配頭宅江人別召出し、末々迄も風俗立直候様可被申渡候、

右之通夫々支配頭江申渡、可承向江も不洩様可致通達候、

正月

(島津久風) 但馬

(町田久規) 監物

(新納久邦) 内蔵

二〇八の二
右之通、各被得其意、此書付最寄次第無滞早々致廻達、留より監物方江返納可有之候、以上、

二月十九日

大身分觸役所

○廿一日、與_二高一石及所_一借_二于府庫_一米于犀川甚作、高一石于柳田源太郎、犀川為_二母孺人之僕_一、柳田為_二孺人之僕_一數年勤仕故也、

○同日、與_二銀五枚于種子島十左衛門_一、助_二大坂旅行之費_一、

○同日、以_二西村次郎兵衛・西村與三兵衛_一為_二用人_一、西村仲左衛門用人見習、上妻小左衛門・梶原武左衛門船奉行、

○廿四日、以_二上妻小左衛門・平山翁之進・前田十九郎_一為_二組頭_一、西村惣兵衛本源寺社奉行、

○廿六日、貶_二種子島三左衛門時孝家格_一為_二家老組同列_一、時孝元祖三左衛門時房者日尊公第三之子

而實為親戚、故自日喜公至先考擢之置于家老組之上、今定元服目見等之格、廢庶流他家之分為同列、事開于左、

○二〇九 役所用人覺

覺

種子島三左衛門

右、先年格式之儀御吟味之上被定置候得共、此節元服彼是之諸式被相立趣付奉伺候處、御役人組之儀者、御家他家之無差別同様之御取計被仰付旨被仰出候間、此旨申渡候、以上、

二月廿六日

御役所

御用人

○廿九日、所賜于中之村一流人仙吉、賜于西之村一流人已之助囚獄、仙吉・巳之助與下西之表郷士榎本定右衛門・野間村郷士渡邊仙太郎共

於西之村製瓦、一日爭論、仙吉捕定右衛門鞭答之、巳之助亦助之擊之、仙太郎到假屋告斯、遣足輕擲仙吉・巳之助就横目訟之、故及茲、

○按察一向宗告于官、如例、

○三月三日、使西村惣兵衛講法令書、如例、

○同日、與艾餅于三箇寺、慈遠寺獻同品、

○同日、賀瀬引、西之表庄官獻上、如例、

○七日、與米二斗于八ヶ代二郎右衛門、波見之新助船去年為風浪大損斯於此地修補之、不償其費用、次郎右衛門到波見說話、令新助償之、故賞之也、

○十三日、以種子島次郎右衛門之議、令一島之士・足輕習放鉄炮一備異賊之用、事記于左、

○一一〇 種子島次郎右衛門口達覺

口達之覺

一 吳國船御手當ニ付而者、一ヶ年之内春秋両度ツ、
 一 兩日之間式目相極置、吳國方御手當之訳合を以
 諸士以下足輕迄打込鉄炮稽古被仰付候ハ、足輕
 迄も鉄炮取扱心掛可申儀奉存候、

右稽古之次第、左条之通、

一 多人數相集儀御坐候間、兼而鉄炮取扱申者之内人
 柄御見合を以頭取被仰付、右之者共より諸差引い
 たし候様仕候ハ、何そ不締之儀も無之筈候、射
 場間數之儀者貳十間相建、的之儀者壹寸五分相
 立、惣人數一筒ツ、打廻り、中之者江射手中より
 星板中ニ應し褒美相掛可申候、

一 出張人數應し筒數之儀も頭取より相究可申候、
 一 五ツ廻筒者壹寸角相立、中之者江褒美相掛、其上
 星中無之節者板中候者玉取可申候、右一筒廻りニ
 而中無之節者、右壹寸押返し打方可致事、
 一 出張人數之儀者、着到成ニ而打方可致事、
 一 中沙汰六ヶ數節者、頭取中申談相究可申事、
 一 名前帳面并中り付等頭取之者受持、其外場中之儀

者何篇頭取之者吟味次第、

一 酒食狼取囉申間數、尤礼讓正數稽古相_(心)得候様、
 是又堅可申談事、

右打込稽古之儀付而者、身分違之者茂有之事候
 得者、第一吳國船手當之儀相成儀与相考申候、
 御差支之稜無之候ハ、右之趣意を本立御吟味
 有之候ハ、何様可有之哉、

種子島次郎右衛門

三月

〇一一 役所用人申渡書

吳國方御手當之趣意ニ付別紙之通右之趣被仰奉伺
 候處、御尤被 思召上稽古方相企候様被 仰出候
 間、兼而鉄炮取扱候者之内頭取被召入致取締、猥
 ケ間敷無之様可為致稽古被 仰出候間、此旨申渡
 候、

三月十三日

御役所

御用人

○十三日、奉_二前太守公之命_一、北条織部守道代_二久道_一在_二島登城_一、奉_下以_レ有_二不_レ得_レ止_レ之故_一見_レ罷_二普之進殿贅婿_一、且有_二賢慮_一、久道及於隣殿不_レ可_二憂思_一之命_上、國老町田監物久視傳_レ之、事開_二于左_一、

○一二二 町田久視達書

種子島伊勢_(久道)

右者、普之進殿御事養子被_レ仰出置候得共、無御據御詔合有之、御取返_二而、別段_一、思召も被為在候_二付、伊勢并お隣殿_二も迷惑不被存様可申達旨_一被仰出候、

三月

町田久視
監物

○十四日、久道夫婦及_二女子以_レ赴_二覺府_一、詣_二慈遠寺_一首途、

○同日、締方横目野崎四郎次・河野次兵衛歸、

○十五日、國老傳_レ命、以_二松平右京大夫逝去_一禁_レ樂三日、

○十九日、以_二前田新五兵衛・種子島郷十郎・西村城之助_一為_二番頭_一、

○廿四日、納_二三獵所_一獲鹿皮于山奉行所、

○廿五日、命_下在_二本府_一時於_二祖先忌日_一、則家老代_レ吾拜_二墳墓_一、朔望則近習役拜_レ之、

○廿八日、命_二講_レ書學_レ字、事開_二于左_一、

○一二三 申渡覺

覺

手習物讀之儀、幼少之砌より折角稽古方無之候而者、俄_二難調藝_一候得者、御奉公方相勤候身分者、猶又心掛不致出情候_(禮)而不叶儀_二候間、每々引進め方いたし候様組之講譯方江可申渡旨被_レ仰出趣、乍恐御尤至極致承知候間、此旨可申渡候、

三月廿八日

御役所

○廿九日、久道及孺人・二女子赴_二覽府_一、
 ○晦日、侍妾^楚女生_二女子_一、字_二政袞_一、
 ○國老町田監物久視傳_レ令禁_レ商_二唐貨_一、事開_二于左_一、

○一一四 町田久視達書

琉球国為御救助長崎江被相廻御賣捌之唐物、追_レ所替_二而當時生圓子・蛛・朋沙・鼈甲并爪・桂枝・白手龍腦、都合六種御免之処、右之内下直等_二而難引合品も有之候_二付、斤数相減外之品十種被相加度、此節猶又無御據御願被 仰上趣有之、沈香五百斤・阿膠十斤・麝香百斤・砂仁千斤・錦皮大黃七拾斤・大鞭甘草七千斤・皮去山歸來_三百斤_一・葵木三千斤・辰沙五百斤・草挽藥_三千五百斤_一差加、長崎表江相廻り、當酉之年より来丑之年迄先五ヶ年之間御賣捌有之候様、被為蒙 御免許候

条、前文御免之品同様之振合を以拔荷等無之様、一涯嚴重可致取締候、自然違背之者候ハ、可致迷惑候、此旨向_レ江不洩様通達可致候、

三月
(町田久視 監物)

○國老町田監物久視傳_レ令、封國中令_レ習_レ放_二鉄炮_一事_上、開_二于左_一、

○一一五 町田久視達書

御領國中急事方御用意向之儀、前_レより吳國船御手當相觸專御軍役_二為相掛事候条、諸郷私領共役_レ者勿論、所_二有之面_一、一統此旨如存平生無油断可心掛候、武術之儀俄_二修練難成事候条、所_二中兼_レ可致修練、就中鉄炮打方之儀御手當向專要之儀候_二付、人_レ致用意置兼_レ可致修練之處、此比修練おろそか之段相聞得、他國江之外聞も相掛、如何之至候、殊_二先度種子島并七島之内宝嶋江吳國船漂來、於宝嶋及吳儀候_二付、異國人之内

老人打留、長崎江被差送候ニ付、御手當等先達申渡置候通、依之浦抱之郷、井境目等之儀者、猶又相嗜シ、鉄炮打方等兼、相励可致修練候、此旨急度申渡候様可申付候、

三月
(町田久視
監物)

○四月八日、異國方御用人田畑武右衛門禁竊商唐貨、示系荷船漂來之日處置之法、如レ例、

○十五日、以異國船來之候、國老新納内蔵久邦・町田監物久視・島津但馬久風傳長崎奉行之令、如レ例、

○同日、國上村百姓金次郎一世免大山野租税、賞下憐鰥寡孤獨窮困者賑恤之上也、

○廿五日、家老・物奉行・用人觀射禮于本源寺弓場、西村城之助・長山喜兵衛、太冑腑當及金の束矢、羽生平之進書入束矢、

○五月三日、與米六斗于西之表行司、二斗于能野行司、二斗于増田村行司、以在島中数役ヲ狩

也、

○五日、賜粽各二束于三ヶ寺、慈遠寺獻同品、
○同日、奉命登城、賜五節供及朔望・八朔禮席、如レ左、

○一一六 町田久視達書

(久遠)
種子島伊勢

一五節句・月次御礼之儀、御坐之間之間末御敷居内忝畳目末而御礼、御側御用人名披露、

但大目附以上御礼相濟、引次御礼申上候、

一八朔御礼之儀、

御敷居内一畳同末而持參太刀、御礼不及披露候、

但御一門方御礼相濟、引次御礼、

一年頭御礼并扣席是迄之間、

右者、此節別段之思召を以、其身一世御礼席右之通被仰付、餘例二者不相成旨被仰出候、

五月

(町田久規
監物)

○十六日、洪水國上村・安城村・住吉村・下西之表村・増田村、破壞田地一甚多シ、

○廿九日、遠藤甚五左衛門僕甚吉納科炭三表、以於二城之濱一競馬之日對レ土有不敬之事也、

○同日、叱二上妻才次郎一、以丙於二城之濱一競馬之日、以下有官守一身上有之不善之行也、

○同日、知覽才之允寺入于蓮勝寺二七日、於二城之濱一與二遠藤甚五左衛門僕一爭論競馬之事、

以杖笞之、幾昏倒、失二士之禮一、其舉動甚鄙、故罪レ之也、

○同日、以二岩河喜太郎一為二用人見習一、西村周左衛門兵具奉行、

○褒二詞鮫島孫右衛門一、賞為二納戸奉行一役二覺邸二能守三職一保中護其所藏之器品也、

○知覽才兵衛數訟免二定府一、以今事益多二不レ許、且欲レ賞二多年之功勞一議二之于家老一、開二于

左、

○一一七 申渡覺

覺

知覽才兵衛

右、家督以來親類中相談之上定府申付、其内無嫌旨趣を以、折々暇願申出候得共免許不申付、最早十ヶ年来ニ相成、毎々之訴訟申出之上不差免儀無理ニ存候得共、難默止詔合ニ付押申付置候、當時藏方難波ニ付而者諸差繰肝要之折柄、每物不致連續候而者双方之氣受ニも相掛、取馴候者不召置候而者不相成時節、且又親類中よりも是非今暫者召留候間、必断等不申出筋可申付候、自然暇申付候初者、一廉恩賞をも可申付含有之候得共、今程暇不申付ニ付而者、いまた長事ニ而其身之氣受ニも可相成、是迄多年之勤功有之、猶又追々可致勤務ニ付後代ニも相殘程之儀無之而者不相濟段、親類衆之沙汰も聞及居、各吟味聞及候上類中江も得

と可申談候故、遂吟味可申越候、

西五月

役人中

○以^二異國船之事^一國老島津但馬久風・町田監物久視・新納内藏久邦傳^二縣官之命^一、事開^三于左^一、

○一一八 幕府達書

^(二八の)吳國船國々江漂來、或者於海上出會候節、向々より之届書荒増之儀而已申聞、内実之事情者難相分儀も有之間、以來浦方末々迄不相包有躰可申出旨兼々申合置、兎角事実無相違様申聞候儀可為專要、今般吳國船打拂之儀被 仰出も事を好候筋^二而者無之候得共、近來之様子難捨置次第^二付被 仰付事候条、精々入念可被申付候、

二月

^(二八の)吳國船漂來之節取計方前々より数度被 仰出儀も

有之、おろしや船之儀ニ付而者文化之度、改而相觸候次第も候處、いきりすの船先年於長崎及狼藉、近來者諸所小船ニ而乗寄薪水・食料を乞、去年ニ至而も猥ニ致上陸、或廻船之米売嶋方之野牛等奪取候段、追々之振舞、其上邪宗門勸入候致方も相聞得、旁難被捨置事ニ付、一躰いきりすニ不限南蠻西洋之儀者 御禁制邪教之國候間、以來何連之於浦方も吳國船乗寄候を見受候ハ、其所江有合之人夫を以不及有無一圖ニ打拂、逃延候ハ、追船等不及差出其分差置、若押而致上陸候ハ、搦取、又者打留候而も是又時宜次第可取計旨、浦々末々之者迄申合、追而其段相届候様、改而被仰付候間、得其意備手立之儀者其地相應実用專一二可致便宜を考、銘々存分ニ可被申付候、尤唐・朝鮮・琉球杯之船形人物も可相分候得共、阿蘭陀者見分も相成兼可申、右等之船萬一見損打誤候共御察度者有之間數候間、無二念打拂を心掛不失圖様取計候處專要之事候条、無油断可被申付候、

二月

(二一八の三)

吳國船渡來之節取計之趣、別紙式通此節從 公儀
改而被 仰渡候間、可得其意、乍然御領國之儀者
三方津海を受、鳴々ニ至リ、別而之吳國口ニ而吳
船往來之場所候得者、実ニ及難船漂着、食物・水
・薪等拂底愁訴之儀も可有之候間、委曲相糺、何
國之船并言語文字不相用候迎も、手様を以相尋、
其場相應取計無難帰帆可為致候、卒忽之働等有之
候而者事を引起候基ニ而不可然事候、万一不法之
模様見受候ハ、打潰ニ而も時宜相當可取計候、右
之趣相心得、浦抱候諸所江者分而無間違様可申渡
候、

五月

(島津久風)
但馬

(町田久親)
監物
(新納久邦)
内藏

(本文書ハ朱線ニテ抹消サル)

(二一八の四)

「此表天保五年午十一月吳國方より役人・横目御
用有之、役人代渡邊勘右衛門、横目名目を以前
田十九郎罷出候處、消除候様被仰渡候間及問合
消除候、尤委曲之儀者勘右衛門・十九郎承知
之、留之通可相心得候、
但新役者古役立可受口傳事、」

(本文書ハ朱ニテ前文書ノ行間ニアリ)

○見レ命ニ異國船到来之時處置之法、兩端而不レ知レ
可レ守ニ執法、故上疏請レ命、事記于左、

○一一九 種子島久道伺書

(二一九のし)

吳國船御手當之儀ニ付而者前々より段々被仰渡候
處、七嶋之内宝嶋江吳國人致上陸及狼藉、右三付
吳國船漂着之節取扱之次第、去閏八月委細被仰渡
置、其段承知仕居申候、然處國々之廻船便船於海
上吳國之船江親ニ候儀、前々より御法度之事ニ

候、今般於浦、ニ吳國船乗寄次第可打拂旨、改而被仰渡趣當四月被 仰渡候ニ付而者、吳國船乗寄候節右通取計可申哉、又者去閏八月被仰渡置候通取扱可仕哉、種子嶋之儀者遠海上之事御座候得者、差掛奉得御差圖候儀も相調不申候ニ付、何様相心得罷居候而可然哉、此段御内意を以奉得御差圖候、此等之段被仰上可被下儀奉頼候、以上、

種子嶋伊勢(久通)

五月

二一九の二
張紙

本文、去申閏八月申渡置候通可被相心得候、委細之儀者追而可申渡候、

五月
(町田久徳)
監物

○按三察一向宗ニ告ニ于 官、如レ例、
○六月二日、命レ可レ通用ニ一朱金、事開ニ于左、

○一二〇 大身分觸役所回達書

大目附江

壹朱判之儀、御年貢并諸向上納金者勿論、諸問屋拂諸方為替納、且遠國為替等之儀も壹朱判ニ而も勝手次第第三候間、弥世上通用差帶申間敷候、右之趣可被相觸候、

三月

右之通各被得其意、此書付最寄次第無滞致廻達、留より監物方江返納可有之候、以上、

六月二日

大身分觸役所

○六日、締方横目川上源七郎来、

○七日、名勝志再撰方見レ問ニ故郷鐵炮、事開ニ于

左、

○一二一 名勝志再撰方達書

一南蠻鉄炮筒之金何、

一玉目何処、

一ゑふこ江相付候白緒者何様常之糸ニ而候哉、

一右同江相付候火皿くばり様之物者何物ニ而候哉、

一右同双方脇江相付候縁青色之物者何様之物、

一右同江白金物と相見得候物者何物、

一鉄炮之矢竿者何物、

一ゑふこ式十四何様之物を以相調有之候哉、

當分之者ハ同形や、又相違候哉、

右ヶ条相糺可被申出候、

○八日、與_三米_二石于増田村_一、去五月十六日洪水

破_二田地_一甚多、修_二築之_一役夫過_レ分故與_レ之助_レ

費、

○十日、締方横目竹迫大右衛門来、

○十二日、女子_裝發_二赤尾木_一赴_二于麿府_一、

○十五日、記_二故郷鉄炮之事_一呈_レ之、事開_二于左_一、

○一二三 羽生能寧屈覺

覺

一筒地金鉄_三而御座候、

一玉目三匁五分、

一矢臺木同様之木与相見得候、

一口角江相附候緒、白きから糸_二而六ツ打_二而御座

候、

一火皿くばり、赤金_三而御座候、

一ゑふこ双方_二相附候根緒藍染革_二而御座候、

一金物銀_二而御座候、

一ゑふこ平常之_レごとく黒ぬり之竹_二而御座候、

右者、南蠻鉄炮并ゑふこ等之儀御糺_二付、しらべ

申渡候處、右之通申出候間、此段可被申上候、以

上、

種子嶋役人(能寧)

羽生仙右衛門

西六月十五日

知覽才兵衛殿

○十六日、莖永村村吏嘗託錢九貫文于牧瀬長藏、藏彼二階、有盜偷之、事聞于延、搜索之、不得、

○國老傳、縣官之命、限今年七月、禁通用故金銀、

○十七日、國老命、買船者過四ヶ月、不改易船札者、隨月之多少、應帆賦科錢、及二年、則收其船、造船者亦過三月、不請燒印、則收其船、事開于左、

○一二三 藩家老座申渡書

買入船三ヶ月を過四月相成札直之儀申出候ハ、帆壹反ニ兩銀七分五厘、五ヶ月より七ヶ月之間同断之者江者帆壹反ニ壹匁五分宛、八ヶ月より十一月之間同断之者江者帆壹反ニ貳匁分五厘ツ、一ヶ年相過同断之者江者帆壹反ニ三匁宛、貳ヶ年相過申出候ハ、船可取揚候事、

一 出所不慥本木を以致船作船札不申受船者勿論、た

とへ御免木を以造立札申受候而も、三ヶ月相過迄、燒印不申受船者可取揚事、

右之通與中江可被申渡者也、

六月十七日

御家老坐印

大身分觸役所

○廿四日、以林次右衛門為代々組士、賞多年以調菜勤仕也、

○同日、與永代扶持高一石五斗于池野順悅、多年以醫勤仕、且於京都學產科、今年侍妾曾臨難産能施其術、令遂産其功不少、故賞雖與扶持高一石五斗、今又増加永代扶持高一石五斗賞之、且命至子孫可傳其傳、

○廿九日、賀夏越、西之表庄官進上、如例、

○締方横目久保七兵衛・相良與左衛門歸、

○七月七日、飾日深公鑑、家老羽生仙右衛門能寧拜之、

○八日、名代時任丈左衛門時子詣大會寺、祭先祖及宗祖・戰死靈、

○十日、流入巳之助出牢、

○十三日、名代種子島五郎左衛門政賢於慈遠寺

祭先祖及宗祖・戰死靈、十四日、名代時任丈

左衛門時子於本源寺祭宗祖、十六日、於方

丈祭祖先及戰死靈、

○廿日、與米四斗于油久村中宿國上六右衛門、

賞孝養二親也、

○廿四日、下西之表郷士武田源之進寺入于本成

寺、廿七日、坐為村吏私用米也、連及叱榎本

六兵衛・小川新左衛門、

○同日、國上村郷士河内覺左衛門寺入于隆興寺

七日、坐為庄屋私用米也、連及叱芝善左

衛門・黒木與三左衛門・芝市郎左衛門・落合十太

・黒木仲左衛門・落合七郎太、

○晦日、以三歲不登止馬追之式、物奉行西村甚

五太夫、馬役八板藤角・羽生平左衛門・羽生直一

郎・河内六郎、巡諸牧執唯充三歲駒上、

○按察鬼利支丹宗聞于官、如例、

○八月一日、與中紙各二束于慈遠寺・大會寺、

二箇寺亦獻同品、

○十三日、大風、破船二艘、破屋傷禾、不

可枚擧、

○十五日、蓮勝寺進上、如例、

○十八日、莖永村・坂井村・上里村・中之村・平山

村・納官村・西之村・増田村・住吉村・國上村・

西之表村・島間村、為大風傷禾、減賦稅

有差、

○十九日、野間村満足山百姓市平者出奔不知行

處、搜索之不得、經日見縊死于熊野山、

締方横目竹迫大右衛門・川上源七郎、吾横目西村

二郎兵衛・西村甚四郎檢察之、事聞于官、

○九日朔日、叱八板十郎左衛門、役覺府普請方

下吏、其簿記所々修補之費用不詳之、總計

以記、固多年役勘定方知作簿之法、而如

此、則不敬也、故及茲、

○札改檢使村田市助・天辰助七婦、

○九日、使岩川喜太郎講法令書、如例、

○十九日、古田村榎本貞之進罷山役寺入于妙昌寺二二七日、古田村之休右衛門私材、貞之進知之不告其舉動、似與之、故罪之也、

○同日、納官村牧川阿世知字兵衛寺入于本法寺九十日、請除害于園圃松上、用屋壁之材未得命伐之、斯賣之于船材、知休右衛門

等伐翳前之木且私材、不告之于山役、故

及茲、連及叱牧川山役有留庄右衛門・德永源

右衛門、

○廿四日、與米一石于鮫島甚之允、以貧窮役于覺府故也、

○官令七島寶島流人覺府士本田助之允免遠島居住于此地上、以下伊奴鬼利須到來上陸而標掠

之時有防禦之功也、事開于左、

○一二四 町田久視申渡書

種子嶋伊勢江(久視)

本田助之允

右者、被聞召通趣有之、七島之内宝嶋江遠嶋被處置候處、去年同嶋江吳國船一艘漂來及狼藉候節取計宜敷、別段之思召を以、此節遠島赦免而種子嶋江居住被仰付候条、兼而役、彼是氣を付安居いたし候様可取計旨申渡可被置候、

右可申渡候、

九月

(町田久視)
監物

○官命之漕運種子島產物于大坂之時與府庫之財同例、告之于在大坂覺府之藏吏、買賣之事起自何年一乎可聞之、即書記以呈之、事開于左、

○一二五 島津久貫覺

覺

種子嶋彈正

右者 御先代より御勝手方被仰付置候、當御代迄も引續被 仰付置候處、數年首尾好相勤神妙被 思召候、且又此後每度江戸詰被 仰付候節、御家老詰被 仰付候ニ付而者相應ニ御心附を茂被成下事候得共、彈正事持高も相應ニ所持仕候得者、御心附不被仰付候、忠勤之依功種子嶋より諸色他國江積出候手形、即此節より彈正江長々被下置候間、此旨可被奉承知候、以上、

(享保十一年)
午十二月廿五日 中務 (島津久寛)

○十月四日、三役・組頭覽ニ武藝于廣間之庭、鏡智流師範平山二郎太夫武正・種子島大五郎政(天眞)、天真流師範日高源七郎實影・遠藤壯兵衛季(示)、現流師範吉良勝兵衛氏・宮浦半右衛門幸孝、性一流師範羽生主右衛門善一、心影流師範長野良左衛門武清、水野流師範羽生嘉右衛門能(梶原源)、左衛門景・長野良左衛門武清・下村善太郎時

(147)
金子流師範鮫島貞哉、無双流師範足輕大瀬源兵衛、

○十一日、嚮札改檢使功畢赴于覺府、所乘之舟不聞所其往、經數十日、是日漂到于現和村庄司浦、由是厲之家老時任丈左衛門等往彼地問安否、

○十二日、嘗託莖永村民戶所出之錢九貫文于市人牧瀬長藏宅、為盜失之、故彼村吏日高嘉左衛門偽稱用人坐命、再令民戶出錢償之、事發覺即罷嘉左衛門村吏寺入于妙泰寺、九十日、坐蔑官名也、

○廿二日、所來于長崎之阿蘭陀船、為別于他異國船、長崎奉行與旗幟以為來朝之信、國老町田監物久視以長崎奉行之令贈其圖、命曰、已後所建是旗幟、船則可知為來朝船、如不建之船則不違平生之令不可怠不虞之備、事開于左、

〇二二六 町田久視申渡書

長崎通商阿蘭陀船之儀、おろしや・えけれす船等ニ紛敷相見得候ニ付、漂流汐繫等之節のため、此節長崎御奉行より別紙繪形之通商船之目印被渡置候旨被 仰渡候条、向後右目印相用候吳國船者通商阿蘭陀船与可被相心得候、たとへ船形阿蘭陀同様候共吳國船者諸事御手當通嚴重取計、聊大形有之間敷候、尤別紙写兼而可得其意旨、種子嶋江可申渡者也、

町田久徳監物

十月廿二日

種子嶋伊勢殿



〇廿三日、與三米二斗於廿人荒木拙之助、屢入三彼

宅煩家業一故也、

〇十一月四日、納三狩所獲鹿皮一枚于 官自去歲至今年之分也

〇廿三日、中之村百姓十次郎宅火、人馬・宗門手札無恙、

〇廿五日、嚮異國船之橋船一隻漂到、即聞三于官、見レ命可三燒化、故焚レ之、

〇廿七日、與三永代扶持高一石于鮫島貞哉、以三繼箕裘上能習三得鍼科一也、

〇廿八日、以三能化遠成院日健一為三本源寺寺主、

〇廿九日、按三察一向宗一告于 官、如レ例、

〇十二月十三日、上妻新七獻三斗搗之餅、如レ例、

〇十九日、以三住吉村郷士日高十兵衛一為三古田村横目、歲與三米六斗一、憐三遠路往來之勞一也、

〇廿一日、叱三柳田休五右衛門一、遣三其子永吉于本藩一犯レ法不レ乞暇故也、

〇廿四日、叱三納殿役人美坐五藤右衛門・西村喜右衛門一、女子政袈婆生三於種子島一、將レ赴三于本

府、故命_二扈從_一、共稱_二家人及自己病_レ不肯、然聞、日々出坐奉_二職務_一、是以視_レ之偽為_二病者_一、
歎、今以下_レ憐_二想其幼穉_一、且有_中不正之說_上及茲、

○廿五日、上妻角太寺_二入于本蓮寺_一、一七日、且厲_二角太母於親族_一以禁_レ出_二於門_一、上妻甚五左衛門罷_二下西之表橫目_一寺_二入于本隆寺_一、九十日、甚五左衛門妻病、家人・親族皆云、角太家人大神所_レ為也、角太訟_レ之、故令_二橫目糺_レ之、無_二其事可_レ證、素角太與_二甚五左衛門_一為_二親族_一、然平生相接不_レ睦、却懷_二憤怨_一、以發_二諍論_一、甚悖_二人情_一、且有_二不正之說_一、故及_レ茲、連及鮫島休右衛門_{城邑}寺_二入于滿德寺_一、上妻傳左衛門寺_二入于妙泰寺_一、上妻仁左衛門寺_二入于隆興寺_一、上妻庄治寺_二入于蓮勝寺_一、各七日、叱_二上妻関右衛門_一・羽生伊右衛門・上妻周左衛門_一、

○廿六日、坂井村百姓長左衛門宅火、人馬・宗門手札無_レ恙、

○廿七日、三箇寺及廿人家・鍛冶獻上、如_レ例、
○同日、夫婦獻_二破魔弓一飾_一・肴代青銅百疋于普之進君、普之進君亦賜_二青銅百疋_一、

○廿九日、叱_二時任右源次_一、以有_二不正之說_一也、
○同月、嚮被_レ命_二期望_一・五節句・八朔於_二御坐之間_一為_中拜禮_上、今日町田監物久視傳_レ八朔於_二御對面所_一家格之席_二宜拜禮_一之命_上、事記_二于左_一、

○一二七 町田久視達書

種子嶋伊勢久遠

右、月次并五節句・八朔於御坐之間御礼申上候様、先達而被仰付置候得共、猶又思召之訳被為在、八朔御礼者年頭同様於御對面所、家格場_二而御礼被仰付候旨被仰出候、
十二月町田久視監物

○國老島津但馬久風・川上久馬久芳・町田監物久視再傳_レ命禁_レ為_二惣鬢_一、事開_二于左_一、

○一二八 町田久視外二名連署申渡書

惣髮成之儀付而者、去卯之年分而申渡趣有之候處、頃日自然与致惣髮候者も有之哉二相聞得、甚以如何之至候、右三付而者見分をも掛置候条、乍此上不守之者も候ハ、急度可及迷惑候、此旨不洩様支配頭江申渡、諸郷・私領江も可申渡候、

十二月

(馬津久恩)

但馬

(川上彦)

久馬

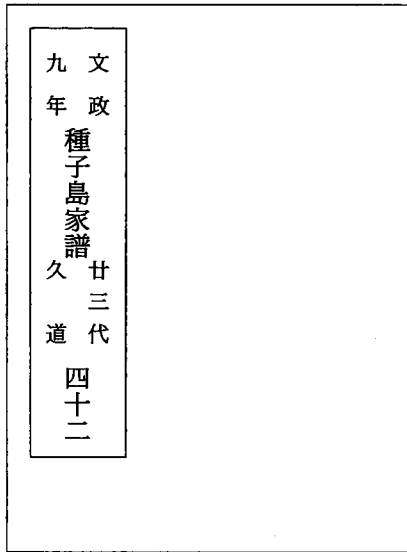
(町田久徳)

監物

○命三能化遠成院日建二曰、此地元来一宗而無二僧徒之勵一、宜下教三誨衆徒二匡中教法弊上、近年三ヶ寺無二寺主一佛法廢壞、去年南光院歸來稍補二其法弊一、然不_レ足二衆僧矜戒一、今年幸遠成院歸國、故及_レ茲、

○歲暮之規式、如_レ例、

(表紙)



- 文政九年丙戌正月元日、國上村獻_二野老_一、
- 二日、覽_レ馬、名代種子島十左衛門時雍、馬役國上伴九郎、
- 同日、國上村獻_二瀬物_一、現和村庄司浦獻_レ鰻、
- 同日、八箇寺進上、如_レ例、
- 四日、上之郡庄屋・小觸進上、如_レ例、
- 六日、初狩、組頭上妻小左衛門・日高源右衛門・

- 前田十九郎、山奉行日高源七郎・河内覺右衛門・河内十郎、夕狩場、名代時任丈左衛門時子、物奉行前田太兵衛宗周、用人長野良左衛門武清、西之表庄屋進上、如_レ例、山崎善之進獲_二猪_一、
- 七日、中之郡・下之郡庄官進上、如_レ例、
- 十一日、甲冑之賀筵、如_レ例、
- 同日、官被_レ命_二興國寺火消_一、
- 同日、本源寺軍陣・溫座祈念、如_レ例、
- 同日、的初、名代種子島五郎左衛門政賢、用人姓_名、射手一番_{美座六七}、二番_{上妻新大夫}、三番_{日高惣}、八板木工、左衛門_{岩川六次郎}、_{西村善次郎}、_{三番七郎}
- 同日、在郷諸寺進上、如_レ例、
- 同日、蓮勝寺獻_二神酒・棗盛_一、
- 同日、贈_二佳札于兩本山_一、
- 十九日、官召_二家老_一云、嚮_レ禁_レ焚_二松煙_一、猶有_二未_レ止之說_一、嚴可_レ禁_レ之、
- 廿日、國老川上久馬久芳・新納内藏久邦命云、鎌倉相水院燒亡、再以_レ營_二修之_一、本藩貴戚寄_二附

金銀_一、國中雖_二士庶人_一亦許_レ寄_レ附_レ之、事開_二于左_一、

○一二九 新納久邦・川上久芳連署申渡書

鎌倉相水院客殿其外及焼失、此節御再建_二付、御一門方を始夫_一、寄進銀被_レ仰付候_二付、諸郷之者共可致寄進志之者不差扣申出候様、地頭・領主・大番頭より可申渡旨可申渡候、

正月

(川上久芳)
久馬

(新納久邦)
内藏

○點檢丁夫・病夫及有職者等_一聞_二于官_一、如_レ例、
○二月六日、河東茂兵衛寺_二入于妙昌寺_一、梶原源左衛門寺_二入于日輪寺_一、八板木工左衛門寺_二入于清淨寺_一、各三七日、阿世知理兵衛・和氣新左衛門寺_二入于本源寺_一、各二七日、罪_内嘗爲_二代官_一之候令_下與_二定府輩_一扶持無_二過差_一乎否可_レ點_二檢簿_一、而有_二過差_一檢_二閱簿_一不_レ詳密_甲也、

○十日、與_二米五石于古田村庶民_一、去歲夏田地爲_二

洪水_一破壊、將_二興_レ役而修_二理_一之、於_レ是庶民請_レ修_レ之、免_レ之、功成後使_二高奉行點_二見_一之、其迹

堅固也、賞_内不_レ取_二其備質_一勞_レ役公事_甲、以及_レ

茲、乃令_二高奉行命_内勸_二稼穡_一益可_レ勵_二奉公_甲、

○同日、去歲夏諸村田地爲_二洪水_一破壊、將_二興_レ役

而修_中理_上之、住吉村・納官村・野間村庶民請_二躬

修_レ之、免_レ之、功成後使_二高奉行點_二見_一之、其

迹堅固也、憐_二想倉庫窮乏_一不_レ受_二質米_一、以_レ勞_二

力溝洫_一、故令_内高奉行褒_二詞_一之、乃益可_レ勵_二奉

公_甲、

○廿五日、與_二知覽才兵衛所_一貸錢粟_一、賞_下累歲在_レ

府勤勞之功_上也、

○廿八日、令_二菱刈八郎太隆禮永聞_一吾家事_一、

○同日、按_二察一向宗_一告_二于官_一、如_レ例、

○同日、令_二野町人榎本新吉爲_二三十人_一、屬_二勝手

方_一賞_二造船之候有_二勤勞_一也、

○同日、以_二宮浦乘助_一爲_二馬役_一、賜_二高二石及所_レ

借米錢、乃命三年租吏、賞累歲爲扈從一勤勞上也、

○廿九日、締方横目高橋金左衛門・池上源七來、

○同日、以前田十九郎・知覽翁左衛門・下村珠兵衛爲船奉行、

○三月三日、與艾餅于三箇寺、慈遠寺獻同品、

○同日、用人西村甚四郎讀法令書于廣間、如例、

○同日、西之表庄官實瀨引進上、如例、

○廿八日、日州高鍋城主秋月筑前守重臣山田主計、

以使者贈折簡、事開于左、

○一三〇 山田重信書狀

未奉得尊意候得共、一筆啓上仕候、先以尊公様益御勇健被成御座奉恐悅候、乍憚時候奉伺御様躰度、以愚札如斯御座候、猶奉期永日之時候、恐惶謹言、

山田主計

「重信」(花押)

三月廿八日

(種子島久道) 伊勢様

御左右

○一三一 山田重信書狀

猶、奉伺御様躰候儀并御願申上候筋、委細別紙を以奉申上候、御仁察之上御免被成下候様奉願上候、以上、

未得御意候得共、一筆致啓上候、各様愈御堅固被成御勤珍重存候、將亦此節

伊勢様江奉伺御様躰候之儀并御願申上候筋、委細書付を以申上候、初而奉窺御様躰候節、御願ケ間敷儀申上候段、寔以奉恐入候得共、御由緒御座候ニ縫リ、此節武門之興廃ニ相預候ニ付、不願恐奉願候条、御相談被為在候者何卒御免被成下候様、宜敷御取成被下候様偏ニ御頼存候、右御頼為可申述如斯御座候、猶期後音之時候、恐惶謹言、

山田主計

三月廿八日

「重信」(花押)

(種子島久道)
伊勢様

御家老中様

〇一三二 山田重信書状

奉追啓上候、本文端書江申上候御由緒御座候と申儀者、筑前より旦那供仕来候先祖山田将右衛門と申者、天正元年之比より飛地福嶋と申所江住居仕候節、尊家御先祖和泉様御息女いヶ様之御縁ニ御座候哉、右将右衛門江御輿入被為在、男人老人御出産、夫より年月相立如何之訳ニ而御座候哉、御滞留として御帰之由、其後又々御帰被為在候哉、其儀者書記無御座候得共、右之子孫今以分知配當杯仕、繁栄相續仕罷在候、然者百年之後といへとも、乍憚祖父之御家ニ御座候ニ付、何れ之道御様躰等不奉窺候而者相濟不申候處、先祖共如何之心得違ニ而御様躰不奉伺失敬罷過候哉、奉恐入候、乍然是ハ跡事ニ付、御宥免被下置候様奉願上候、

於私者系圖見分ヶ候之様相成、尊家より御入輿被為在候と申儀承知仕、天下ニ轟き文武被為兼候大家を祖父ニ持候儀、武門之冥加ニ相叶鳴敷奉存、何之道暫時之暇相願、御側江朝夕罷在御給仕も仕度奉存、罷在候内、祖父共ニ私十一歳ニ罷成候節死去仕、夫より家督被申付、十六歳より旅勤仕、廿六歳之節用人役被申付、三十歳之節重役被申付、去ル未之年迄兩度旅勤仕多端罷在、乍恐是迄御様躰推参仕不奉窺、不本意奉存候、荒増右之通御由緒御座候ニ付、已来者折節御様躰可奉伺候得共、将亦御願申上候筋左ニ申上候付、御仁察之上御許容被成下候様、偏ニ奉願上候、

一私儀老人之弟主膳と申者御座候處、小坂友次郎と申者病死仕、急ニ養子差遣、相勤罷在候内、去ル寅ノ年出府被申付候處、風と詰合中若氣之至心得違仕、莫大之金子遊里江仕い捨、既ニ及自害ニも候由、詰合親類中急便を以申越候ニ付、兎哉角仕式百金仕送り仕、漸無難罷下り申候、其後辰年私

儀且那供可申付、弟方も家柄之事ニ付、又々供被申付候處、いか様之報イニ御座候哉、又候遊里へ通い、夥敷金子仕捨候由、私方江者前年之儀御座候ニ付、金子之相談得不仕、莫太高利之坐頭金借付仕候由、在所へ罷下候上間を以申聞候ニ付、打驚親類中江も申聞、萬一返弁延引仕、訴訟等相成候而者可及大切と、評儀之上金子調達方手を尽候得共、何分大金ニ而調達不仕、追々延引相成候處、終去ル申ノ年及、公訴、留主居被呼出濟方早々仕候様被相達候趣、江戸詰親類中より急便を以申越候付、家財之品者勿論、武器迄も賣拂調達方世話仕候得共、漸百金餘出来餘程不足仕、何分出来不申候ニ付、甚以不易儀ニ者御座候得共、且那用金暫時取替濟方致し呉候様、金役之者江親類中より頼道候處、男氣之者ニ而覚悟之上、暫時取替皆濟仕候而公邊向ハ無出入相濟申候、然處去夏且那在着之上、右之始末吟味被申付候処、素より弟方一言申開候筋無御座、分限不相應之金子仕捨、

不忠不届と御座候而、家屋敷關所、字平田と申所江浪人被申付候、私儀も同旅勤中前書申上候通之所作一切不存とハ乍申、兼而教育之致方も可有之処、無其儀取計不行届と御座候而、重役被差免、隠居被申付候、弟方之儀ニ者御座候得共、昼夜側江引付召置候儀茂不相成候事故、右様之勘弁ハ有之筈と奉存候得共、彼是申訳仕候而者臣下之禮失ニ付、何事も差扣罷在候、前条申上候通、追々弟方江莫大之金子世話仕、家財之品ハ勿論、武器等迄茂相拂、剩内借之金子も私引受、當秋迄返納不仕候而者、右役方之者申訳不相立可及自滅、左様成行候而者私儀も安穩罷在候儀不相成、寔二十死一生之境、甚以嗟敷心痛仕候、依之別紙之通奉願上候、御仁察之上御役人方御相談被為在、拜借御免被成下候様偏ニ奉願候、御免被成下候得者、私儀も最早公用も無御座候ニ付、其御地江推參仕奉同御様跡度、次而者御先祖様御廟所江も參拜仕度奉存候、其節金子御

借渡被下置候様奉願上候、御免被成下候上者外向

借財相濟、次ニ者讓來候武器之類少ニ而も取返し度奉存候、然ハ右之御恩山より高海より深、誠ニ死を以も難尽報、朝夕御側江罷在御介抱仕候者、万一之報恩ニ茂可相成奉存候得共、最早私儀四十歳罷成、先短相成、其上悴幼年ニ付家内取治方不行届、長ク他國仕候儀不相成、是而已心配仕候、依之去十月出生之ニ男罷在、只今迄ハ至極丈夫之骨組与奉存候、不苦と被 思召上候者、報恩之為め十五歳ニ相成候迄文武之端修行為仕差上候様可仕候、何卒相應被召仕被下候様奉願候、御縁ニ絶前書之通奉願上候条、土音人御取立被下候と被 思召上、拜借御免被成下候様奉願上候、右御様躰伺旁御願申上度、如斯御座候、以上、

三月廿八日

山田主計(重信)

(種子島久道)
伊勢様

御左右

〇一三三 山田重信書状

奉再陳候、本文御由緒之儀申上候得共、吃度 尊家より被為入候と申證據も無御座、其上筑前江罷在候節ハ御心安被仰通被下候趣傳書御座候へ共、高鍋表江引越候上ハ誠ニ少身相成、灯燈ニ釣鐘ニ而似合不申候得共、古之人ハ録(録)之多少・貴賤ニ不拘、生質・才能ニ依而縁邊取結候儀俣有之趣書記ニ相見申候、乍然當時之振合相考候而者餘り似合不申、萬一ハ 尊家之御分知又者御配當之御方被為入、左様之御家より被為入候之儀も難計奉存候、右之通御縁ニ絶り奉願上候、重々茂初而奉窺御様躰候節ケ様之御願申上候儀、誠ニ以奉恐入候得共、此節延引仕候而者武門興廃相預候ニ付、不願恐願候段御有免被下置候様奉願候、以上、私儀何れ之道奉伺御様躰度、何頃罷上候而御差支不被為在候哉、奉伺候、以上、

三月廿八日

山田主計(重信)

(種子島久道)
伊勢様

○一三四 山田重信書狀

一金子三百兩

但來亥ノ正月より十五兩ツ、二十ヶ年賦返御上

納可仕候、

右之通、拜借御免被成下候様、偏ニ奉願上候、返

御上納之儀者年々、正月奉伺御様躰候節より無間違

為持返御上納可仕候、已上、

三月廿八日

山田主計(重信) (花押)

(種子島久道)
伊勢様

○縮方横目川上源七郎・竹迫大右衛門歸、

○納三狩所(A.V)護鹿皮于山奉行所、

○四月八日、上書請下每歲大坂仕登船入二船於内之

浦、受二檢察一得二高山之手摸、然内之浦波瀟烈

而難繫船、故於二山川之港一受二檢察一得二手摸上、

見許レ之、事開于左、

○一三五 知覽行寛口上覺

(一三五の上)
口上覺

乍恐申上候、種子嶋伊勢手船を以生蠟其外之品積

入、宰領人召附毎年大坂江差登申折、是迄者内之

浦ニ而御改を受、高山より御手形申受申事ニ御座

候処、内之浦之儀荒波ニ而依時分離乘入、及難船

儀茂有之、難決之蔵方別而迷惑仕申事而已御座候

間、以來者山川御番所ニ而御改并往来御手形申受

候筋御免被仰付被下度奉願候、尤手形銀之儀ニ付

而者、別紙之通先年格別之御取訳を以御免為被仰

付置儀御座候間、何分御法様次第可奉畏候間、何

卒願通御免被仰付被下度奉願上候、此旨被仰上可

被下儀奉頼候、以上、

種子嶋伊勢役人

戊 四月八日

(行寛)
知覽才兵衛

(三五の上)
右之通申出候間種子嶋伊勢被承届、此段私より申

上候様被申聞候、以上、

用頼代

染川伊兵衛

戊
四月八日

(三五の3)
右之通申出、種子島より手船を以生蠟其外之品積

入、宰領人相付大坂江差登候節、是迄内之浦ニ而御改受、高山より手形申受来候由御座候処、内之浦之儀荒波之場所ニ而難乗入時節も有之候付、以来者山川御番所ニ而御改申受度願ニ付而者、何そ差支之簾相見得不申候ニ付、願通被仰付度、左候而内之浦江乗入候節者、是迄之通御改申受候様被仰付置度奉存候、掛ル見聞役申談、此段申上候、以上、

但手形銀之儀者、御用捨被仰付置候間、是迄之通被仰付度奉存候、此段申上候、

戊
四月八日

御船奉行勤

山田武三二

御船奉行

能勢甚左衛門

長崎良右衛門

田代両右衛門

山沢十太夫

○同日、異國方御用人志岐休之進禁私商唐貨、示ニ糸荷船漂來之日處置之法、如レ例、

○九日、大雨洪水、現和村告田地水災、

○同日、現和村郷士小山田善五郎在川頭刈秣、

雨頻降、水溢溺死、即聞于官締方横目及吾横目記失姓名

○十日、和氣新左衛門寺入于本法寺二七日、是以有違法度也、

○十一日、國上村・住吉村・西之村、告田地水災、

○十五日、國老新納内蔵久邦・川上久馬久芳・島津

但馬久風傳長崎奉行異國船漂來之候處置之命、

如レ例、

○十九日、與米六斗子中之村庶民、修河内溝沓

之日、以勞力公事也、

○廿八日、以_二長野五藤左衛門_一爲_二代、組士_一、以_下弟寬事院納_二八十金_一、且有_中所思_上也、

○同日、褒_二詞慈遠寺僧再生院_一、以_レ有_二勉勵而修_レ寺之功_一也、

○廿一日、贈_二書日州高鍋侯臣山田主計_一、開_二于左_一、

○一三六 種子島久道書狀

御札致拜見候、弥御堅固珍重存候、然者時候爲御尋預示趣、被入御念儀忝存候、此段及御報候、恐惶、

四月廿一日

種子島伊勢

「久道」(花押)

山田主計様

(重信)

○一三七 種子島久道書狀

追啓、御端書并御別紙之趣委曲致承知候、就右者別紙不能御報、家来共より及御答之通御

座候、以上、

四月廿一日

種子島伊勢

山田主計様

(重信)

○一三八 知覽行寬書狀

尊札拜見仕候、弥御堅勝被成御座珍重奉存候、然者伊勢安否御尋、且御借用金之儀、二付、委曲被仰越趣承知仕候、右二付而者別紙申上候通御座候、恐惶、

四月廿一日

知覽才兵衛

「行寬」(花押)

山田主計様

(重信)

○一三九 知覽行寬書狀

追啓、主人方江御由緒御座候由三而、御用金御取替之儀、細々被仰越趣委曲被致承知候、右三付相糺候處、先祖江和泉と申者無之、然共遠境迄被仰越、殊無御據御用金之旨相見得

候間、折角御用弁いたし候様被申付、役々、尽吟味候得共、當時勝手向極々難波ニ而何分繰合不相調候付、不得止事可及御断旨被申付、如斯御座候、以上、

四月廿一日

知覽才兵衛(行應)

山田主計様(重信)

○一四〇 種子島久道口上覚

口上覚

秋月筑前守様御家來山田主計と申者、私先祖江由緒有之由ニ而、金子借用之儀申越候得共、右式之儀無御座候ニ付、其通返答申遣候様致承知候、右ニ付別紙之通申遣候而何様可有御座哉、奉伺候間、何分御差図被下度奉存候、此旨御申可被下候、以上、

四月廿一日

種子島伊勢(久道)

○五月五日、與三粽各二束三箇寺、慈遠寺獻三同

品、

○六日、國老傳ニ 縣官之命ニ曰、以レ改ニ鑄金銀ニ去年令下限今年三月ニ通中用故金銀上、然至ニ遠境猶必有下有ニ故金銀ニ者上、故限ニ來歲正月ニ當ニ出レ之換ニ新金銀ニ、從ニ二月ニ禁レ通ニ用故金銀ニ、若犯レ命私藏ニ故金銀ニ者須レ處レ罪也、

○九日、虫以レ食ニ甘藷苗ニ、令ニ三箇寺僧徒禱以去レ之、

○十四日、上西之表村百姓彦助宅火、人馬・手札無レ恙、

○十八日、赦ニ嚮所レ來公義流人四人ニ歸ニ于郷ニ、國老島津但馬久風傳レ命、事開ニ于左、

○一四一 島津久風申渡書

屋久嶋・種子嶋江被遣置候 公儀流人之内四人、此節御赦免ニ而大坂町御奉行所江被差出答候間、迎船式艘取仕立、船中為取締横目老人ツ、・足輕三人ツ、被遣候間、船囲取仕立方申付候条、此旨

可承向江可申渡候、

五月

(島津久風)
但馬

江州八日市村桶屋善七
借屋棟屋音七同居父

新兵衛

無宿

作兵衛

奈良算足町今在家町

嘉兵衛

泉州泉郡伯太村陳屋二
罷在候仲間

新兵衛

○廿四日、與吉良勝兵衛永代高一石及宅地一區、

賞為_二物奉行筆吏_一有_中奉_レ職勉勵之功也、

○同日、與知覽才兵衛永代高十石、賞_下自_二吾繼

家之始_一奉_レ職以勵_中精於家政_上也、

○廿八日、以_二田上市郎義福_一為_二文書役_一、

○同日、令_二林林藏寺_一入于妙昌寺三七日、嚮為_二

覺邸庖宰_一校_レ檢其食次冊_一、以有_レ冒_二禁法_一也、

○廿九日、按_二察一向宗_一聞_二于官_一、如_レ例、

○六月十二日、以_二西村城之助_一為_二南戶奉行_一、知

覽源太兵衛高奉行、

○十九日、野間村百姓太三次女發_二狂疾_一投_レ水死、

即聞_二于官_一、

○廿六日、因_レ被_レ赦_二公義流人_一、本藩迎官稅所太

右衛門、屬官野元主左衛門・前田藤助・鬼塚庄左

衛門來、

○廿七日、嚮所_二放來_一之菱刈木工之助臣杉野林右

衛門於_二配所住吉村_一病死、即聞_二于官_一、

○晦日、和雛之式、如_レ例、西之表庄官獻_上、如_レ

例、

○同日、下西之表百姓休次郎宅火、人馬・手札無_レ

恙、即聞_二于官_一、

○七月七日、飾_二日深公甲冑于廣間_一、當番家老種

子島五郎左衛門政賢拜_レ之、

○同日、按_二察切支丹宗_一告_二于官_一、如_レ例、

○同日、洲之崎浦人仙吉坐_レ買_二牛皮二枚_一納_二錢二

貫文_一、安城村百姓平之進坐_レ賣_二之納_二貫文_一、

洲之崎浦漁夫市藏以_二賣_二牛皮一枚_一納_二貫文_一、

安城村百姓三之進以賣之納一貫文、各贖罪、

○八日、名代家老種子島五郎左衛門政賢詣於大會寺、祭先祖及宗祖・戰死靈、

○十三日、名代家老種子島五郎左衛門政賢詣於慈遠寺、祭先祖及宗祖・戰死靈、

○十四日、名代家老種子島十左衛門時雍詣於本源寺、祭宗祖靈、

○十六日、名代家老種子島十左衛門時雍詣於本源寺方丈、祭先祖及戰死靈、

○廿九日、本田助之允自七島宝島來居花里、

○八月朔日、與中紙各二束于慈遠寺・大會寺、兩寺亦獻同品、

○五日、以高崎孫九郎道直爲用人_{勳方}、下村惣太郎時芳普請奉行、河内十郎時始近習役、

○同日、與上下一領于猶原五平、以勞船造也、

○六日、以長野休太右衛門爲二代組士、以

有所思也、

○同日、褒詞本源寺僧本慈院、以能守法儀自本源寺再建、以往有功也、

○同日、以凶歲止馬追式、唯執充三歲駒上、馬役羽生藤太郎・美坐正左衛門・西村惣次・宮浦乘助、

○十日、締方横目稻留三左衛門・大野源五衛門來、

○十二日、罷時任宇源次用人、且使逼塞、坐犯法携炮行于安城村、父時任丈左衛門逼塞三七日、罪教誨不至也、

○同月、隨貴賤定衣服製、開于左、

○一四二 申渡書

一種子鳴之儀者上下之差別薄く、折々申渡置候衣服沙汰之儀、先年御上より被仰渡置趣有之候處、上下無差別相見得三付、此節左之通申渡候、役人組一列者勿論小頭家役儀相勤候者、袖太織木綿相用、衣服之儀持合之模樣格別不目出品可相

用候、

但子共着用木綿并布裾模様勝手次第、

爲取置候紋付之衣服者着用勝手次第、婦人も同断、

平士絹類持合之者下より致着用事者其通可有之候、

郷士以下絹類一切不相成候、帶等ニ至ル迄都而木綿又者布類相用、女服之儀も同断、模様付等一切不相成候、

女者夫之身分より貴賤有之事候處、島元之儀者差別薄方ニ見及候、吃と弁別有之候様可申渡候、

戌八月

○古来八月十五日夜少年輩称_レ賞_二明月_一男女同席會宴、以_三近年毎_レ郷定_レ長教_二誨少年輩_一、雖_二其風寢止_一、然猶禁_レ令_二少兒輩_一定_レ宅日夜宴會上、事開_二于左_一、

○一四三 申渡書

明月子共之參會ニ付被仰出趣有之、半兵衛殿演說ニ付及御相談候處、前々者男女入交行儀甚不宜候得共、頃日之儀者町々ニ而郷中打立逐吟味、差別有之候様成立候得共、猶以風儀正敷相成候様、是又年々廻リ合ニ而宿所召付昼夜之無分仕來候儀、是又不宜候付、此節より右様之儀者差留、出會迄ニ而遊ハ不苦筋申渡候、以上、

○十五日、蓮勝寺獻上、如_レ例、

○十七日、叱_二高崎孫九郎道直_一、以_二其妻結_レ髮不_レ称_レ禮也、

○安納村郷士鎌田半之丞罷_二保正_一、寺ニ入于本隆寺二十九日、以_レ有_二不正說_一也、

○九月朔日、締方横目高橋金右衛門・池上源七歸、

○三日、逼_二塞長野良左衛門_一二七日、以_二其妻結_レ髮不_レ称_レ禮也、

○七日、令從_レ城以南爲_レ下以北爲_レ上、定_二境目_一、

○一四四 種子島役所覚

覚

種子嶋上下之境目之儀被仰出趣ニ付相しらへ候得共、帳留等茂前より申傳候者、後生谷之川小田勝蓮寺橋門前之橋丹華之橋之流ニ而上下と申傳候ニ付、古来より申傳通被相定可然申談候間、此段可被奉達御聴候、此旨御掛合申越候、以上、

但新城之儀者、永照院様御在世之時分、下江被成候と申傳候、

戊九月七日

御役所

かこしま
御役所

○一四五 鹿兒島役所達書

『奉伺候處、何方迎も御屋敷を本ニ致し上方下方と申来由ニ而、島元迎も其通、已来ハ屹与不取違様、御城を中ニ致し御城より上を上方と唱へ、御城より下を下方と唱へ候様可相觸置、被仰出候御掛合申越候、

十一月七日

〔本文書八一四四号文書ノ行間ニアリ〕

○九日、使渡邊源十郎直讀法草廣間、

○廿二日、約女子^久美嫁島津但馬久風嫡子哲丸、

○十月九日、名代家老時任丈左衛門時子詣于本源

寺、盛備于宗祖日蓮菓子上、

○十日、以河東雄兵衛・日高杉右衛門實保爲納

殿役人、

○同日、以渡邊源十郎直爲物奉行、

○廿八日、母孺人疾病、漸令用人岩河喜太郎時行

醫吉良元民告于覺府上、

○同日、令三箇寺僧徒祈母孺人平愈、

○十一月二日、捕平山村足輕日高孝七下獄、

以數竊盜也、

○三日、以島間浦漁人清六爲野町人與島元

氏、以數令彼船遣于屋久島運材、且今年

夏當買救民米納金資之、故及茲、

○同日、坂井村百姓金次郎宅火、人馬・手札無恙、

○五日、以_二中西之表村足輕_中榎元善次郎_一爲_二一世郷士_一、以下留_二滯是地_一日爲_レ僕勤勞_上也、

○七日、禁_三諸士服_二次肩衣_一、事開_二于左_一、

○一四六 鹿兒島役所達書

平人次肩衣着用之儀者不相成御法_三而候處、種子嶋之儀者取違候向も有之候間、屹と觸流を以停止可申付旨被仰出候間、御掛合申越候、以上、

十一月七日

御役所

たね
御役所

○按_三察一向宗_二告于官_一、如例、

○同日、以_二前田太兵衛宗周_一爲_二家老_一、

○九日、久道歸_二省母孺人病_一、家老前田太兵衛宗

周、用人上妻隼多右武・岩河喜太郎時行、船奉行

前田十九郎宗篤、近習西村太平次、醫師河東三折從到、

○同日、以_二岩河喜太郎時行_一爲_二組頭_一、以_二西村次郎兵衛_一大會寺社奉行、以_二前田新五兵衛_一納戸奉行、鮫島九郎次・日高源右衛門物奉行見習、西村太平次高奉行、河東仲太夫山奉行、知覽翁之丞山奉行、與_下高一石並借_二府庫米錢_上、賞_三亡父翁左衛門多年勤_二勞納殿役人_一也、

○十五日、久道詣_三三箇寺_一、祈_二母孺人平愈_一、

○廿一日、以_二母孺人病_一林玄悅來、

○十二月十日、先_レ是祀_二祖先_一修_二佛事_一、則止_二殺生_一禁_二音樂_一齋戒七日、今丁_レ修_二日瑞大居士十三回忌_一、準_二官府之制_一短_レ齋、從_二前日_一至_二當日_一二日、

○十日・十一日、修_二本光院殿日瑞大居士十三回忌_一於本源寺、久道詣_二于本源寺_一、孺人名代時任一角時子、母孺人名代_{年寄}官女、八郎次・左登名代種子島茂助、良照院・穗野・多美等名代河内源四郎時

休、久美・婦美・真左名代河内六郎時然、法事奉
行西村次郎兵衛・西村仲左衛門、靈膳奉行西村權
右衛門、初日八講、當日頓寫說道、本源寺諸式、
如例、

○十三日、上妻新七獻餅、如例、

○十四日、與米一石於柳田今右衛門、屢到覺府
邸以役工事也、

○十五日、火増田村百姓長四郎宅、人馬・手札
無恙、

○十七日、叱羽生新四郎・西村藏多・河内六郎・

緒方瑞庵・古市木工太郎、於客年覺府邸以
減役夫安次郎鬻毛也、

○廿日、免_下牧瀬伊兵衛禁_中旅行上、赦_上上妻覺太
母、以修_日瑞大居士十三回忌也、

○廿三日、林玄禎來、以其父玄悅病也、

○廿四日、火安城村足輕山口彦右衛門宅、人馬
・手札無恙、

○廿五日、嚮出水名護浦之與藏・利三・五市釣逢

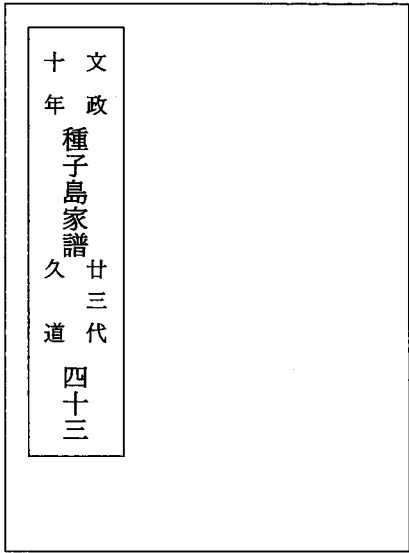
逆風、漂到留滯于國上村浦田浦、是日又釣逢
西風起、覆舟與藏者溺死、締方横目稻留三左
衛門・大野源五右衛門、吾横目岩河喜太郎・長野
良左衛門監察之、事告_官、

○廿六日、住吉村郷士松下和太右衛門寺入于西之
村本因寺三年、以下犯律入安城山獲_中猿也、

○廿七日、三箇寺及二十人家・鍛冶賀歲暮獻
上、如例、

○歲暮、規式、如例、

表紙



- 文政十年丁亥正月元日、詣本源寺番神堂及三箇寺、
- 同日、國上村獻_二野老_一、
- 二日、覽_レ馬、名代羽生半兵衛能寧、馬役美座庄左衛門、
- 同日、國上村獻_二瀨物_一、現和村庄司浦獻_レ鯁、
- 同日、八箇寺進上如_レ例、名代羽生半兵衛能寧、

- 四日、上之郡庄官・小觸進上、如_レ例、
- 六日、初狩、組頭平山翁之進・岩河喜太郎・西村仲左衛門、山奉行日高源七郎・河東仲太夫・知覽翁之允、夕狩場、名代前田太兵衛宗周、西之表庄官進上、如_レ例、
- 七日、中之郡・下之郡庄官進上、如_レ例、
- 十一日、甲冑之賀筵、如_レ例、
- 同日、本源寺軍陳・温座祈念、如_レ例、
- 同日、贈_二佳札兩本山_一、如_レ例、
- 同日、蓮勝寺進上、如_レ例、
- 同日、在郷諸寺進上、如_レ例、
- 同日、的始、名代前田太兵衛宗周、用人_(マ)射手一番_{美座六七}、二番_{上妻七郎左衛門}、三番_{羽生宗藏河内六七}、_{下村十藏}、_{八板小次郎}、
- 同日、奉_二客室及大乘院火消之命_一、開_二于左_一、
- 一四七 北郷久珉達書
客屋火消 島津圖書

種子島伊勢

右者、御船手御春屋金藏其外御仮屋敷御一門方四家其外被致差引事候得共、此節より右場所別段火消被仰付候条、出火方角次第被相勤當十二月届可申出候、火消道具之儀者、是迄御寺方出火手人ニ而持越候分用意預置候間、法度之儀者如例可被相心得旨可申渡候、

但受持外出火之節者、是迄之通差引可有之候、

正月十一日

(北郷久坂)
内記

大乘院火消

島津山城殿代り

種子嶋伊勢

右、興國寺火消被仰付置候得共、御免被成、右之通被仰付候、

○十四日、詣慈遠寺一首途、如例、

○以上西之表新吉一爲一砂坂塩戸僕一一年、坐下傭一住吉村松下和太右衛門一盜一猿也、

○廿三日、令家老知覽才兵衛行寬上疎請之於種子島一製一砂糖、事開于左、

○一四八 知覽行寬願書

乍恐奉訴候、主人藏方先年以來難渡之上、文化元子之年無類之凶作ニ而、島中人躰及飢候付拜借被仰付、其上御當地并大坂より他借を以乍漸人命相救申候次第ニ御座候、其より利足等相重ニ返濟相調不申、追々吉凶之入價打續、連々他借増長仕、至當分候而者銀主共より稠敷預催促候得共、返濟之手段無之、失禮ながら茂前後繰合少々内入等仕申断置仕合御座候、然處種子島之儀者、遠海上之儀ニ而金錢不通融有之、何れ成土産之品ニ而無御座候而者、外ニ補方無御座、近年鬱金莪荒井作式仕馴、少々之餘勢も有之候處御差留被仰渡趣承知仕候、今通ニ而者藏方取續之手段無御座、必至与行迫込り居候次第ニ付而者、於隣殿ニ茂何れ御不如意被為在儀ニ成立可申者案中ニ而、別而氣之毒

之至乍恐奉存候得共、外ニ詮立候座物茂無御座、
 端島之儀田畑不熟之年柄而已有之、依之奉願候、
 島元之儀者山野手廣場所御座候間仕明仕、黍植付
 砂糖製法方 御免被仰付被下度念願御座候、尤出
 来砂糖之儀者都而自分失脚を以、山川又者何方ニ
 而茂御差圖次第繰登差出可申候間、御直組之儀者
 御吟味之上三島同様之振合を以御買入被仰付被下
 度、左候ハ、一統出情種為仕、追々過分出来仕候様
 成立申候ハ、御国益ニ茂相成可申哉与乍恐奉存
 候、次ニ者御蔭を以蔵方取續之助勢ニ茂相成可申
 候、種子島之儀他国人入来候儀御禁制被仰渡置、
 譬御當地之人逆茂無故差越候儀一切不相成仕来之
 場所柄ニ而御座候得者、右製法方 御免被仰付ニ
 付而者、別段御取締等之儀者何様ニ茂御沙汰次第
 可奉畏候、右奉申上候通難波旁之訳を以 御免被
 仰付被下度奉願候、此等之段被仰上可被下儀奉頼
 候、以上、

種子屋敷役人

知覽行敷才兵衛

正月廿三日

○官以下村太左衛門製_ニ甲冑_ニ歳賜_ニ米十八俵_ニ、
 屬_ニ于御兵具所_一、

○官應_ニ松平備前侯之求_ニ命_ニ獻_ニ牛馬騾牝牡_ニ二匹_一、

○點_ニ察_ニ丁夫・病夫・有職者_一、告_ニ于官_一、如_レ

例、

○二月八日、締方横目川上源七郎・四元甚助來、

○十四日、木原長次寺_ニ入_ニ于本善寺_一一年、河口順

左衛門遠妙寺一年、鮫島嘉右衛門善林寺一年、榎

本半次本妙寺一年、坐_ニ称_レ執_レ茅竊_レ行_ニ于馬毛島_一

也、

○十七日、以_ニ西村七郎・美座流石・上妻小左衛

門_一爲_ニ用人_一、羽生惣十郎船奉行、

○廿七日、平山村足輕日高孝七、納官村足輕松下次

右衛門出牢、

○廿九日、以_三近年有_二風旱蝗虫等之殃_一、五穀不_レ登庶民困窮、免_二未進米_一、中西之表村百二十七石五斗一升六合、上西之表村百廿石八斗七升二合、下西之表村三百五十九石九斗三升、國上村三十六石八斗七升二合五勺、安納村十石六升三合、現和村七十五石二斗六升一合、安城村十一石一斗二升四合七勺、古田村百三十石二斗三升三勺五撮、住吉村百十六石五斗四升六合、納官村二百六石三斗一升四合八撮、増田村百二十三石九升五合一勺八撮、野間村百七十八石四斗八升三合一勺一撮、油久村六十石八斗七升六勺、坂井村三百九十四石八斗二升、平山村五百七十二石三斗二升二合、上里村八十九石七斗六升六合、莖永村八百八十二石五斗四升五合一勺、中之村千八百五十三石六升三撮、西之村十六石三斗五升五合、島間村二百三十三石八斗一升四合三勺、惣計五千五百九十九石八斗五升九合九勺七撮、

○按_三察一向宗聞_二于官_一、如_レ例、

○三月三日、講_二法令書_一、如_レ例講者失姓名、

○同日、與_二艾餅于三箇等_一、慈遠寺獻_二同品_一、

○同日、賀_二瀬引_一、西之表庄官進上、如_レ例、

○九日、再撰方五代直左衛門遣_二書于家老_一、命_二下島主始封之次第_一・所々戰陳・從士之姓名・南蠻人鐵炮傳受之事等詳書以可_レ呈_レ之、事聞_二于左_一、

○一四九 藩記録方五代直左衛門達書

一種子島之儀、當種子島家始封之時分者大浦口氏・熊毛氏・上妻氏、此三氏當主与号し一島を三分して致支配居たる由、旧記又者申傳へも可有之候間、相糺委敷可申出候、右三氏子孫与号候もの有之管候間、何姓_三而何氏を名乗候哉、系図其外由緒之書付、其外等可被差出候、

但右三氏之以前島主与号し候者爲有之管候間、是又相糺可申出候、

一家中之内_三吉平何某与申もの有之由、前代現和村地頭職たりし由、右之家筋御用見合相成候間、系

図又者由緒書付格護可有之候間可差出候、

一元祖信基、種子島江被封候節、鎌倉より召列罷下候者廿余人之子孫有之由、其節之名前且子孫何某与申者ニ候哉、是又可申出候、

一島主頼時、貞治五年肥前日之岡ニ而戦死之節、從士戰没名前、

一同久時、天正十四年、義久公築紫上野之介御攻(伏力)代之節從士六人同断、

一右同肥豊二州諸所御攻伐之節同断、

一同天正十五年豊州南郡ニ而歳久君御退去之節、敵追掛御危難之砌、久時從士十余人殿之名字、

一同天正六年日州高城ニ而大友殿會戦之節、從士同断、

一同文祿・慶長之間朝鮮之役、從士同断、

一同慶長四年庄内安永御出陳之節、同断、

一右之外弘治・天正之間時堯・久時、貴久公・義弘公奉屬諸所合戦之節同断、

一觀應三年壬辰正月根占清有を以種子島半分之地頭

職ニ被補候事、

一右年間之比ニ而茂候半、根占弥二郎を以種子島現和村地頭職ニ被補候事、

一天正年間南蠻船漂着初而鉄炮を相傳、翌年又々來着打方火薬調合等相傳へ筋与相見得候、

右火薬調合方ニ付而者、いつかたの硫黄を以製候哉、其事詳不相知候間、島中ニ而硫黄取得候

哉、外島江相掛取得候哉、相知居筈候間細々可申出候、

一右鉄炮相傳候節者、島主加賀守恵時家督中ニ而者有之間敷哉、書出ニ者其子左近將監時堯代与有之候、此儀相糺可申出候、

張紙

一加賀守恵時入道意鈔

右文龜三年癸亥生、天文十二年四十壹歳、永録十年丁卯卒、行年六十五歳、

一右嫡子左近將監時堯入道可鈔

(天正)右亨録元年戊子生、天文十二年十六歳、

一 右鉄炮臺ニ漢字ニ而故郷与文字彫付有之候、南蠻之儀横文字相用事候處、南蠻より直登り之鉄炮江漢字有之候儀、甚不審之事ニ候、此儀委曲相糺可申出候、

但其節之蠻船江明人五峯といふ者便船ニ而乘居候筋相見得候、いかさま右之ものニ而茂為書事候哉、何様之意味ニ而故郷与いふ文字を為書候哉、是又相糺可申出候、

一 或記ニ蠻船漂着之節言語不通何國之船共不知候處、明人五峯と云ふ儒者便船ニ而乘居たるゆへ、日州龍源寺忠首座と云僧筆談して蠻船なる事相知、蠻賈之長牟良叔舎というもの鉄炮を携居ける故、時尙厚禮物を送り、火薬調合器之製作、且又打方ニ付而者、正心思無邪直身正氣眼睛眇々等之心術躰法等委敷相傳わる、都而五峯と忠首座との筆談にて候由相見得候、右筆談之儀委敷書記候もの可有之候間、相糺可差出候、
右之通再撰方御用相成候間、近便より島元江申

越、細々相糺、可成長差急可差出候、以上、

御記録方添役再撰方掛
五代直左衛門

亥三月九日

種子島屋敷詰

役人中

一元祖肥後守時信之代、北條時政以執奏賜多称島領とす、其時種子島之地頭大浦口氏ニ而候處、時信有所思大浦口氏与藤原氏并幕之紋を乞請て、家之佳例を以時信を改て信基とする由相見得候、右大浦口氏者何等之人ニ而候哉、其時分一應之地頭職ニ而候哉、其子孫何様相成候哉、

一 左近將監清時代、元久公より忠節之賞として應永十年十月八日屋久・恵良部両島を賜之筋相見得候、右忠節之賞とハ父頼時之忠死を被賞両島を給候哉、又清時別段之忠節為有之事候哉、其事委敷家譜ニ不相見得候間、何様之訳委敷可申出事、
一 左近將監久時、種子・屋久・永良部三島を轉し薩州知覽院を拜領し、慶長四年己亥又々本領種子島

を給、此時屋久・永良部両島者暫時借地となり、
後終ニ公領となり候筋相見得候、右屋久・永良部
両島暫借と相成、其後何様之訳ニ而公領と相成候
哉、其事其年間委敷可申出事、

○十一日、與ニ米十五石于西之村ニ、賞下洪水傷田
許多不レ待ニ府庫之助ニ修築之上也、

○同日、定ニ習ニ鐵炮ニ場于池田黒山尻上、

○十七日、赴ニ于覺府ニ、家老・側用人・近習役兼
上妻隼多、船奉行・行列奉行兼美座流石・醫師柳
田喜碩等從レ之、七時到ニ于山川ニ、

○同日、締方横目稻留ニ左衛門・大野源五右衛門
歸、

○十九日、大島飛船一艘、船長佐美屋・水梢等十六
人漂ニ到于中之村ニ、本月七日大島開レ港、洋中風
浪悪、盡捨ニ載貨ニ、絶レ食七日、唯隨ニ風潮ニ漂到
云、即締方横目川上源七郎・四元甚助、吾横目長
野良左衛門・西村甚四郎到ニ彼地ニ、檢ニ察之、

聞ニ于官ニ、

○廿三日、與ニ米二斗于飛船船頭良助ニ、賞ニ六日而
往ニ來于覺府ニ也、

○廿五日、家老種子島五郎左衛門政賢・羽生平兵衛
能寧・種子島十左衛門時雍、物奉行種子島平左衛
門時甫・日高源右衛門爲武、其余用人・組頭觀ニ
射于本源寺弓場ニ、西村七郎・川東仲太夫・川内
六郎、多胃府當束矢、八板藤藏金之的束矢、

○廿九日、與ニ米六斗于西市街吉兵衛ニ、嘗林玄悦
館ニ吉兵衛宅ニ發レ病、吉兵衛町嚙省視、故賞レ之
也、又使ニ嘉助保ニ護其病ニ故與ニ綿布一端ニ、

○以ニ要用集之事ニ、點ニ檢一島之戸口・寺社・村里
之數、或丁夫或祿地等ニ、聞レ之如レ例、

○四月四日、足輕上妻善之允去年十一月廿三日夜
盜下所ニ在ニ于北條織部玄関ニ脇指上、即被レ囚レ牢今
日赦レ之、

○八日、以ニ美座矢太ニ爲ニ近習役見習ニ、與ニ扶持高
十五石ニ、如レ之撰ニ専多レ利之吏ニ、使ニ人代ニ矢

太、與_二其賊于矢太_一二年、且與_二妻子_一共役_二于覺府_一、

○同日、異國方御用人志岐休之進禁_三私商_二唐貨_一、且示_二糸荷船漂來之法_一、如_レ例、

○十五日、以_二異國船來之候_一、國老北鄉内記久珉・川上久馬久芳・島津但馬久風傳_二長崎奉行之命_一、如_レ例、

○廿四日、現和村百姓山右衛門宅火、人馬・宗門手札等無_レ恙、

○廿五日、平山村百姓兵助宅火、延及_二源藏宅_一、人馬・宗門手札等無_レ恙、

○晦日、以_二虫喰_二甘藷之苗_一使_二僧徒禳_レ之、

○下村善左衛門・三浦藤兵衛寺入各_二二七日_一、坐_レ爲_二代官_一簿書不_レ正也、

○五月五日、與_二粽各_二一束于_二三箇寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、

○十二日、以_二碩旱_一使_二僧徒會_二本源寺_一祈_レ雨、十三日、得_レ雨、

○廿二日、託_二大坂池田屋太右衛門_一求_二得_二一年_一所_レ收穀種於土佐國、施_二之一島_一令_二蕃殖_一、不_レ登、竟止、

○六月十九日、山崎六郎寺入七日、坐_レ爲_二普請方_一下吏_二簿書不_レ正也、

○廿四日、使_二三箇寺及一島諸寺_一一七日誦_レ經_中喰_二甘藷苗_一虫_上、

○閏六月二日、與_二米六斗于兩市街及三箇浦_一、嘗載_レ米船、於_二港口_一及_二難船_一、是輩相集救助令_レ入_二港口_一、故及_レ茲、

○十六日、中山國義村王子赴_二于覺府_一、以_二風不順_一來_二于此地_一締方橫目川上源七郎・四元甚助・吾橫目岩河喜太郎・長野良左衛門等檢察聞_二于官_一、廿九日、令_二池村甚之進_一・宮浦半之允護_二送于山川_一、

○十八日、與_二米四斗于兩市街_一、轉_二送材于覺府_一之日勤_二勞載_レ之事_一故也、

○廿九日、夏越之式、如_レ例、

- 七月七日、飾_二日深公鎧于廣間_一、家老羽生半兵衛能寧拜_レ之、
- 同日、以_二上妻隼多・羽生惣十郎・西村源助・前田新五兵衛_一爲_二組頭_一、國上伴九郎納戶奉行、八板藤角兵具奉行、
- 同日、褒_二詞遠藤仲之允_一賞_下學_二劍法于加藤家_一受_二其傳_一被_レ免_中代_レ師指南上、
- 同日、到_レ夜母孺人病大漸、家老・物奉行・用人通管侍候、省_二視之_一、且促_二飛船_一告_二于覺府_一、
- 八日、使_二僧徒誦_レ經_一祈_二母孺人快愈_一、
- 同日、名代家老前田太兵衛宗周於_二大會寺_一祭_二先祖・宗祖及戰死靈_一、
- 九日、夜寅刻母孺人逝_二于下邸_一、法諱清孝院殿妙瑞日光大姉、禁_二音樂・遊興・月代_一五十日、殺生百日、普請作事三十日、漁戶釣漁及家職有_レ聲者七日、促_二飛船_一告_二于覺府_一、又家老・物奉行・用人代上妻小左衛門、諸奉行・諸士代羽生直一郎、赴_二于覺府_一候_二安否_一、

- 十日酉刻、本源寺遠成院日健從_二一山之衆徒_一朝_二下邸_一、殮_二清孝院殿_一、十一日夜戌刻、慈遠寺南光院日僉從_二衆徒十五人_一朝_二下邸_一、迎_二清孝院殿_一入_二本源寺_一方丈、僧徒誦_レ經畢、斯殯_二西之地_一、行_二喪于本源寺_一方丈二十日、名代種子島五郎左衛門政賢、孺人名代時任丈左衛門時子、久美・婦美・政袈裟名代西村喜右衛門、左登・時中名代河内寛右衛門、中陰奉行西村次郎兵衛・長野良左衛門、靈膳奉行西村權太夫・田上市郎、作事奉行上妻新右衛門・羽生新十郎、
- 十一日、孺人之字隣、舊訓_二千賀_一、今改爲_二武良_一、
- 十三日、名代家老時任一角時子詣_二于慈遠寺_一、祭_二先祖及祖師日蓮・戰死之靈_一、十四日、名代家老前田太兵衛宗周詣_二于本源寺_一、祭_二祖師日蓮_一、十六日、名代家老種子島鄉兵衛時雍於_二本源寺_一祭_二祖先及戰死靈_一、
- 例年於方丈祭之、今以設清孝院殿神位於位牌所祭之、
- 今歲兩市街祭禮樂止、以_二清孝院殿喪_一也、

○廿一日、以_二寺社奉行之令_一、書_二記一島之諸寺_一、呈_レ之、記_二于左_一、

○一五〇 西村時宴外二名連署覺

覺

- 種_二子島_一
- 麗吉祥山
- 本源寺塔中
- 西之表村
- 麗華葎山
- 慈遠寺塔中
- 西之表村
- 麗龍華山
- 國上村
- 安納村
- 現和村
- 同所之
- 安城村
- 古田村
- 蓮勝寺
- 妙泰寺
- 大聖寺
- 隆興寺
- 本蓮寺
- 本法寺
- 大會寺
- 滿德寺
- 妙法寺
- 慈遠寺
- 妙泉寺
- 妙久寺
- 本源寺

右廿七ヶ寺差立申寺_二而、学侶共住職之由_二而御座候、

- 住吉村
- 納官村
- 増田村
- 野間村林高山
- 油久村
- 坂井村
- 平山村
- 上里村
- 莖永村
- 中之村
- 西之村
- 右同
- 右同
- 島間村
- 本成寺
- 妙昌寺
- 清淨寺
- 日輪寺
- 本隆寺
- 淨光寺
- 善福寺
- 善林寺
- 遠妙寺
- 本善寺
- 本因寺
- 隆泉寺
- 金剛寺
- 本妙寺
- 上行寺
- 納官村妙昌寺塔中
- 妙頭寺

右同

妙蓮寺

野間村日輪寺塔中
竹林寺

右同

別當寺

油久村本隆寺塔中
成就寺

右同

慈源寺

坂井村淨光寺塔中
正法寺

右同

隆源寺

中之村本善寺塔中
極楽寺

右十ヶ寺之儀者、寺号付三而者御座候得共、塔中

之寺三而脇坊同断三而御座候、合三十七ヶ寺惣而

所修甫三而、御物修甫寺院一切無御座候、

右寺院員數并寺号且御物修甫・所修甫之訳相記

申上候様、寺社御奉行所より被仰渡、右之通御

座候間、此段御申被下度奉存候、以上、

寺見廻

西村十郎次

西村次郎兵衛

亥
七月廿日

西村甚四郎

御役人衆中

○廿七日、種子島次郎右衛門來、八郎次時中爲

葬三清孝院殿一發三覺府一、到三山川港一病而歸、次

郎右衛門從三時中一弔レ喪者也、

○晦日、葬三清孝院殿一、卯刻本源寺出棺、於三慈遠

寺境内御坊二行三葬禮一、開棺大會寺代宜順院日

完、茶湯本妙寺代本慈院、靈具日輪寺代大高院、

歎德慈遠寺南光院日念、引導本源寺遠成院日健、

岩河喜太郎時行代三久道一捧三神主一、日高杉右衛

門代三孺人一行レ香、其余略レ之、

○國老河上久馬久芳傳、命示レ覺都諸有司以三公

事一通路之日接三對之三事一、開三于左一、

○一五一 川上久芳申渡書

大番頭以下御側役以上御用ニ付諸郷罷通候節者、

郷士罷出不及、郷者村役、町三而者町役罷出、先

立案内等いたし候様可相心得旨先年申渡置候得

共、以來御役、通行之節者郷士耆人罷出案内可致

候、其外是迄之通可相心得候、右之通相心得、私

領之儀茂右ニ可準備候、此旨地頭・領主可承向へ可

申渡候、

七月

(川上久秀)
久馬

○按察鬼吏支丹宗聞于官、如例、

○八月十二日、西之村・中之村・莖永村田地不

登、減賦有差、

○廿日、與米各二斗于飛船船頭弥助・宇右衛門、

告母孺人疾病及逝去于覺府、兩人共六日而往

來故賞之也、

○廿一日、種子島次郎右衛門歸、

○廿二日、西街之八ヶ代平作・大木七太郎・濱田嘉

吉禁錮、坐十五日夜隨締方横目泛舟于鴨女

川不憚喪中遊興也、

○九月二日、家老上疏啓製砂糖之術、事開于

左、

○一五二 知覽行寬口上覺

口上覺

一私領於種子島御試砂糖製法 御免許被仰付儀ニ御座候ハ、仕向等之次第左ニ申上候、

一種子島之儀者、山野手廣、外作式難仕場所而已

多、右様之空地を仕明仕、黍植付申候ハ、追々者

相應ニ出来可仕、勿論現地を潰し黍植付仕申儀曾

而無御座候、依之未見越之儀ニ而取窮候次第難申

上候得共、黍相當之地面与往古より申傳候、

一此涯蒙 御免申候ハ、黍種子相求來春より植付

方一統出情(種)為仕可申、左様御座候ハ、先六七ヶ

年ニ相及候ハ、大鉢百萬斤程者可然内評ニ御座

候、

一追々黍過分ニ致出来事成立申候ハ、製法所一ヶ

所ニ而者相濟申間敷、二三ヶ所取仕立可仕候、

御取締之儀者何様共御差圖次第可奉畏候、勿論砂

糖出来仕候ハ、自船を以山川又者大坂表ニ而茂御

差圖次第差登可仕候、於其儀者御見合を以運賃被

仰付度奉存候、

一 出来砂糖斤高應歩割を以御取納被仰付筋ニ而も何分御沙汰次第奉存候、於其儀者代米等申請不申候、

一 砂糖車且樽樽調用之雜木并薪等茂有之場所ニ而便利宜敷、殊更端島之儀ニ而百姓者勿論浦濱人共稼方無之ニ付、右通空地委作仕、藏方江買入申事ニ成立申候ハ、余計之作徳を以至極之潤ニ罷成、御蔭を以差繰宜敷重疊難有奉存候、

一 前条通御免許之上、自然抜砂糖企候儀共被聞召上候ハ、砂糖製法方御取揚者勿論、掛役、大形ニ付而者何様共御法様次第可奉長候、

右之通、砂糖製法 御免被仰付儀ニ御座候得者、ケ条書之通之仕向ニ而、役々相心得罷居申候、此段申上候、以上、

九月二日 種子島伊勢役人(行寛) 知覽才兵衛
砂糖方 御代官所

〇一五三 知覽行寛覚

覚

一 出来砂糖百万斤

右之内三部一差上候得者

御物砂糖三十三万三千三百三十三斤

百斤ニ付六貫五百文替ニシテ

代錢二万六千六百六十六貫六百文成

殘砂糖六十六万六千六百六十六斤成

代錢四万六千六百三十三貫三百文成

内砂糖五十一万式千八百式十斤成

代錢三万三千三百三十三貫三百文成

右雜費砂糖一斤ニ付三十式文ツ、之宛

殘

砂糖十五万三千八百四十六斤

代錢九千九百九十九貫九百文成

右藏方益分

右者、砂糖出来百萬斤相并候算面、大駄右之通御

座候、為御見合申上候、以上、

九月二日
砂糖方
御代官所

○河上久馬久芳傳、命、見許、製、砂糖、事開、
于左、

○一五四 川上久芳申渡書

種子嶋伊勢

右、先年以來藏方難渋之上無類之凶作、而、島中
人躰及飢候儀茂有之、追々吉凶之入價打續、殊々
遠海之儀、候得者金錢不通融、而、何土産之品、
而無之候而者、外ニ補方之趣法無之ニ付、砂糖製
法方、御免被、仰付度願被申出、旁無據趣ニ付願
之通被、仰付候、左候而砂糖上納且納方等之儀、
付而者、追而何分可申渡候、

右、可申渡候、

九月

（川上久芳）
久馬

○五日、締方横目東郷十右衛門・谷元六右衛門來、
○九日、使、上妻隼多講、法令書、如、例、
○十二日、馬追、名代家老前田太兵衛宗周、馬役西
村權太夫・河内六郎・前田次郎左衛門・西村蔵
多、

○國老川上久馬傳、命、賦、每人銀壹匁、牛馬各

一匹壹匁、船自、八端帆、至、廿三端、每、壹端、八
匁、自、五端帆、至、七端帆、每、一端、五匁、四端
帆以下橋舟至、川平駄、每、一端、二匁、

○以、清孝院殿逝去、與、高一石于女中廣瀬、五
斗于楚屋、金子三兩于古麻、綿布各一端、青銅各
百足花舞・須義・婦佐、與、高五斗于僕濱田藤太
郎、以、各數年勤仕、也、

○廿七日、川上源七郎・四本甚助歸、

○與、金子各二百足于醫吉良見竜・柳田泰庵、賞、
清孝院殿病中無、輪替、日診、脈勤勞、也、又與、金
子各百足于緒方曾筆・井元玄仙・河東三折・櫻井

春章・柳田喜頌・吉良玄民・緒方弘惠・中田圓泰一、

○以請製糖之故、砂糖方代官見示處置之法、書數章、委記別格、

○十月九日、名代種子島五郎左衛門政賢詣于本源寺、盛供宗祖日蓮之菓子、

○十日、家老・物奉行・用人・組頭觀武藝、一番鎗術師範種子島大五郎、次劍術天真流師日高孝兵衛・遠藤忠之允、次示現流師宮浦半右衛門・吉良吉次郎、次性一流師羽生主右衛門、十一日、心影之流師長野良左衛門、次水之流師羽生嘉右衛門・梶原源左衛門代上妻七郎左衛門・長野良左衛門・下村黒人、次金子流拳法師鮫島貞哉、次無双流師足輕大瀬源兵衛、

○同日、名代羽生半兵衛能寧詣于本源寺祭宗祖日蓮、十三日、名代前田太兵衛宗周詣于本源寺祭日蓮、

○十二日、歸自指宿溫泉、

○十八日・十九日、修清孝院殿百箇日忌于本源寺、初日八講眞讀、結日頓寫說道、出家五十人、名代種子島十左衛門時雍、孺人名代羽生半兵衛能寧、法事奉行上妻小左衛門・上妻隼多、靈膳奉行種子島茂助・西村熊之助、

○廿二日、上西之表百姓喜兵衛為二世足輕與新園氏、僧寬事院納金八十兩助府庫、然喜兵衛與寬事院姻婭、故為足輕寬事院生涯扶助之一、

○同日、以納官村濱津脇之貞右衛門為代々野町人、賞納金于府庫也、

○十一月一日、以清孝院殿百箇日法事、赦本原長次・河口順左衛門・鮫島嘉右衛門・榎本半次、池田浦之治右衛門、

○三日、坂井村柁瀉塩戸旋風大起壞塩屋、煽火人家盡燒亡、揚漁舟于空中、或落水中、或落石上、或破、或損、皆云、潛龍起、人馬・手札等無恙、事聞于官、

○廿二日、中山王賜練芭蕉布各三端于家老種子島五郎左衛門政賢・羽生平兵衛能寧・前田太兵衛宗周・種子島十左衛門時雍、同各二端于用人二人・船奉行一人、下布各二端于年行司及辨指、以被謝_下去年義村王子來此地煩_中諸有司上、與那原親方贈_レ書達_レ之、

○廿三日、褒詞渡邊源十郎與銀五枚、爲物奉行初役于覺府能稱其職、且數回到溪山蠟澄所傳製蠟法、勤勞砂糖製法等事、故及茲、

○廿六日、加與永代高十五石于知覽才兵衛、賞數年役于覺邸、當府庫空耗多難之時能辨出米之事、請製糖以務貨殖協其職也、

○褒詞長野兩助、賞勤勞砂糖及蠟製法等事也、

○按察一向宗告于官、如例、

○十二月五日、鍛治牧瀨木工兵衛從島津山城臣村尾新助受甲伏鍛之傳、鍛腰刀獻之、即贈

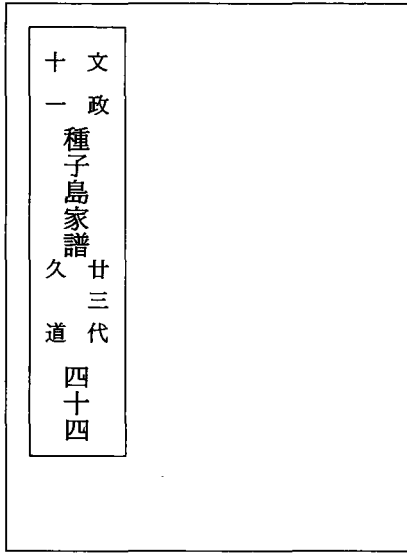
福多目于村尾謝之、

○十三日、上妻新七獻斗搗之餅、如例、

○廿七日、三箇寺・廿人家及鍛治賀歲暮獻上、如例、

○歲暮之規式、如例、

(表紙)



- 文政十一年戊子正月元日、諸式依舊、
- 同日、國上村猷三野老、
- 二日、國上村猷三瀨物、現和村庄司浦猷三鰻、
- 同日、覽三馬于廣間庭、名代家老前田太兵衛宗周、馬役河内六郎時然、
- 同日、八箇寺進上如例、名代家老前田太兵衛宗周、

- 四日、上之郡諸庄屋・小觸進上、如例、
- 六日、初狩、三組頭西村源助時之・上妻七兵衛右武・前田新五兵衛宗之、山奉行河内十郎政始・河東仲太夫・日高源七郎・知覽翁之允、夕狩場、名代家老種子嶋五郎左衛門政賢、物奉行渡邊源十郎直、用人岩河喜太郎時行、西之表庄屋獻上如例、牧源太左衛門獲レ猪、猶原覺七獲レ鹿、即賜二鹿于西之表庄屋一、
- 七日、中之郡・下之郡諸庄官進上、如例、
- 十一日、軍陣・温坐祈念如例、黄昏的始、射手一番美座六七河内六七、二番鮫島半五下村黒人、三番羽生紋九郎八板藤藏、名代家老時任一角時子、用人上妻七兵衛右武、
- 同日、官被レ命二興國寺火消一、
- 同日、古田村蓮勝寺進上、如例、
- 同日、在郷諸寺進上、如例、
- 同日、開二甲冑之賀筵一、如例、
- 同日、贈二佳札于兩本山一、
- 十二日、東町之龍右衛門船、到于加籠歸路於

箱崎一破、締方横目東郷十右衛門・谷元六右衛門、吾横目岩河喜太郎時行・長野良左衛門武清、

檢察舟以告于官、

○十四日、以村々田地破損多、命各以其村之丁夫可也加修治、隨其所損大小計丁役多寡與米、

○以將軍之世子稱家祥公禁祥字及同唱字、國老島津但馬久風傳命、

○二月三日、賜于安納村村吏公儀流人柳見死、締方横目東郷十右衛門・谷元六右衛門、吾横目西村次郎兵衛・西村甚四郎、檢察骸以告于官、

○七日、下西之表足輕大瀬休兵衛一世許伐明畑、

以下久為植木見舞勤勞也、

○十一日、令牧瀬木工兵衛則房納鐵十二本于武庫、以免課役、

○同月、納三狩所獲鹿皮一枚于官、

○同月、按察一向宗告于官、如例、

○廿一日、上西之表長山市之進、以納錢三十貫文為二代郷士、

○同日、以西之表百姓幾右衛門納錢三十貫文為二世足輕、與其子三之進川口氏、事開左、

○一五五 褒賞覺

御朱 奉向處幾右衛門より三之進迄可被仰付御趣意之由 仮令幾右衛門

一世足輕 幾右衛門

家督なからも老年二而嫡子迄 右之嫡子 一名字川口 三之進

被仰付与之御趣意之由相見得候、

右、御藏方御難渋之旨趣汲受、於此元錢三十貫

文致進上、御時節柄奇特之至被 思召上、右之通被仰付候、

○廿八日、以美座六兵衛為船奉行、

○三月三日、使西村次郎兵衛讀法令書于廣間、

○同日、與艾餅于三箇寺、慈遠寺献同品、

○同日、賀瀬引、西之表保正献酒肴、如例、

○同日、子島三十郎初目見、從^レ例獻^二征矢^一筋^二、
○六日、以^二種子嶋嘉三太時習・河内六郎時然^一為^二
兵具奉行^一、

○同日、以^二羽生新十郎・河内覺右衛門^一為^二高奉
行^一、知覽才之允・笹河翁十郎馬役、

○同日、西之表村百姓喜作・新吉・休之進・諸次
郎、以^レ學^二無双流拳法^一為^二兵具所附足輕^一、喜作
與^二岩重氏^一、新吉小村、休之進藤田、諸次郎中
原、

○十五日、締方横目森喜右衛門・松田半之丞來、

○同月、國老島津但馬久風・北郷内記久珉、定^二衣
服製^二禁^二驕奢之風^一、如^レ左、

○一五六 北郷久珉覺

覺

此節一統鹿服被仰渡候^ニ付者、^(而脱之)木綿又者布類買入
者數多可有之候間、相當之直段を以可致賣買、尤
不依何色都而之諸色茂同断之事候間、万一時節を

不弁、其身之利徳ニ迷ひ不相當之高直賣出候者有
之候、名元聞届筋、江相付其段可申出候、勿論見
聞を掛置候付、違背之者於有之者吃与可及御取
扱、此旨町中江可申渡置旨町奉行江申渡、向、江
致通達、諸郷・私領江も可申渡候、

三月

^{北郷久珉}
内記

○一五七 北郷久珉・島津久風連署申渡書

衣服之儀、御一門方家各方日野紬・大織木綿ニ而
も被相用、一所持以下者大織類相用、式々之礼服
者是迄之通ニ而、以來相用候衣服者可為鹿品、奥
向之拜領之衣服之儀者勝手次第ニ候、婦人衣服之
儀者右可準、尤礼式ニ相掛候節も持合之絹模樣付
着用不苦候、櫛かうかひ等間ニ者結構成も有之
由、是又夫々分限ニ應^レし衣服釣合候品可相用候、
郷士以下之者共者衣服并帯等ニ至迄都而木綿亦者
布類相用、女服之儀も同断ニ而、模樣付等急度不
相成候、銀の髪さし籠甲爪之かうかひ等一切

無用申付候、

一元服并初而之御目見

一隱居家督

一御役并御役替

一嫡子誕生祝

一婚礼

右ケ条祝物取替之儀者、御一門方より大身分迄御側役以上之御役人肴一折、依向柄輕重者可有之候、御留主居以下諸役人肴代青銅十疋、小番以下者青銅、且元服御目見等ニ付兩種不相贈候而不叶節者、別而輕めニいたし候儀勝手次第、

一前件ケ条等之節、御一門大身分迄御側役以上吸物二ツ計、取肴二三種之間勝手次第、一汁一菜、輕き菓子者勝手次第、御留主居以下之御役人其外諸組中迄吸物壹ツ、取肴二種、一汁壹菜、茶漬等ニ而も勝手次第、右ケ条外者祝等一切不相成候、

但泊番有之候面々等初泊家督ニ付、酒肴差出候

儀是以一切不相成候、

一年頭松飾之儀も、外廻之門迄ニ手輕松重等之御備

ニも被成置候ハ、往々御勝手向御立直之期可相

成候、第一御繰登之品ニ相模合八万両之補も有之

候様、無左候而者御趣法被相替之詮無之候ニ付、

精々尽吟味、其詮相見得候様一涯可致精勤、奥向

并大奥向者勿論、御身邊之儀迄も御事を被為欠御

取縮被仰付 御思召候間、存付之儀者其通可有之

与之趣者從 御兩殿様追々被仰出、不容易尊慮之

程誠以難有奉恐入次第ニ候条、一統厚奉汲受、精

々掛心頭、小事逆も心附候儀者無遠慮申出、急度

御取縮之詮相立候様面々精勤可有之候旨、夫々御

役場江も則申渡置候、然處近年一体之風俗花美至

極成立言語同断^(通)ニ候、服制・饗應・音信・贈答、

其外之儀共先年以来分而枝可相立候、

一上巳者草之餅與中付取遣等者一切不相成候、煮染

等之儀も可致無用候、端午之儀も可為同断、右外

之儀も前条ニ準一切取遣等無用申付候、右者御所

帶向連年御難波ニ成立、既ニ公邊御動向難被為調

程之御時節故、諸人も一統困窮なり与無余儀出銀米をも被仰付、誠ニ御氣之毒被思召上、依之御兩殿様彼是御配慮被為在、此度大坂表之御借銀来卯之年迄三元利被及御断、京都・江戸をも追々同断御取計之筈候、右ニ付此迄之御拂地为見當八万兩程此節於大坂御借入ニ相成、左候而以来者年々御産物料之内を以御取續之御余勢丈者取續置御借財御元済、又者御上納申渡候向も候處、程過次第ニ能目成行、當時者殊之外衣服を飾、不相應之參會酒宴を催し、御時節をも不顧甚以不可然事共候、右様之風儀故格別成上納銀さへも延御断等申候向も有之、早竟無益之事共ニ身上令零落、夫故纒之御用茂難相立、兼而儉約を用、此節躰御用等者無滞相動、余計有之者者、別段御用をも相動候社本意之處、右次第如何之至候、依之此節猶又右ヶ条書之通被仰出候間、以来者急度風俗法制を不相乱、質素を心掛候様可申渡旨御沙汰被為在候条、深此旨可相守候、右ニ付而者見聞役を茂掛置候

間、萬一破御法者於有之而者名元札、急度御咎目可被仰付候、此段向々江致通達、諸郷・私領江も不洩様可申渡候、

三月

(島津久馬) 但馬 (北郷久環) 内記

○縮方横目東郷十右衛門・谷元六右衛門歸、

○四月八日、異國方御用人村橋昇久隆禁_三私商_二

唐貨_一、示_三糸荷船漂来之日處置之法_一、如_レ例、

○九日、與_三米_二俵于西村權右衛門_一、以_レ獻_三其家所_レ藏鐵炮傳書_一也、

○十日、罷_三莖永村郷土古市市兵衛横目_一、寺_三入于

淨光寺_一 三十七日、罷_二日高越右衛門横目_一、寺_三入

于本隆寺_一 三十七日、罷_二梶原儀兵衛横目_一、寺_三入

于本妙寺_一 三十七日、罷_二日高仁左衛門保正_一、寺_三

入于日輪寺_一 三十七日、嚮_三以_二府庫困窮_一物奉行等

回_三諸村_一、令_下有_三餘貨_一者納_三于府庫_一助_中費用_上、

且命_レ植_三甘蔗_一、彼輩有_二偽肯_一之竊欺_レ上誣_レ下之

事、故及茲、連及叱池龜八百右衛門、

○十五日、以異國船來之候、國老北郷内記久珉

・町田監物久視・島津丹波久長・島津但馬久風傳命、如例、

○廿二日、觀射于本源寺弓場三役・組
頭失姓名、三の束矢、

西村熊之助軍勢書入束矢、日高周左衛門金之的束矢、知覽才之允賞之、如例、

○廿五日、與清孝院殿遺物于三役及奧醫師、有差、

○同月、與高一石于西村權太夫姉、以下為第一女子久傳女、數年勤勞也、

○廿七日、官訝種子嶋丁夫・有職者甚多、郡奉行知覽源太兵衛・西村太平次上疏辨之、事開于左、

○一五八 西村太平次・知覽源太兵衛連署

覚

覚

種子嶋用夫改元ニ付纔十ヶ村余も有之處ニ、外之

諸郷とハ格別致相違、用水掛并ニ名主多人數召入候儀、何様之訳合ニ而候哉、しらへ方いたし可申

出旨被仰渡承知仕候、用水掛之儀、爰ニ而者大河無之平嶋故欵、水少ニ御座候付、田地用水之分

口毎ニ水守申付不申候得者、作人者自分之水を引落申候付、數人申付置無親疎様為計申事ニ御座

候、名主之儀者田地一面ニ少々ツ、所々ニ有之場所而已ニ而、家も其通御座候得者、少人數ニ而者

難調、模寄くニ召付置申候、時々之寄役ニ而者請込申儀難調御座候付、數人召仕申事ニ御座候、

依而此段御申被下度奉頼上候、以上、

郡見舞

知覽源太兵衛

四月廿七日

西村太平次

御役人衆中

○四月、孺人年寄女龜野以老請致仕見許之、

賞數十年勤勞、歲賜米二十俵養老、且命下

朝于大奧二候、安否、可賀中慶事上、國老島津丹波久長傳之、如左、

○一五九 島津久長達書

御養料二拾俵

御年寄

於隣殿御附

龜野

右及老年步行不自由ニ罷成、長々御暇被下度申出趣有之、願之通御暇被下候、數十ヶ年首尾能相勤候ニ付、諸給分拜借等被下切被仰付候、一世右之通被下置、已來大奧江罷上リ御祝儀御機嫌同等申上候様被仰出候、

四月

(島津久長)
丹波

○五月五日、與二粽二束于三箇寺一、慈遠寺献二同

品、

○六日、修二聞法院十七回忌于本源寺西之坊一、

○十二日、河島嘉軒娘_{登毛}禁錮、坐_下為二女子_{政要}之侍

女二時有_中不好之行上_也、

○和氣新左衛門・緒方權右衛門寺入各七日、坐_下和氣為二蠟澄所下吏一、緒方島間蠟澄方下吏共其簿不_レ正_上也、

○廿二日、山崎六郎寺ニ入于滿徳寺一七日、罪_下嘗為二普請方下吏一簿中不_レ記_中杉十本上_也、

○按三察一向宗一告于官、如_レ例、

○六月四日、油久村・古田村・住吉村・島間村・中之村・西之村・莖永村・平山村、各蝗、

○八日、百姓休五左衛門・幾右衛門・角之允・新右衛門・新造・休右衛門・惣之允・市右衛門・諸吉

・惣太郎・貞右衛門・次郎太・新右衛門、自稱二足輕一、市右衛門・新造・新右衛門犯二榎本氏一、

休五左衛門・惣之允犯二秋山氏一、幾右衛門・次郎太犯二河口氏一、角之允犯二長野氏一、休右衛門

犯二長山氏一、諸吉犯二大瀬氏一、惣太郎犯二徳永氏一、貞右衛門犯二山口氏一、新右衛門犯二鮫島

氏一、事發覺、盡為二庶人一藉_二没其高一、

○十六日、有所思轉_レ初狩正月六日、為_レ五日_{以聞}法院忌

○廿七日、上妻源吉寺入于本因寺、罪_下正月十二日乘_レ馬入_レ自_二本源寺山門_一過_二影堂前_一出_二于裏門_一、其行大不敬_上也、親新七坐_二平日教_レ子不_レ嚴逼塞_二十七日_一、

○同日、道具番日高武平太・牧瀬喜三太寺入各七日、坐_下正月十二日為_二本源寺警固_一、令_下上妻源吉乘_レ馬經_レ過_二堂前_甲也、

○廿九日、夏越之式、如_レ例、

○七月七日、飾_二日深公鑑_一、家老羽生半兵衛能寧拜、

○八日、名代時任一角時子於_二大會寺_一祭_二祖先及宗祖_一・戰死靈、

○八月九日、修_二清孝院殿一周忌于本源寺_一、初日八講眞讀、結日頓寫說道、名代羽生半兵衛能寧、孺人名代前田太兵衛宗周、法事奉行西村甚四郎時宴・西村十郎次時興、靈膳奉行西村權太夫・種子

島嘉三太出家五十人、

○十三日、名代前田太兵衛宗周於_二慈遠寺_一祭_二先祖及宗祖_一・戰死靈、十四日、名代種子嶋十左衛門時雍於_二本源寺_一祭_二宗祖_一、十六日、名代種子嶋五郎左衛門政賢於_二本源寺方丈_一祭_二祖先及戰死靈_一、

○十九日、日高仙太夫・古市木工兵衛寺入各二七日、牧藤五郎・三浦藤兵衛寺入各三七日、坐_下日高・古市為_二米倉吏_一、牧・三浦為_二船手吏_一、共簿中重復_上也、

○廿七日、以_二平山一右衛門_一為_二用人見習_一、羽生半左衛門兵具奉行、鮫嶋孫右衛門普請奉行、羽生主右衛門高奉行、宮浦藤九郎山奉行、

○同日、以_二清孝院殿一周忌_一、赦_二河島嘉軒女_一、

○廿九日、馬追、名代種子嶋五郎左衛門政賢、物奉行渡邊源十郎直、用人上妻七兵衛右武、馬役西村惣次・知覽才之允・笹川翁十郎、

○國老島津丹波久長傳_レ命、以_レ改_二鑄_二朱判金銀_一

過來年丑二月禁通用故二朱判、

○按二察鬼利支丹宗二聞于官、如例、

○八月一日、與二中紙各二束三箇寺、慈遠寺獻二物品、

○七日、締方横目大野源五右衛門、川上源七郎來、

○九日、以二上妻七兵衛二為二側用人兼近習役二用、如故、

○同日夜亥刻、颯風一條廣可三丈起自二現和村大峰、

向二東北吹去、壞二本立人家、出二于菖蒲平、向二北過二國上村寺之門、到二奧轉折、過二大原、

出二于海、其所二觸巖崩峰割、樹木無二大小一折摧、揚二巨松二牽二數町外、沉於二入屋二乎、國上

村倒家十三、觸損者不レ知數、就二中河內勘左衛門家倒、勘左衛門及外孫河內嘉平太女子為二材

所二壓即死、嘉平太妻得二隣人之救二纔免二死后經二日、然火起、瞬息中盡燒亡、二人骸亦為二灰、又

百姓新次郎家倒、其妻壓死、締方横目森喜右衛門・松田半之允、吾横目岩河喜太郎・上妻小左衛

門、檢二察之聞于官、

○十日、中之村百姓善七縊死、締方横目森喜右衛門

・松田半之允、吾横目岩河喜太郎・上妻小左衛門
檢二察之事、聞于官、

○十四日、納官村・國上村・安納村・島間村・現和

村・増田村・中之村・荳永村・上里村・平山村・坂井村、以二風損二減二賦、有差、

○十五日、蓮勝寺獻二神酒・齋盛、

○廿日、八郎次時中養母卒、久道服二喪十日、一島
禁二樂三日以吾叔母也

○締方横目森喜右衛門・松田半之允歸
○九月九日、使二平山一右衛門友章講二法令之書于
廣間、如例、

○十二日、國上村之内井関足輕榎本五平太於二才京
川二溺死、事聞于官、

○十四日、慈遠寺塔中山之寺納二菖蒲茶、從二古
令二山之寺僧製二城下茶園之茶、用二之年頭、且

供二持佛堂、在二覺府一則是月納二一袋于物奉行

所_一、從_二交代船_一達_二于覺府_一、具_二年頭之用_一、佳儀也_{每歲}、
儀也_{毎歲}、
儀也_{毎歲}、
儀也_{毎歲}、

○十月十一日、名代前田太兵衛宗周、十三日、名代羽生平兵衛能寧詣_二本源寺_一祭_二宗祖日蓮_一、

○廿一日、安城村百姓惣太郎以_レ納_二錢三十貫文_一、為_二二世足輕_一與_二岩重氏_一、

○廿七日、以_二美座七郎右衛門_一就_二用人第一位_一、

○廿九日、赦_二時任右源次_一、

○以_二庶人困窮_一請_レ免_二諸出銀_一者多、故國老傳_レ命諭_レ之、如_レ左、

○一六〇 藩家老座申渡書

當時御所帶向至極御難涉_二而、既御勤事も被_レ為_レ欠程成立、諸人も一統困窮_二候得共、不被_レ得_レ止事、去亥年より人別并牛馬・船迄も出銀被_レ仰付候處、諸郷・私領より追々出銀御免願出候者多人數_二相及、極難之者者御取訳を以_レ御免有_レ之事候得共、右通至極之御難涉_二被_レ為_レ及、無餘儀被_レ仰付儀候間、

全躰困窮者_二も其旨を汲受、精々出銀御免不願出、被_レ定置候通屹_レ致_レ上納候様、別_レ而可_レ申渡旨諸地頭・私領領主江可_レ申渡候、以上、

十月

御家老座印

○與_二米四斗于八板作右衛門及船長濱田長五郎、水手池田浦之嘉次郎、島間浦之休太郎・長五郎・甚六_一、借_二作右衛門船_一轉_二運材于覺府_一、發_二山川港_一之日、洋中俄西風大起、余船或伐_レ檣或歸_二山川_一、而長五郎等能操_レ舟避_二其難_一、達_二于覺府_一、故賞_レ之也、

○十一月二日、濱田浦之金左衛門・太吉、熊野浦之喜藏、禁_二旅行_一、坐_レ數年在_二他郷_一不_レ得_レ命狼旅行_上也、

○廿二日、以_二宜順院_一為_二大會寺鑑司_一、

○同日、中西之表足輕荒木休五郎・百姓彦七各一世免_レ墾_二山野_一為_レ圍納_中其稅上、賞_レ令_二諸人能蕃_一殖_二甘蔗之苗_一也、

○褒詞高崎孫九郎道直・前田十九郎宗篤、令三人作臺所船、不費府庫財、促令有財者假出錢、約以輪次歲償之等之事^甲、而作之、其術堪感賞、諸人傲之、則府庫之充可二期而待、故及茲、

○以家老西村甚五太夫時員為勸農方掛、農者國家之根本、萬民所以為天、故及茲、

○以家老前田太兵衛宗周為異國方掛、以異國方家老知覽才兵衛旅中^乙也、

○按察一向宗告于官、如例、

○十二月六日、油久村足輕日高仙兵衛以納錢、與大町野牧内田島窪一反為宅地、

○七日、近習役上妻七兵衛・羽生新十郎・河内十郎・西村太平次・河東仲太夫・美座六太郎、各期一年更番役于覺府、與扶持高十五斛、

○十三日、上妻新七獻斗搗之餅、如例、

○十六日、殖製矢竹于現和村近政、

○本源寺正月十一日軍陣・温坐祈念、一島之大禮

也、故命横目卒^率下横目・輕卒、夙夜可警衛、又命寺入禁錮之日、慎守其令不可犯法、且定無嗣子者請養子之格、事開于左、

○一六一 申渡覺

覺

一每年正月十一日祈禱之儀格別之事候處、無弁下之者共其趣意汲受薄、不束之振舞有之哉、相聞得、甚以如何之至候、以來者門内江仮棧敷相調、横目・下横目・附役等昼夜相詰、吃与可致取締候、勿論寺奉行之儀者寺中内外之取締申付候、猶及役人之儀茂致參詣答候間、不取締無之樣時、可加下知候、

但年々致勤番候名前可申越候、

一嶋元之儀者、古来より万端御當地被準御法樣、類例無之儀者時、聞合候様申付置候、然處御當地之儀、郷士之養子足輕無訊願出候儀不相成御法

様ニ而候、父方續有之訳を以願出候ハ、御免被仰付儀ニ候、尤家来より足輕養子ニ被仰付御法様ニ而候間、以來之通格式可相定候、

一於嶋元依科逼塞寺入申付候刻、不慎之趣連々聞及、甚如何之至ニ候、賞罰之儀者、格別政道之本、嚴重無之而不叶儀、以來者屹与相慎候様横目取締いたし、万一不締之聞得有之候ハ、重科可申付候、

○廿七日、三箇寺及廿人家・鍛冶賀ニ歳暮ニ献上、如レ例、

○歳暮、規式、如レ例、

(表紙)

文 政 十 二	種子島家譜 久 道	廿 三 代	四 十 五
------------------	-----------------	-------------	-------------

- 文政十二年己丑正月元日、國上村獻二野老一、
- 二日、覽レ馬、名代前田太兵衛宗周、馬役西村藏多、
- 同日、國上村獻二瀬物一、現和村庄司浦獻レ鰻、
- 同日、八箇寺進上如レ例、名代家老前田太兵衛宗周、
- 四日、上之郡庄官・小觸進上、如レ例、

- 六日、初狩、組頭美座七郎右衛門時資・羽生惣十郎能(A)・西村次郎兵衛時(A)、山奉行河内覺右衛門・鮫島甚之允・知覽翁之允・宮浦藤九郎・河東仲太夫、名代家老羽生半兵衛能寧、物奉行日高源右衛門爲武、用人上妻小左衛門、西之表庄官進上、如レ例、

- 七日、中之郡・下之郡庄官進上如レ例、家老時任一角時子、
- 十一日、甲冑之賀筵、如レ例、
- 同日、本源寺軍陳・温座折念、如レ例、
- 同日、蓮勝寺進上、如レ例、
- 同日、在郷之諸寺進上、如レ例、
- 同日、的始、名代家老羽生半兵衛能寧・用人上妻小左衛門、射手一番美座六七西村軍太郎、二番鮫島安太郎下村十藏、三番高惣四郎八板小次郎、
- 同日、折念中有下爲三不敬一者上、由レ是令三横目一人・下横目二人・足輕二人晝夜警衛、
- 同日、贈二佳札于洛陽本能寺・攝陽本興寺一、如レ例、

例、

- 十六日、以_二年饑難_レ取_二口税_一、請_下監察一統民
戸榮勞_二而勞者免_レ之于_一官_上、於_レ是_一官令_二締方
横目川上源七郎・大野源五右衛門點_二見_レ之_一、吾
横目西村次郎兵衛・西村十郎次、郡役日高惣太夫
・羽生嘉右衛門・羽生主右衛門・河内九郎右衛門
陪_二從_レ之_一、各巡_二察榮枯_一、勞者八千百二十四
人、
- 同日、與_二米一斗于海_上泊浦之水手辨吉_一、以_レ
役_二仕造舟之事_一也、
- 廿八日、以_二宮浦半右衛門_一爲_二馬役_一家格及職
務如故、以_レ
累歲爲_二物奉行下吏_一勤_中勞于貨殖_上也、
- 廿九日、點_二檢病夫・丁夫_一・有職者_一聞_二于_一官_一、
如_レ例、
- 二月三日、始定_下以_二郷土之庶子_一爲_中足輕之養
子_上、
- 十一日、與_二系圖於河東雄兵衛_一、
- 同日、伊勢伊織貞咬臣木村源次郎請_二三年焚_二松

煙、官命免_レ之、

- 十三日、締方横目高橋金左衛門・谷元六右衛門
來、
- 廿一日、島間浦之舟一艘、欲_レ漕_二運島間倉米于
府下_一而出舟、風波烈於_二屋久津_一破_レ舟、由_レ是
遣_二物奉行渡邊源十郎及代官役一人點_レ檢_レ之_一、
- 廿五日、中之村珍平宅火、手札・人馬無恙、
- 廿九日、監_二察一向宗_一聞_二于_一官_一、如_レ例、
- 締方横目大野源五右衛門・川上源七郎歸、
- 三月二日、營_二造不断光院末寺_一、由_レ是_一官令_二
家老・與頭・横目各一人與_二聽寄附錢之事_一、事
開_二于左_一、
- 一六二 三原六右衛門外二名連署申渡書写
写
- 不断光院末寺造立_二付、御當地并諸郷・私領一統
掛錢高應し芻實文付九文ツ、税料之内より出銀被
仰付度、下町人波江野新左衛門より願出趣有之、

百姓方構雜壳模合之分者相除候様、當二月二日堀殿衛取次御證文を以被仰渡、諸郷・私領役々掛置取しらへ、模合掛引員數等申出候様是又被仰渡置候、右付諸郷者郷土年寄老人・組頭老人・横目老人、私領者役人老人・組頭老人・横目老人ツ、掛被仰付候間、得其意、名前早々可申出候、此段申渡候、以上、

三月二日

二之丸御續料掛
御籠奉行

高城六右衛門

右同

田畑宅右衛門

右同
御裁許掛

三原六右衛門

種子島

役人

與頭

横目

○三日、使美座七郎右衛門讀法令書、如例、

○同日、與艾餅于三箇寺、慈遠寺獻同品、

○同日、西之表庄官賀瀬引進上、如例、

○五日、令平山村之百姓仲左衛門納炭十五俵、去歲秋米穀不登、使諸有司點見一俵以有、不正之儀也、

○同日、府庫淺窮乏、由是欲節用而用儉、然倉廩斂穀漸減、命自是家老・物奉行益小心而可監察出納之事、事開于左、

○一六三 申渡覺

覺

連々藏方難波ニ付而者、公界向者格別、内輪之儀者可成丈致省略筋之吟味肝心之儀ニ候、島元古来より之格式茂有之筈候得共、依事而者作略之方ニ相向、併諸向之拂古来より規定通ニ而済来候哉、又者及不足候哉、此元十ヶ年以來之儀聞届候處、諸拂左迄為相増向者不相見得候、島元年々之取納米前方より及減少向ニ而候故、其訳相糺候處、枡代等之差引より自然与可及減少段申出候、然共減過之様取覺候、委敷取しらへ可申出候、猶又役

人・物奉行以下村掛り申付置候故、引請致取締等
候、取締向細く可聞届候、

三月

○七日、褒詞平山二郎太夫・西村次郎兵衛・長野
良左衛門・高崎孫九郎・前田十九郎・羽生直一郎
・宮浦藤九郎、以三府庫濶窮乏一家用不給、故
稍欲補其空乏、使彼等與司商牛馬皮、未
幾而生息、以其息贖返假所賣國高十四石
餘、故賞其勤勞也、

○同日、納三狩所獲鹿皮于官、如例、

○廿日、杉白木櫃一・橋舟一艘・平木漂來于納官
村及島間村海邊、由是締方横目谷元六右衛門
・高橋金左衛門、吾横目西村次郎兵衛・平山一右
衛門、往而點見之、聞于官、

○廿一日、國老島津但馬久風・川上久馬久芳命
自是先五年加納口錢之事、開于左、

○一六四 川上久芳・島津久風連署申渡書寫
写

御領國中一分銀之儀、神社佛閣修甫候處所、破損
多、定式一分銀迄而者不引足候付、去卯之年よ
り五ヶ年ツ、及兩度、人別一分銀外三里重（厘也）被仰付
置、去子年迄等合候得共、今以大破神社等餘多有
之、修甫難行届候ニ付、當時諸人一統困窮之砌候
得共、又々當年より先五ヶ年人別重是迄之通被仰
付候、

右之通向江申渡、諸郷・私領江茂不洩様可申渡
候、

三月

（島津久風）
但馬
川上久芳
久馬

○廿三日、以安城村之農夫四郎次爲二世足輕
與鉄野氏、賞累歲製鉄而贖吾用也、

○同日、以西之表村農夫市右衛門爲三代々足輕
與針元氏、以下察三府庫窮乏納中錢五十貫文上

也、

○同日、西之表村之農夫庄七至其嫡子爲二代足輕與名越氏、賞察倉庫困乏納中錢三十貫文上也、

○四月三日、褒詞宮浦半之允・池村甚之進・緒方直之助・上妻庄太郎・市人榎本新四郎・樋口長五郎・八板作右衛門・井元弥吉、府倉淺窮之家用不給、故令彼輩商牛馬皮、未幾而生息、以其息贖返假所賣高十四石餘、賞其勤勞也、

○八日、異國方御用人北條織部時昭傳系荷船之令、如例、

○十五日、以異國船來之候一國老川田信濃佐摸・島津丹波久長・川上久馬久芳・島津但馬久風見傳長崎奉行之命、如例、

○十九日、島津浦之長十郎犯法買牛馬皮一枚、故收其皮禁他出、

○廿四日、以西村庄九郎爲番頭、

○廿八日、洪水、

○五月二日、一統虫喰甘藷苗、令三箇寺僧徒禱以去虫、三役各一人列席、

○五日、與粽各一束于三箇寺、慈遠寺獻同品、

○同日、島間村・西之村告水傷田、九日、又洪水、

○十一日、以久道疾病飛船到、直家老令醫師柳田泰庵・河東三折視所贈之醫案、共云、其症甚危、故令用人禱爾於諸所神祇、則穢飛船、使側用人美座七郎右衛門時資・醫師柳田泰庵往于藩第二而、窺其病上、

○十二日、家老察久道病革、遽亦穢飛船、使緒方瑞庵往于藩第二省視之上、

○十三日、久道臥病日久、以衰勞日迫醫師馬場玄龍・鍼科醫原口蘇連・山下某及親戚・近臣等、且暮在其側省視之、及丑刻病大漸、終卒、齡三十有七、諡放光院殿日悟大居士、禁音樂・遊興・月代二十日、殺生百日、普請作事

三十日、漁戸釣漁及家職有聲者七日、

○同日、中之村田地爲洪水破壞、由是家老・郡役檢察之而令庶民修理、嚮告西之村田亦令村民修、

○十四日、告久道卒去于官、故以今日爲忌日、及昏暮殮、孺人載髻号松樹院、

○十五日酉刻、殯葬于正建寺先塋之地、其行歷如旅行時、行裝皆用繹、諸式從先規然、初久道向卒謂種子島休戚云、吾家葬祭、比今之世俗則甚奢侈、平生欲減之、於考妣葬祭也減之則似闕孝道、今吾疾革死在旦夕、減之自吾始、親戚宜議之、故親族省其先規奢侈者以殯之、葬祭亦然、

○同日、因久道無嗣子而卒、恐被罷世臣家之職、故密訴奉以來之公務於國老川上久馬久芳上、

○同日、久道無嗣子而卒、繼家之人未定、故親族相議令庶流北條織部時昭預聽家政、密

告是事於國老且用賴家村清兵衛・染川伊兵衛・傳親族之命於第家老知覽行寬云、一統護先君之紀綱宜致寧謐、事記于左、

○一六五 染川伊兵衛・家村清兵衛連署達書伊勢様御事此節御卒去付而者、御直子冲茂無之御事而、追々御相應之御養子御見合可被遊儀候得共、其内者何篇北條織部様御聞届之筋御親類中被仰談、御内々御家老衆江茂御届相成候、依而島中取締向之儀從御先代様被仰出置候通、弥以無忘却一統靜謐を第一心掛、末々迄茂屹与相守候様、猶又被申渡候様可相達旨致承知候間、如此候、以上、

五月十五日

家村清兵衛

染川伊兵衛

知覽才兵衛殿

○十六日、放光院殿無男子而逝、以無繼家

統一人上、親族島津典禮・北條織部時昭、上書以冀日數三十日緩_中定_中嗣子之事上、記于左、

○一六六 北条時昭・島津典礼連署願書

押紐可為願之通候、私共親類種子島伊勢事、此間より病氣有之、養生

不相叶一昨日病死仕候、其段者則御届申上置候、

依之跡職之儀者遺言書之通男子無御座候付、日數

三十日被召延置被下度奉願候、左様御座候ハ、

其内繼日養子承立可奉願候、此旨被仰上可被下儀

奉願候、以上、

五月十六日

島津典禮
北條織部(時昭)

○十八日、用人平山一右衛門代_二家老・物奉行_一、

美座庄左衛門代_二諸奉行・諸士_一、赴_二覺府_一弔_二放

光院殿喪_一、候_二安否_一、

○廿八日、現和村_{土郷}遠藤惣之允寺_二入于妙泰寺_一三七

日、嚮欲_レ令_二西俣邑之民戶植_二甘蔗苗_一而使_二吏

往_二于彼邑_一、吏委命_二作見舞遠藤_一而還、其后吏

又往而視_二甘蔗殘苗許多_一、是以吏糺_二遠藤_一、答

云、民戶不_レ經_レ意故乎、未_レ藝者_三之一_一、故殘苗

如_レ是矣、今當_下繁_二殖甘蔗_一之時上、以_下見_レ託_二樹

藝_一之職_上忽_二吏命_一、故及_レ茲、

○西村新兵衛寺入五七日、爲_二普請方下吏_一簿中不_レ

由_二拳書_一而出_レ米、或重復出_レ材、或不_レ記_レ入而

爲_レ出、故及_レ茲、

○牧藤五郎・三浦藤兵衛寺入各二七日、坐_下爲_二船

手下吏_一重復出_レ財也、

○按_二察一向宗_一告于_二官_一、如_レ例、

○六月三日、家老前田太兵衛宗周・種子島十左衛門

時雍、物奉行日高源右衛門爲武、本源寺僧要受

院、慈遠寺僧恭存坊、爲_レ迎_二放光院殿遺髮_一赴_二

于覺府_一爲定嗣子之事
家老兩人出府、

○五日、與_二米二斗飛船船頭直吉_一、以_二七日往_二來

于覺府_一也、

○九日、以_二凶歲_一免_二盆前掃_レ道、

○十四日、以_三放光院殿無_二男子_一、島津典禮・北條織部時昭再上書請_レ緩_レ定_二嗣子_一事_上、開_二于左_一、

○一六七 北条時昭・島津典礼連署口上覚

口上覚

私共親類種子島伊勢事、先月十四日致死去、男子無御座候付日数三十日延之願申上候處、先月十七日より願之通被召延被下難有仕合奉存候、依之養子承合候得共、今以承立不申、御免之日数茂来十七日迄筈合申候間、又、日数九十日被召延置被下度奉願候、左様御座候ハ、其内養子承立願可申上候、此旨被仰上可被下儀奉頼候、以上、

六月十四日

島津典禮

北條織部(時昭)

張紙

当月より十二月跡職被召延候、

六月

島津久良
丹波

○十五日、以_三嗣子之事_一、覺府家老贈_二密書于種子島家老_一、事開_二于左_一、

○一六八 前田宗周他二名連署覚

覚

是迄不被為有 御世繼ニ付、先年江戸表より御内々為被遊 御承知趣有之、いまた御病氣不被遊御出合内、極御内分ニ而為被仰上置趣有之、未た何分御承知無之、夫故其元御吟味之趣茂至極尤被思召候通致承知候得共、表向御養子御願を茂難被仰上、御法之通最初三十日延願願相濟、又、六月より十二ヶ月御願通被為濟極、御内意之儀御座候得共、此旨御掛合難申達見合居候得共、御役々下茂相延候ニ付、極御内輪御秘事之儀御座候得共、大略為御心得御掛合申達候、先御吹聴無之様御取計被成度、委細之儀者御役々下之節演説可有之候、以上、

六月十五日
(行憲) 種子島郷兵衛
(余周) 知覽才兵衛
 御役人中 前田太兵衛

○十六日、一島鉄炮之會緩、以放光院殿喪中一也、
 ○十八日、覺府邸家老告下於種子島一不_レ及_レ納_中一分出銀_上、事開_二于左_一、

○一六九 鹿兒島役所覚
 覚

御上より被 仰渡候_二分出銀、種子島之儀者御取納_三不相成旨及聞合候間、掛向江被仰渡度、此旨御掛合申達候、以上、

六月十八日 御役所印
たね 御役所

○廿七日、酉刻、放光院殿遺髪下島、即回_三于本源寺本堂之西_一、過_二影堂之後_一、自_二中門_一入_三方

丈一、家老前田太兵衛宗周・種子島郷兵衛時雍、物奉行日高源右衛門爲武、船奉行前田十九郎宗篤、小姓上妻新平・平山藤助、僕日高六藏、船頭荒木拙之助、出家本信院・再生院、從_レ之、親戚種子島十次・種子島休藏亦從來、

○廿八日、嘗雖_三修_レ喪以_三僧五十五人_一、今減以_三三十五人_一爲_レ格、

○以_三凶歲_二使_三諸人執_二馬毛島之蘇鉄_一、爲_レ食、

○郡奉行羽生主右衛門・河内九郎右衛門・羽生嘉右衛門・日高惣大夫、記_三窮困者_一呈_三于官_一簿中有_二重複_一、故上疎請_レ罪、事開_二于左_一、

○一七〇 日高惣大夫外三名連署伺書

申上候様子者、先達而當所勞者名前相記 御上江差上候帳面二重立仕、誠_三以_三不念千萬大形之至_一、何共恐入奉存候、依而差扣奉伺候間、此段被仰上可被下儀奉頼候、以上、

羽生主右衛門

六月

川内九郎右衛門

羽生嘉右衛門

日高惣太夫

御役人中

- 七月三日、一島之僧徒盡會、修_二放光院殿葬禮于慈遠寺境内御坊_一、卯刻本源寺出棺、家老種子島五郎左衛門政賢捧_二神主_一、開棺知了院、焼香正行院、茶湯再生院、歎徳日輪寺、引導本源寺遠成院日健、家老種子島郷兵衛時雍代_二松樹院殿_一行_レ香、次日高杉右衛門代_二久美_一、次緒方權右衛門代_二婦美・政袈婆_一、次種子島十次・種子島休蔵行_レ香、締方横目谷元六右衛門及本田助之允亦會_レ葬、畢而慈遠寺塔中山之寺僧捧_二遺髪_一、散華僧十人從_レ之、從_二字都_一經_二間道_一到_二本源寺墓所_一、納_二之于石棺中_一納靈、盛箱、二重以納包之且元服之時所_レ安_二厝于番神堂_一髪亦納_レ之委曲記
- 同日、修_二七々日_一、如_レ例、

○八日、修_二清孝院殿三回忌于本源寺_一、初日八講

眞讀、結日頓寫說道本源寺、日健、出家三十五人、家老

羽生半兵衛能寧代_二松樹院殿_一、河内覺右衛門代_二

久美・婦美・政袈婆_一行_レ香、法事奉行美座七郎

右衛門時資・岩河喜太郎時行、靈膳奉行種子島權

左衛門・西村仙九郎、

○同日、名代家老種子島五郎左衛門政賢詣_二大會

寺_一、十三日、名代家老時任一角時子詣_二慈遠

寺_一、各祭_二先祖及宗祖・戰死靈_一、十四日、名代

家老前田太兵衛宗周詣_二本源寺_一祭_二宗祖日蓮_一、

○十六日、名代家老種子島郷兵衛時雍、於_二本源

寺_一祭_二祖先及戰死靈_一、

○十六日・十七日、兩市街祭禮樂止、以_レ畢_二喪

未_レ踰_二月也_一、

○廿六日、種子島休蔵・種子島十次歸、

○官製_二藍玉_一、定_二一貫目價錢一貫八百文_一、分_二與

之于紺屋_一、各令_レ納_二其價_一祭_二自_レ他買_レ之、

○官重賦_二重出米高每_二一石_一銀二分上、事開_二于左_一、

〇一七一 穎娃久喬外三名連署覺

覺

重出米并高掛二分銀之儀、去年迄_二而候付、當年より者都而御用捨被仰付咎候得共、去_レ年江戸・京・大坂表御趣法替_二付而者吟味之訊有之、其通難被仰付儀茂有之_二付、右出米銀者は迄之通可致上納置候、左候而何分之儀者追_レ可申渡候、此旨向_レ江可被申渡候、

七月

(川上久秀) 久馬
(島津久長) 但馬
(島津久長) 丹波
(穎娃久喬) 信濃

〇日高仙太夫・古市木工之允寺入各二七日、坐_下爲_二米蔵吏_一簿中重復出_レ米也、

〇按_二察耶蘇宗_一告于官、如_レ例、

〇八月一日、與_二中紙各二束于慈遠寺・大會寺_一、

二箇寺亦獻_レ之、

〇五日、叱_二高奉行西村太平次・上妻新七・知覽源太兵衛_一、記_下作_二稅簿_一奉行筆吏之食米_上重獻_レ之、故及_レ茲、

〇六日、馬追、名代時任一角時子、物奉行平山二郎大夫武正、用人岩河喜太郎時行、馬役羽生直一郎・前田次郎左衛門・八板藤角・美座庄左衛門、

〇十五日、蓮勝寺進上、如_レ例、

〇十八日、與_二米四石五斗于羽生新十郎_一、以_二近習_一役_二于覺府_一、以_二費用不_レ給所_一借_二于府庫_一也、

〇廿二日、島間村百姓六郎宅火、延及_二新十郎宅_一、六郎焼_二宗門手札二枚新十郎四枚_一、事聞_二于官_一、

〇同日、以_二美座矢太右衛門_一爲_二山奉行_一與_二高一石五斗_一、以_二近習役_一仕_二于放光院殿_一、及_二疾病益勤勞_一、故賞_レ之也、

〇廿三日、以_二上妻新平_一爲_二兵具奉行_一與_下所_レ借_二于

府庫^二之米錢^上、平山藤助馬役與^三所^レ借米錢^一、
以^三數年近^二待于放光院殿^一也、

○廿四日・廿五日、修^三放光院殿百箇日法事于本源
寺^一、初日八講眞讀、結日頓寫說道、松樹院殿名
代^不詳、久美・婦美・麻佐名代下村惣太郎時憲、法
事奉行平山一右衛門友章・上妻小左衛門、靈膳奉
行種子島權左衛門・前田次郎左衛門、出家三十五
人、

○廿六日、以^三野間村足輕柳田仲左衛門^一爲^二代々郷
士^一、上西之表一世足輕新園喜兵衛爲^二代々足
輕^一、柳田納^二錢五十貫文・新園錢二十貫文^一、故
及^レ茲、

○廿八日、請^下以^二第一女^一久嫁^中于島津但馬久風嫡
子島津又六郎久徵^上、見^レ許^之、

○國老川田伊織傳^レ命、赦^三郡奉行上疎所^レ請之
罪^一、開^三于左^一、

○一七二 川田國通達書

種子島郡見廻

羽生主右衛門

河内九郎右衛門

羽生嘉右衛門

日高惣太夫

右者、主人家米足輕之内困窮之者共尅匆出銀
免之願申出候處、帳内江名前^二重立いたし^一、大形
ニ付差扣相伺候得共、御用支^二者不相成候^一ニ付、
御科目不及候、向後可入念候、

八月

川田國通
伊織

○官命^下稅^二鶏卵^一、從^二八月^一至^二正月^一、每^レ竈每月
納^二六顆^一、無^レ鶏者定^二卵價五文^一納^レ錢、

○國老川上久馬久芳^レ命^下以^レ有^レ諸出銀緩滯之事^一、
家老上疎宜^レ請^レ罪、

○一七三 川上久芳申渡書

種子島人別牛馬彥_二出銀之願_二付而者、災殃等之趣与者相見得候得共、極御難渋之御時節_二付、無御據出銀被仰出置候_二付而者、右之勤弁_二可有之處、御年限相滿候上上納之趣、別而自由之間數不勤弁之至候条、役人より筋々江相付差扣相伺候様可申渡候、

○九月二日、締方横目三崎鹿之助・川上源七郎來、

○八日、與_二高一石五斗及居宅于國上平次姉藤尾_一、

賞_下從_二放光院殿幼少_一近侍多年勤勞_上也、

○同日、與_二高各一石五斗于上妻新平・平山藤助_一、以下多年以_二小姓_一勤_中仕放光院殿_上也、

○同日、美座矢太右衛門爲_二近習役_一、從_二家累役_二于覺府邸_一、且猶命_二定府_一、故與_下所_二借_二于府庫_一米錢_上、由_二北條時昭_一之議、

○同日、宮浦半右衛門多年爲_二物奉行所筆吏_一勤仕、當_下去歲年大不_レ登、且有_二大故_一之時_上、能

辨_二費用_一甚勤勞、故與_下嘗_二借_二于府庫_一米錢_上、由_二北條時昭_一之議、

○九日、使_二長野良左衛門讀_二法章書于廣間_一、

○十日、與_二放光院殿遺物數品本源寺日健_一、

○十四日、免_二大山野穀稅半_一、

○十九日、北條時昭述_二遺命_一、禁_下以_二庶人_一潛爲_二

足輕_一、足輕亦列_二之土籍_一謂_二之紛_一申入者、事開_二于左_一、

○一七四 鹿兒島役所覚

覚

御在世内屹与被仰出置候紛入者之儀、元々之通被召返迄_二而不及御科目_一、誠以御仁慈之御尊慮、以来屹与御取締無之而不相濟儀、御上御法樣之儀、其身者遠島、所役目等_二淺御科目_一被仰付候由候間、右之趣_一統被仰付置度、最早御手拔者無之筈候得共、御在世内被仰出置候条々緩疎無之樣_二与之儀_一、織部様より致承知候、為念御掛合申達候、

九月十九日

鹿兒島

御役所

たね
御役所

○國老川田信濃佐摸傳_二 公命于北條織部時昭_一、

諭_三使_レ公子繼_二家統_一、事開_三于左_一、

○一七五 川田佐摸達書

北條織部(時昭)

種子島伊勢跡職之儀、松壽院殿御願之趣有之、格別之思召を以、此以後御子様被為在候節相續可被仰付候間、夫迄之内名跡_二而被召置候旨被仰出候、

九月
川田佐摸
信濃

○締方横目高橋金左衛門・谷元六右衛門歸、

○廿九日、叱_二美座矢太郎_一、以下對_二締方横目_一有中

不遜言_上也、

○十月四日、菊三郎君薨、訃音至禁_二普請作事_一

日、殺生・鳴物一日、

○九日、名代家老種子島郷兵衛時雍、詣_三于本源寺_一盛_下供_二宗祖日蓮_一菓子、

○十一日・十三日、名代家老羽生半兵衛能寧、詣_三于本源寺_一祭_二宗祖日蓮_一、

○十三日、以_二上西之表郷士長山市之進_一為_二代々郷士_一、以_三再納_レ錢也、

○廿三日、砂糖方横目染川源左衛門來、

○廿三日、以_二日高源右衛門為武_一為_二物奉行_一、

○同日、以_二岩河喜太郎時行・時任宇源次_一為_二用人_一、種子島茂助組頭、平山翁之進武雄船奉行、西村熊之助(秘)南戶奉行、遠藤仲之允馬役、

○十一月八日、上書請_レ貧窮之者千六百二十四戶

見_レ許_レ納_レ之_二鶏卵_一、事開_三于左_一、

○一七六 種子島役所口上覺

口上覺

一竈数千六百二十四軒

内三百四拾貳株

家來

八株

貳拾人

四百七拾八株

足輕

三株

野町

六百株

在郷

百三拾株

水主

六拾三株

塩屋

右者、此節御領國中竈掛を以一ヶ月三ツツ、當年より三ヶ年鶏卵取圖方被仰付、左候而卵取揃方之儀者、當八月より来正月迄月々六ツツ、上納仕候様、分而被仰渡趣細々承知仕候間、右之趣島中江申渡仕候處、種子島之儀者元来稀ニ社飼居候者有之場所ニ而鶏相少、卵六ツツ、出候儀難調者共而已御座候間、右様之者共壹ツニ付五文ツ、錢ニ而取揃申事御座候處、惣竈式千八百廿軒之内右之分者至極困窮之者共ニ而、又者獨身日雇賃取躰御座候間、何様才覚仕候而茂調達不罷成者共御座候、格別成御用金ニ茂被振向候御趣意之儀ニ而、

別而承知仕趣茂御座候得共、右之御取訳を以上納方御免被仰付被下度奉願候、此旨被仰上可被下儀奉頼上候、以上、

右之通御願ニ相成、いまた何分不被仰渡候得共、追々御免許有之向ニ而候間、為御納得写を以差下申候、

十一月八日

鹿兒島
御役所

○廿日、旧例、以三月六日爲「初狩定日」、及「放光院殿襲」統爲「五日」、避「其實母聞法院妙覺大姉忌日」也、今又以「六日」爲「恒例」、

○制「禁一向宗」告于「官」、如「例」、

○十二月十一日、以「鮫島九郎次」爲「物奉行」與「俸

米三石、

○十三日、上妻新七獻餅、如「例」、

○廿二日、赦「上妻源吉・住吉村郷士松下和太右衛

門、

○廿六日、現和村吏告東洋一里許視異國船、故三役組頭出於廣間、諸士集於番所以待其消息、又西村十郎次在安城村、告東洋可一里半視異國船上、掛白帆自北向南行、由是遣羽生嘉右衛門・八板藤角沿海邊而視其舟形及去留上、又遣異國方用人時任平右衛門・同船奉行西村七郎駐船則赴其處而施指揮上、又現和村吏告異國船自東洋三里許之處向東往、即以飛船二艘聞之于官、

○廿七日、莖永村吏告異國船竹崎浦洋可半里而拋錨、故家老種子島五郎左衛門政賢・前田太兵衛宗周、組頭前田十九郎宗恭・種子島茂助時大、率三小頭三十騎及步卒許多而進發、又示諸士云、異國人乱妨則發三之手、其時吹螺、若驍勇而難禦則發三之手、其時放三筒鳥銃、各携兵器宜登城、必不可誤期矣、時任・西村等到彼地之日、異國人六人乘舢舨来于竹崎浦之海邊、揚手麾、出如水桶者上、即揚三

荷示之則首肯、於是數十人汲水而與之、彼五人入海、欣然取之、又以手容問食物之有無、則指舟示食贍、又一人出燼餘薪示乏薪、又為手容求食物、故與薪及甘藷、大喜悅、其異國船之形如長匣、檣二本、各掛白帆二、着數十之旌旗、又一本纒出如倒能凌瀾不漂、鄉風能走、欲駐則駐、欲盪則行、其自在如反手、其人身體壯大、強力健步、皮膚赤、髮疎而赤絨髻皆然、眼濁鼻高、言語文字皆不通、脚穿股引、體衣羅紗之衣裳、其裝袖小、色赤又黑、胸所含俗云牡丹掛、首戴頭巾、舢舨中有長二尺許鳥銃十挺餘、一人最雄偉塗面赤粉裝束美者、佩長一尺許銃於兩腰、又携一炮長四尺餘、盛焰焰及團鉛數十團鉛大小如砂礫、附銃架尾肩、甚傾顏眇目射在于七八間之鳥上、不中其銃火名威機又匍匐為獸形、察請牛、由是画馬於砂上以示無牛、彼添画角馬頭、為手容示無牛、諾而還舟、後亦六人来、以手麾、出三

桶^一、即汲^レ水與^レ之、彼出^ニ獸肉及菓子^一、其意

如^レ爲^ニ謝禮^一、固辭以^ニ顏色及手容^一、彼還^レ舟後

視^レ殘^ニ其二品^一後呈^ニ品^一于^ニ官^一、昏暮、出^レ舟向^レ南而往

此舟諳切^ヲ齊國之舟也、阿蘭陀國之隣國云々、

○廿八日、前田太兵衛告^ニ昨夕異國船發^ニ竹崎浦^一

矣、直^ニ躰^ニ飛船^一、使^下横目長野良左衛門・諸奉行

上妻新七聞^中異國船到來之形勢于^ニ官^一上、

○廿九日、依^ニ異國船發^レ港、前田等還、

○晦日、歲暮、規式、如^レ例、廿七日規式、亦由^ニ

異國船到來^ニ今日行^レ之、

文政
十三
種子島家譜
廿三代
久道
四十六

- 文政十三年庚寅正月元日、國上村獻「野老」、
- 二日、覽馬、名代家老時任丈左衛門時子、馬役西村惣次、
- 同日、國上村獻「瀬物」、現和村庄司浦獻「鰻」、
- 同日、八箇寺獻上、如例、
- 四日、上之郡庄屋・小觸獻上、如例、
- 六日、初狩、組頭平山翁之進武雄・種子島茂助時

大・西村七郎時民、山奉行日高源七郎實影・鮫島甚之允・河東仲太夫・知覽翁之丞、夕狩場、名代種子島郷兵衛時雍・物奉行鮫島九郎次・用人失名、西之表之庄屋獻上、如例、

○今晚慈遠寺火、起自僧厨、諸堂寶器宗門手札

二十六枚焼失、僧徒無恙、事聞于官、

○官以「旧冬異國船来之故」令「聞始末之事」、在府家老知覽才兵衛行寛達之、事如左、

○一七七 藩申渡書

種子嶋伊勢名跡

親類江

種子嶋之内現和村沖壱里餘之所江吳國船壱艘相見得、無程南之方江向け致通船候段申越候、今一左右到来之上、江戸・長崎江被及御届候處、何分申越候ハ、早速届被申出候様可申渡事、

○一七八 知覽行寛覽

覚

旧冬廿六日吳國船漂着ニ付、飛船被差渡大泊迄致着候由ニ而、去二日長野良左衛門・上妻新七致出府、御披露書并委曲演說承知いたし、御心配之程察入申候、御上御披露向ニ付而ハ、早速御用頼より登り、役々同道ニ而被差越候處、口柄等御聞届茂無之、首尾よく相濟候、猶又追々申越候ハ、早速御届申出候様、別紙之通被仰渡候ニ付、為御納得御本書差下、乍此上最初之飛船者早々致着候處、後之飛船及延引候而者御上不都合之向ニ候間、何ニ而茂致着候ハ、早速陸路より御披露書相達し候様可申越旨、織部様より致承知候間、早々押渡を以出帆被仰渡度、旁御問合申達し候、以上、

正月六日
(行寛)
知覽才兵衛

御役所

○七日、中之郡・下之郡庄屋獻上、如例、

○十一日、甲冑之賀、如例、

○同日、本源寺軍陣・温坐、如例、

○同日、蓮勝寺獻神酒・棗盛、

○同日、在郷諸寺獻上、如例、

○同日、的始、名代種子島五郎左衛門政賢・用人平

山一右衛門友章、射手一番美座六七、二番上妻新太

善次、三番羽生宗藏、
郎、八板孫太郎、

○十二日、異國方召ニ用頼染川伊兵衛ニ曰、種子島

異國船到来之事無ニ始終之告、則不能達ニ于江

戸・長崎、急促ニ快船ニ可告ニ之于種子島也、

即日令嚮來之快船ニ告之、

○十五日、島津但馬久風命異國船來之日無潜ニ留

異國人于島中、否搜索而可聞之、事如左、

○一七九 島津久風申渡書

種子嶋伊勢名跡

親類江

旧臘廿六日、種子嶋内現和村沖江吳國船老艘相見

得、翌廿七日同嶋之内莖永村沖江致漂流、橋船より吳國人六人乗組渚涯迄漕奇、水・薪・食物望之段手様を以相達候ニ付、水・薪等相與候處、直ニ出帆いたし、南之方江乘行、其後行衛不相知候旨、役人より申出趣相達候、依之御領内浦、江者早速取締向之儀申渡候、吳國船之儀密々橋船を陸江寄、人家迎等江吳國人卸置之儀茂難計候間、猶又嶋中入念致改方聊緩せ之儀無之様被申付、相達之儀無之候ハ、其段届申出候様可被申越候、

右可申渡候、

正月十五日

(島津久風)
但馬

○十六日、以ニ慈遠寺焼失、上疏請ニ姑止、買屋久島材、事如、左、

○一八〇 西村時宴・再生院連署口上覺

(一八〇〇)
口上覺

一平木式拾五万丁

一杉完新五丁

右式行、種子嶋慈遠寺諸堂方丈臺所為修甫用、三ヶ年ニ老度ツ、屋久嶋御手形所より申受來候、文政十年亥正月十六日差出ニ而申受候御例之通、當年申受筈ニ而御座候處、去五日之夜諸堂并方丈臺所迄不殘及焼失、早速御届申上候次第御座候、右ニ付諸堂仮作等仕申筈ニ御座候得者、過分入價ニ而平木申受之手便無御座ニ付、延御断申上候、追々諸堂建立可仕儀御座候故、其節御頼可申上候間、當年上之儀者延御免被仰付被下候様被仰上被下候儀奉頼上候、以上、

再生院

文政十三年、正月十六日

寺見廻(時憲)
西村甚四郎

(一八〇〇)
右之通申出候間、此段可被申上候、以上、

正月十六日

(宗應)
前田太兵衛

(行寛)
知覽才兵衛殿

○廿二日、西市之六次郎寺_ニ入于本因寺_ニ五七日、納_ニ錢五貫文_ニ、先_レ是議_レ商_ニ薪于鬼界島_ニ、欲_レ令_ニ六次郎船運_ニ致之_ニ、六次郎一旦奉命后構_ニ種々巧言_ニ而拒_レ之、其志甚奸曲、故及茲、

○廿八日、歲加_ニ賜米六斗住吉村能野之日高十兵衛_ニ、賞_下為_ニ古田村横目一路雖_レ隔往来而勤勞上_也、

○國老川上久馬久芳傳 _レ命祭_ニ惣髮_ニ、如左、

○一八一 川上久芳達書

一諸人惣髮成之儀者差知候病者欵、又者隱居躰之外者皆不相成段、追々申渡候_ニ付而者、縱令差知候雖為病者、表向可被得差圖候處、早竟地頭・領主大形_ニ差心得候處より、地頭・領主前より差免、又者内_ニ、_ニ而自保_ニ惣髮_ニ相成居候族有之、既_ニ此度茂剃髮成申渡、右通_ニ付而者、最初之趣意に茂不相叶、別而いか_ニ之至_ニ付、猶又屹与被相糺、右様之者ハ剃髮成可被申付候、左候而向後者

前文申渡之趣_ニ基、表向可被得差圖候、此旨向_レ江不洩様可致通達候、

正月

_{川上久馬}
久馬

○以_ニ長野良左衛門・美座七郎右衛門・高崎孫九郎_ニ、為_ニ物奉行見習勝手方掛_ニ、近年府庫空耗、不_レ給_ニ大坂金納及覺邸之費用_ニ、甚困窮故、召_ニ三人于覺邸_ニ、相共議_内省_ニ費用_ニ事_ニ節儉_ニ蓄_レ殖貨財_甲、其論甚高、以足_ニ託_ニ府庫出納_ニ、於_レ是薦_レ官令_ニ三人_ニ教_ニ論諸有司及一島之庶民_ニ、知_ニ奉上之道_ニ各盡_ニ其力_ニ、務蕃殖充_ニ府庫_ニ、以計_ニ當家再興之基本_ニ、其大概記_ニ于左_ニ、

○一八二 知覽行寬・渡辺直連署覺

一覺

一諸人古来より之滯納米錢等万_一有之候ハ、此滯皆納被仰渡候而茂依所帶柄可及禿儀茂可有之候_ニ付、滯納錢拾貫文江老貫文ツ、わりを以上納之

事、

但以後者身上相應之年符上納之筋吟味之事、

一古拜借滞納上納難調、持高差引願出候人有之候

ハ、忝わり利付之割を以所務米取納之事、

一已來拜借米錢願出節者、上納之年限且質物掛合人
相立、忝わり利付を以依向可被仰渡事、

但已後織部様御聞届之事、

一九升代差引、翌四月限、屹与致引結候様申渡置、

年内下代村より罷登次第、早速引付候様取締之
事、

一一統此涯取締屹与被仰渡候ニ付而者、村々費筋無

之様取締第一之儀ニ付、三役以上者勿論、諸役人

迄茂猥田舎江差越候儀不相成筋、尤難去用向ニ付

願出被差免候節者、年中ニ二限ニいたし名前申越

候様との御事ニ候、

一御用事外ニ洩候儀甚不可然候ニ付、御用書退出之

後往来之節者、月番計致披見銘々差廻し候儀不可

然との事ニ候、

一御産物殖方之儀、肝心之儀ニ而、砂糖且栢殖方之

儀、掛之役々致精勤、就中栢植付之儀、先年種子

嶋次郎左衛門被為御手を付、其後漸々殖方有之候

半与折節御沙汰有之候、其後殖立候木數・場所等

掛之向江御しらへ御問越可被成との事、

一年貢上納之儀御法之通御取計、昨年より取納檢者

被召入候故、定而其詮可有之、然者御當地同様之

御仕向を以給地迄茂皆濟證文取候様可被仰渡事、

一御勘定肝要之儀ニ候間、何篇少キ先帳被準、不相

當之帳面有之候節者、向後者見懲ニ相成候様御取

計、若古キ帳無之候ハ、此涯逐吟味候様ニとの

事、

但御勘定之儀御勝手方ニ而掛役ニ可被仰渡事、

一押物引付皆納不致内者、御法通勤方不相成、其上

役越ニ相成候ハ、三わり利付を以上納之事、

一引付後二重手形等書出し、又者不束之下知印いた

し候節者、頭役可為落度候間、屹与可入念事、

一年々御勘定後御所帯一紙相調、此元江茂被差登

事、

一 給地高本出米方一滞納之人茂有之候而者不可然事候間、御限月中致上納候様屹与被仰渡置、限月後早々しらへ之事、

一 御米賦肝要之事候間、此涯屹与御繰登米相重候様御吟味を被尽、年分之御繰登米大考、其外生臘九月交代船より御問越被成度、若又其後ニ相成相違之向相見得候ハ、其訳早々御掛合之事、

一 昨年より者御蔵米・給分米不致混雜様、別段御取締有之、乍其上嶋間蔵繁雜之場ニ而候故、屹与御取締之事、

一 諸々蔵役・下代、後役江次渡候帳面と現米錢、其外現品しらへ肝要之事、

一 御繰登米過分欠斤有之、不可然候間、向々屹与吟味被仰渡置事、

一 諸人申受物代現錢上納之上申受被仰付事候得共、萬一緩怠之儀有之候而者、不可然事候間、屹与御取締之事、

一 此元御所帯用ミそ當分者不足無之候故、其御考を以搦方被仰渡置、尤已来者此方より掛合いたし候上、搦方被仰渡筋可然事、

一 御船出之儀、近来者御船茂減少之處、何故過分之御入價ニ相及候哉、(鑑力) 鈿之儀者御買入被成候ハ、御入價有之間敷、惣而之掛、物肝要之儀、御船御修甫等ニ付而者、已来者大工中之受細工ニ被仰付候而者何様可有御座哉、向々江吟味可被仰渡置事、

一 御普請方之儀、近来者御家茂多者瓦葺ニ而候處、何様之訳ニ而御入價相重候哉、是又受細工ニ被仰付候而者何様可有之哉、

一 材木瓦類并其外加治炭・雜物等之代賣上主江出入いたし、下代方差引相濟置、其當人江現錢米渡し候様御取計之事、

一 諸所破損場繕方并杉出し等之節、村わり相成事之由、わり方之儀堅固有之様御取締之事、

一 鉄鉋新製過分鉄入候哉ニ相聞得候、向後者鍛冶江賣上ニ被仰付而者、何様可有之哉、

一家大工風俗惡敷成り立候由、吃与御取締之事、

一蠟澄方仕込様しの巻大坂より注文通り不差下、夫丈及不足、於御鳴元御買入被成事茂有之由、是等ニ付而茂御取締之事、

一諸人知行高集支配容易ニ御免不被仰付様、吃与御取締有之度、乍然諸人相對替地、又者下人抱候節山畑込地ニ付返地等者格別之事候間、依向御免可被仰付哉、

一御蔵入高之内損地見分願出候ハ、縦令一反之田ニ一畝之延畦有之、現損地ニ畦有之候ても延畦ニ差引、老畦損引有之事哉、此涯御當地御法様得与聞合御掛合可申越候、

一真地赤地ニ相成り候節者、種子替差土有之事、赤地真地ニ相成候節茂同断之仕向ニ而候哉、右様之儀者専夏植之節相分事候哉、

一麓蔵并嶋間蔵御米取納并例方ニ付、掛ノ其外諸所掛ノ等肝要之儀故、拵取手傳人品御吟味有之、不束之儀無之様御取締之事、

一村ノ自牧出牛馬多、作式茂心之俣不相調段被聞召上、御在世内被 仰出置候儀も有之、一統御申渡ニ相成り候半、砂糖黍之儀専山野伐披植付相成事候間、出牛馬無之様申目堅固可囲置旨堅被仰渡、乍此上緩急之向茂候ハ、御法通吃与御取扱之事、

一諸所御米運送之節、半運賃相渡置、欠米上納是非鹿兒嶋ニ而為致上納、不遁申立有之節者船賃物ニ相立、右運賃米を以差引上納有之度事、

一御作人分地上納之儀茂間ニハ滞納之人茂有之由、不可然候間、給地上納御限月吃与上納被仰渡、左候而限月後早しらへ之事、

右条々、御所帶方此涯御立直無之候而不叶儀、諸取締向御親類様方并御用聞衆御用頼と每々御沙汰有之、何様訳ニ而御繰登米前方より引入候哉、何れ往々者御産物析を以御取補無之候而より、御立直之期有之間敷、一涯遂吟味候様分而被仰事ニ候、是迄緩急之諸仕向御聞通之筋ニ而、御應答ニ

行迫り事而已ニ而御互ニ恐入次第ニ候、御興起ニ付而者、此漚一変いたし候様可被尽吟味との儀、旁以無申訳次第、委細之儀今便下り之衆承知ニ而候間、頭付を以申達候、以上、

正月

渡邊源十郎
(直)

知覽才兵衛
(行寛)

たね
御役所

御物奉行

○國老島津但馬久風傳レ命、禁レ稱三異國人贈ニ菓子及肉等之事、開ニ于左、

○一八三 島津久風申渡書

種子嶋伊勢名跡

親類

右者、旧臘廿六日種子嶋沖江吳國船相見得、翌廿七日吳國人六人橋船より渚近く漕寄、水・薪・食物望之段致手様候ニ付、水・薪等相與候処、無

程上陸、牛所望之躰見受候得共、不在合段手様いたし、且返礼之心入ニ而茂候哉、菓子残置候与之文言都而被相除、種子嶋沖江吳國船一艘相見得候故、陸より役々致警固候處、吳國人六人橋船より渚近く漕寄、水樽を卸し、用水拂底之段致手様候ニ付、相與候処、無程本船江乘帰り、遙沖合ニ走出、何方江乘行候儀不相趣ニ而、公邊被及御届、長崎御奉行江茂同断及御届、御隣領江茂御しらせ申越候間、他領之者江者勿論、御領内迎茂前条御届向被相除候文言之趣一切不致口外様、領内末々之者共迎茂屹与可被申渡候、萬一相洩、從公儀被及御糺候儀とも到来ニ而者御難題之事候間、旁可被得其意候、

右可申渡候、

正月

(島津久風)
但馬

○廿九日、坂井村郷土古市源助・古市八百吉・足輕日高仙之進、各寺入一年、坐下犯レ法狩ニ于坂井

山一盜_中猪・鹿_上也、

○同日、足輕上妻金藏寺入一年半、坐_下犯_レ法促_二諸人一狩獵盜_中猪・鹿_上也、

○同日、西村甚五郎寺入四年、坐_下犯_レ法與_二坂井村之徒_一不_レ憚_二吾先考之忌日_一促_レ狩盜_二猪・鹿_一大不敬_上也、連及百姓仲六納_二科炭拾俵_一、惣之進・仲右衛門各五俵、叱_二山役日高喜作・池山藤次郎_一、

○同日、下西之表榎本孝四郎寺入一年、坐_下犯_レ法促_二諸人一獵而盜_上鹿也、連及其父六郎左衛門逼塞七日、坐_下以_二行司長_一不_レ戒_二其子_一也、

○同日、下西之表長四郎爲_二塩戸僕_一一年、坐_下以_二百姓之身_一不_レ守_レ分竊製_二鉄炮_一而獵_上也、

○同日、下西之表孫太郎爲_二塩戸僕_一一年、坐_下以_二行司_一而却盜_上鹿也、

○同日、下西之表郷土鮫島吉之允・長野權平寺入各一年、坐_下以_二行司之身_一不_レ守_レ法盜_上鹿也、連坐下西之表郷土大瀬金次郎寺入六箇月、遠藤専左衛

門・桑山直次・牧瀬庄吉・遠藤茂平次・足輕榎本六十郎寺入各三箇月、百姓長七納_二科炭五十俵_一、元右衛門・文次郎科炭各三十俵、

○同日、河野琴司・古市六郎左衛門寺入各二年、坐_下求_レ黨而獵盜_上鹿也、連坐阿世知勝左衛門・長山喜兵衛・古市甚次郎・河野五左衛門・一湊六郎兵衛・緒方茂三太、下西之表中宿榎原茂兵衛・榎原角七、東町中宿阿世知源吾各寺入一年、

○同日、梶原小一郎寺入二年、坐_下爲_二内横目_一却爲_レ狩盜_上鹿也、

○同日、名越船右衛門寺入四年、嘗犯_レ法受_二嚴譴_一、當_二慎守_二法律_一、今又犯_レ法盜_レ鹿、甚不敬之至也、故及_レ茲、

○同日、叱_二鍛冶徳永嘉之次_一、坐_下不_レ得_レ命竊製_二長四郎鉄炮_上也、

○同日、山奉行西村太平次逼塞七日、坐_下知_二長四郎製_二鉄炮_一不_レ禁_二止_一之也、

○按_二察_二丁夫・病夫・有職者等_一、告_二于_二官_一、如

例、

○二月二日、褒詞羽生嘉右衛門・知覽龜太郎・上

成周左衛門・平瀬新左衛門・柳田市郎左衛門・榎

本新四郎、以丙納米錢材釘等助造住吉丸費

用也、

○四日、西村惣次寺入于妙泉寺七日、舊臘、伊

奴鬼利須到来之日、以番頭當直不_レ在_二于番

所、其罪雖_レ重有恕及_レ茲、

○五日、以見_レ許_レ製_二砂糖、家老知覽才兵衛行寬

上疏、請_下每樽一挺納_二銀三匁_一以_二其餘價_一宛_中府

庫之費用上、事如_レ左、

○一八四 知覽行寬口上覺

口上覺

亡種子嶋伊勢藏方、先年より及手迫居候上、近年

段、入價之儀共打續、至而難成成立、前後難相凌

御座候ニ付、於種子嶋砂糖製法奉願、余勢取補_レ

茂可罷成哉与奉訴趣御座候処、難有 御免被仰

付、去、年より苗黍植付製法御試被 仰付、去年

之儀者猶又植増練方為致候処、見賦通出来増茂無

御座、吳竟百姓共黍作不案内者勿論、全駄手薄者

共故、彼是手入等行届不申方ニ相見得、何れ當

分ニ而者連、藏方取補ニ可罷成、益潤相見得不

中、適難有奉蒙 御免候儀御座候間、精、作人共

相勵植増方為仕度奉存候得共、不馴之作式作得

薄、今形ニ而者染付不申向ニ相見得、最早當年黍

植付之時分に茂罷成候間、誠恐多奉訴候儀ニ御座

候得共、當寅之年より先三ヶ年出来砂糖之樽志

挺ニ付三匁ツ、運用仕、諸雜用御差引殘銀被成下

度奉願上候、左様御座候ハ、作人共一涯潤立、自

然と作入方出情仕、^精植増之行届候様成立、乍恐往

、御物御益筋相見得、且御蔭を以願望之通藏方難

渋を茂取補申度奉存候間、此等之趣被 仰上可被

下儀奉頼候、以上、

種子嶋伊勢名跡役人

二月五日

知覽才兵衛_(行寬)

○十一日、以_二前田十九郎宗篤_一爲_二勝手方_一、與_二長野高崎等_一共相議、貨殖計富_三府庫_一、

○同日、以_二普請奉行下村惣太郎・鮫島孫右衛門、高奉行羽生嘉右衛門、山奉行河内覺右衛門、馬役西村權太夫_一爲_二勝手方_一、與_二長野高崎等_一共計_二貨殖_一、

○同日、以_二高奉行日高杉右衛門・上妻新七_一爲_二勝手方_一、各與_二扶持米六斗_一、以與_二長野高崎等_一共計_二貨殖_一、且聞以_二困窮不怠勤仕_一、故與_レ米助_レ貧、

○同日、以_二八板藤角・羽生直一郎_一爲_二山奉行勝手方_一、羽生十太郎馬役勝手方、與_二長野高崎等_一共計_二貨殖_一、

○同日、以_二宮浦半右衛門・吉良勝兵衛・池村五後右衛門・阿世知圓右衛門_一爲_二勝手方吟味役_一、專計_二富_三府庫_一、

○同日、以_二桑山惣之進_一爲_二勝手方吟味役兼勘定方

總役_一、與_二扶持米二石八斗_一、與_二長野高崎等_一計_二富_三府庫_一、

○同日、以_二西村甚四郎_一爲_二物奉行見習_一、西村喜右衛門組頭兼船奉行、田上市郎普請奉行、

○同日、以_二物奉行平山二郎大夫武正_一爲_二勝手方_一、命_下物奉行當直外役_二勝手方_一用_二力于貨殖_一省_二費_一、用_二禁_レ倉吏之贓_一宜_上計_二富_三府庫_一、

○十八日、招_下庶士于本源寺方丈_上、讀_下所_二議定_一之法律_上令_レ聞_レ之、

○十九日、爲_二旅行_一之日、禁_二親子兄弟外餞別及贈_二土産_一、

○廿一日夜、現和村鮫島善太右衛門嫡子鮫島善七、殺_二其妻_一己亦自殺、締方横目三崎嘉之助・川上源七郎、吾横目西村次郎兵衛・上妻小左衛門檢_二察_一之、事聞_二于_三官_一、

○廿五日、褒_二詞納官村・坂井村之村吏_一、賞_下旧冬伊奴鬼利須到來之日、能守_レ法促_二丁夫乘馬等_一備_中其用上也、

○同日、褒詞野間村村吏、異國船到来之日、能守法促人馬、且郷士・足輕各携兵器、出街待有司來請受役、故及茲、

○同日、褒詞中之村村吏、聞異國人来莖永村上陸、郷士・足輕等執兵杖守街衢、故及茲、

○同日、褒詞能野塩戸孫七、異國船来于莖永村日、告急馬通過塩屋前、孫七見其馬疲不前、牽己馬來乘之、彼者辞之、到能野濱半程益疲不前、孫七牽馬追來乘之、又府下士赴于莖永村、亦出己馬來乘之到于納官村、故賞之也、

○同日、褒詞莖永村村吏、賞異國船来之日不違平日之法令能辨諸事、連及褒詞住吉村能野甚吉・上能野釜司・阿高磯釜司・坂井村柳田崎助、

○同日、褒詞濱津脇之孫右衛門、異國船来之日、府下之士赴于莖永村、天昏黑孫右衛門出

蠟燭助行路難、故賞之也、

○同日、褒詞安納村・安城村之村吏、異國船来之日、村吏率郷士・足輕來請奉命、故賞之也、

○褒詞古田村之村吏、以異國船来之日到下之郡請奉役也、

○同日、褒詞時任平右衛門・西村七郎・八板藤角・羽生嘉右衛門、異國船来之日、速到彼地一令協宜、異國人不生變而歸帆、故賞之、連及褒詞船功者荒木拙之助、

○同日、叱住吉村・油久村之村吏、納官村之村吏德永仲右衛門、濱津脇弁指、異國船到来之日、背平日之法令、不具乘馬役夫等而滯先鋒之士、故坐之也、

○同日、叱西之村之村吏、異國船来于莖永村之日、夷人若侵我則大事繫焉、一村之人民恐怖、無議警衛者、于時河内覺右衛門監砂糖在彼地、雖論村吏人民出不受命、是

平日之令不嚴故也。

○同日、叱三國上村庄屋・湊塩戸釜司、去冬異國船来湊之洋、釜司告于仮屋、值庄屋偶出、乃不告横目而告其妻、妻諾之而措之、故無告于廷者、是平日之令不嚴故也。

○同日、叱三増田村之村吏、坐去冬異國船過増田村洋而不告于廷也。

○同日、叱三坂井村庄屋下村善右衛門、去冬異國船来于莖永村、既歸帆而後、有流言再来西之村上陸者、善右衛門聞之、托路人簡于府、不審虛實又不發通馬故也。

○家老知覺才兵衛行寛久定府于覺邸、有出群之功、故為家老上席、増加扶持高十石、平日服上下、

○按三察一向宗告于官、如例、

○三月三日、使三時任平右衛門講三法令書于廣間、如例、

○同日、與三艾餅于三箇寺、慈遠寺獻同品、

○同日、賀三瀬引、西之表庄屋獻上、如例、

○十二日、叱三坂井村・増田村之村吏、以有怠納三鶏卵之價也、

○同日、叱三八板十郎左衛門、從于馬毛島之狩、歸日大酒放言、且不復命于勝手方故也、

○十七日、官依三女洲浦水手宗助有罪召之、故令三足輕護送、朔日發三種子島之港、十七日達于覺府、是夜出奔、遍搜索不得、即聞于官、

○廿日、締方横目福島半之進・河野八右衛門來、

○廿三日、納三狩所獲鹿皮一枚于山奉行所、

○廿九日、砂糖方横目染川源左衛門歸、

○以三美坐矢太右衛門為三船奉行兼近習役・納殿役人、常勤仕于納殿、監察閨中之事、由三北條時昭之議、

○閏三月八日、締方横目三崎嘉之助・川上源七郎歸、

○十日、島間村柳田半右衛門・柳田彦太郎・柳田貞

治・柳田太右衛門宅火、手札・人馬無恙、

○西之村鮫島友市、數年役_二松樹院殿僕_一、以下今年得_レ暇歸島_上、與_二高一石及所借于府庫之米錢_一、且命_レ有_レ庄屋交代_上之日可_レ為_二庄屋_一、

○與_二芭蕉布一端于吉良休四郎_一、其生剛毅、役_二于覺府_一為_二使者_一之_二諸鄉_一、雖_レ路遠_一不_レ敢乘_レ馬而能辨_レ事、故賞_レ之也、

○官吏命_二舟_下致生蠟與砂糖于本府_上而納_二生蠟運賃_一、夫生蠟者吾土地之產而非_二貿易之物_一、故從_レ古無_レ納_二運賃_一之例_上、於_レ是家老上疏訴_レ之、見_レ許事如_レ左、

○一八五 知覽行寬口上覺

張紙 口上覺

諸役、吟味之通_二而願之通令允許候、

種子嶋出来生蠟之儀者、往古より大坂表江直致仕

登、於大坂持高出米上納方相納来候、然處當年之

儀者於種子嶋製法方被仰付候、砂糖積入御砂糖御藏江致上納候上、直右砂糖積入大坂之様積登等_二

而、右生蠟之儀茂差荷_二而前之濱江致廻船候處、

焼印支配之向より運上銀差出候様承候得共、種子嶋生蠟之儀者、何そ藏方交易等之仕登仕儀_二而曾而無御座、年々出来上納方_二仕登仕事_一御座候間、當年之儀茂右通被仰付被下度先達而奉願置候間、右之御取訳を以、運上銀之儀者 御免被仰付被下度奉願候、此等之趣被仰上可被下儀奉願候、

以上、

閏三月

種子嶋伊勢名跡役人

知覽才兵衛

○每歲贈_二米四斗于年寄女中岡田_一否笠 氏女、從_二松樹院殿出生_一以来不_レ離_レ側能勤仕、故賞_レ之也、

○四月朔日、以_二時任平右衛門・西村七郎_一為_二用人_一、上妻七次郎納南戶奉行、

○八日、異國方御用人北條織部時昭禁_二私商_一唐貨_一、示_二糸荷船漂来時處置_一之法、如_レ例、

○十五日、以_二異國船来之候_一、國老川田信濃佐摸

・島津安房久備・島津但馬久風・川上久馬久芳

傳長崎奉行之令、如例、

○廿七日、大風大雨大壞田地、

○以吉良勝兵衛為一世小頭、數年為倉吏、而為府庫計貨殖、且勤勞于大坂金納之事、故及茲、

○以高奉行日高杉右衛門加船奉行、猶聽高所之事、

○出令禁從家老至諸有司謾辭職、

○以安城村一世足輕岩重惣太郎為二代、足輕、與高九斗合八撮向有故所、収之高也、官求護送宗助足

輕、以岩重有佞辨宛之、官督責令宗助逃亡之事、岩重能辨別之事、竟屬無事、故賞之也、

○官令岩重惣太郎納科錢四百文、坐令宗助出奔也、事如左、

○一八六 某申渡書

種子嶋伊勢名跡

一科錢四百文

足輕 岩重惣太郎

右者、種子嶋之宗助御用有之者、而船中致宰領、前之濱着船之上透を計逃去候、早竟不番故、右次第大形之至候、依之右之通申付候、右申渡、左候而惣太郎事在所江差返、遠方不參違様申渡候得共、差免候条、是又可被申渡候、

四月 帶刀

○官命圖一島之村里・高山大川、或神社佛閣・浦濱池沼等可呈之事、如左、

○一八七 藩達書

一麓并町之事

右大概道筋并人居何十軒有之候訳可書記事、

一村附之事

但現村枝村都而書記、枝村之儀者何村より古分候訳、肩書可有之事、

一古城山之事

一神社・佛閣・寺院之事

但其所之宗廟又者菩提所并堂宇神社等、都而可書

記事、

一川之事

一名有之川者其名可書記事、

一不依大小、何村より何村江流通り海江流出候

訳、川幅・廣狹・浅深之訳可書記事、

一瀧有之候ハ、瀧之形并名可書記事、

一通り路之川者、渡り浅深并步渡・船渡等之訳可

書記事、

一川口船出入有無并何風之節出入等不自由之訳可

書記事、

一池并沼之事、

但古来より名有之候池者、大概廻り并名可書記

事、

一湊并船汐掛いたし候所之事

一湊之形湊口之浅深、又者瀬等有無之訳可書記

事、

一湊口不構潮時船出入有無、并何反帆以上之船何

艘程繫訳書記事、

一依風船掛之善悪不自由等之訳可書記事、

一浦濱之事

一道筋并人居何程有之候訳可書記事、

一出崎入江又者濱磯杯ニ名有之所者可書記事、

一船改番所并遠見番所又者警固番人とシテ移置候

所、幾家内居候訳可書記事、

一橋之事

但十間以上之橋者其形書記、十間より内ニ而茂、

別而深き川又者谷杯ニ掛候橋者可書記事、

一道之事

一大道脇道并けハしき坂山中難所等之訳可書記

事、

一牛馬通融難成所者其訳可書記事、

一里数之事、

一山野之事

但名有之候高山者其名を書記、いぼ山其外野原・

牧等、委細可書記事、

先日達置候繪圖取仕立方之儀、別紙案文之趣ニ應し、委細相調可差出事、

○官令ニ樋口長五郎納ニ科錢一貫文、濱田浦之太次右衛門二貫文坐レ商ニ大山歸来ニ也、事關ニ于左、

○一八八 二階堂行典申渡書

科錢壹貫文

種子嶋西町

樋口屋

長五郎

右者、同所福聚丸船頭太次右衛門江相頼、大山帰来五表致拔積、大坂問屋方江差登、無調法之至ニ候、依之右之通科錢申付候、

科錢貳貫文

種子嶋濱田ヶ浦福聚丸船頭

太次右衛門

右、前条長五郎任頼大山帰来積登、大坂問屋方江相届候次第、為船頭不調法之至候、依之右之通科錢申付候、

右可申渡候、

四月

(二階堂行典) 伊豆

○五月二日、増田村・納官村・野間村・油久村各告ニ洪水大壞ニ田地、

○五日、與ニ粽子三箇寺、慈遠寺獻ニ同品、

○七日、官以ニ家老種子島五郎左衛門・羽生半兵衛、横目西村十郎次・西村次郎兵衛、船奉行西村喜右衛門・平山翁之進、浦役人中村半助・落合四郎兵衛ニ初為ニ御藥園方掛、命レ蕃ニ殖和藥、而又禁下私商レ之事上、如左、

○一八九 藩藥園奉行谷山寛太夫・村田伊

左衛門連署申渡書

(二八九の1)

種子嶋役人

(政覽) 種子嶋五郎左衛門

右同

(能登) 羽生半兵衛

横目

(時奥) 西村十郎次

右同 (辭之)
西村次郎兵衛

船方役人 西村喜右衛門

右同 平山翁之進

浦役人 中村半助

右同 落合四郎兵衛

右者、其元嶋内役人江御葉園掛無之候得共、此度より地方諸郷同前掛被仰付旨、伊豆殿より坂元平左衛門取次を以被仰渡候ニ付、此節右人数江御葉園掛被仰付候間、掛中申談、諸葉種拔荷等取締向行届候様、左候而採葉差出候ハ、御買入相成筈ニ付、土産相重ニ候儀御益筋相成儀候間、折角致出情可相勤候、尤役目之内替合之節者、右跡役江御葉園掛可被仰付候間、当座江罷出届申出候様申渡候、以上、

但此節銘、掛被仰付ニ而者、何そニ付御當地江差越候節、御受為御礼當座江可罷出候、

御葉園奉行

村田伊左衛門

五月七日

谷山覺太夫

(一八九の?)

一枳實

一枳殼

一黃芩

一知母

一芍藥

一和人参

一紫根

一爪裏實(葉)

一平切茯苓

一角切茯苓

一真防風

一白芷

一當歸

一沢瀉

一地黃

一薏苡仁(米丸)

一山查子

一山土茯苓

一寒掘柴胡

一柴胡

一金銀華

一海人草(蜜丸)

一山藥

一白朮

一春密(蜜丸)

一秋密(蜜丸)

一木瓜(瓜丸)

一荊芥

一山朱莢(葉丸)

一黃連

一河首烏

一莪朮

一桔梗

一埋霍香

一決明子

一髭込黃連

一白鮮皮

一蒼朮

一黃土

一へんから

一防葵

一香附子

一へそへ

一佐柴根(葉丸)

一青木香

一半夏

一大棗

一宿砂

一桂根皮 一肉桂 一落地生

一山帰来

右之通當分御買入品ニ而候、尤已後御品相重候節者、其段可申渡事、

○八日、以長五郎・太次右衛門竊商山帰来、家老等上疏、謝法令不嚴之罪、如左、

○一九〇 種子島政賢外四名連署覺

覺

種子嶋之

長五郎

太次右衛門

右両人之者共、大山帰来致拔積、大坂問屋江差登候不調法ニ付、科銀被仰付趣被仰渡奉驚入候、兼而欄敷申渡置候處、申付行届不申奉恐入候、依而差扣奉伺候、此段可被申上候、以上、

種子嶋役人

種子嶋郷兵衛

五月八日

右同 前田太兵衛(宗庵)

右同 時任丈左衛門(時子)

右同 羽生半兵衛(能忠)

右同 種子嶋五郎左衛門(政寛)

知覽才兵衛殿(行寛)

○十三日・十四日、修放光院殿一周忌于本源寺、

初日八講真讀、結日頓寫說道、家老時任丈左衛門

時子代松樹院殿、河内六郎時然代久美・婦美

・真佐一行香、法事奉行西村七郎・時任平右衛

門、靈膳奉行平山藤助・國上伴九郎、

○十八日、中之村百姓兵左衛門怠租稅、故令

移居于古田村上、

○廿二日、定府家老外令家老一人輪替役于覺

府、以三名跡中不可不慎家政也、由北

條時昭議上、

○廿八日、以一島猪鹿蕃殖害五穀許狩驅之、

○同日、與_二米七石于增田村_一、爲_二洪水_一川決傷

田、修_二築_一之_二人民勞苦、故及茲、

○廿九日、榎本宿右衛門在_二覺府_一、以_二放蕩無賴_一

故歸_レ之禁_二旅行_一、

○國老島津丹波久長傳、命以_二吾臣山路長玄_一爲_二

一代郡山鄉士_一、事如_レ左、

○一九一 島津久長申渡書

郡山地頭江

種子嶋伊勢名跡家来

山路長玄

右、被召出、其身一代郡山鄉士被仰付候、

右御格之通可申渡候、

五月 (島津久長)
丹波

○一九二 島津久長申渡書写

寫

白銀御附
一御廣敷醫師

本科

山路長玄

一役新米三拾俵

右之通被 仰付、役新米被下置候、

右御格之通可申渡候、

五月 (島津久長)
丹波

○按_二察_一一向宗_二告_三于官_一、如_レ例、

○六月二日、覺府第祈念所、以_レ失_二四代久長公孺

人_一・九代秀山公孺人之法号_一、問_二之于政府_一、政

府問_二之本源寺_一、答曰、久長公孺人者長持尊

靈、秀山公孺人者妙順尊靈也、即達_二之覺府_一、

○同日、以_二西田地蝗且有乙害_一甘藷之苗_一蟲_甲、令_二三

箇寺僧_一誦_レ經禳_レ之、

○同日、國上村足輕落合出右衛門寺_三入于隆興寺_一

七日、坐_下不_レ修_二所_レ牧_レ馬之堵_一、令_二牛馬_一喰_中

諸人之甘蔗_上也、

○與_二上下一領長野良左衛門_一、賞_下爲_二勝手方_一盡_レ

力勤勞_上也、

○廿九日、夏越之式、如_レ例、

○七月五日、松下満右衛門船幸丸水梢等十七人、

乘橋船漂_レ到于莖永村竹崎浦、告曰、吾儕載_レ

官米_レ赴_レ于德之島、四月開_レ柏原港_レ以_レ風不順_レ

五月來_レ于種子島、六月三日開_レ赤尾木港、同

十日到_レ于大島、廿七日開_レ大島_レ赴_レ德之島、

廿九日於_レ德之島洋上_レ東風大起、雖_レ下_レ錨纜_レ盡

斷、唯隨_レ風浪_レ漂流、七月朔日風浪益惡、二日

潮水滿溢船既沒、即乘_レ橋船_レ、經_レ三日_レ而乃來_レ

此地_レ云、事聞_レ于_レ官、

○七月七日、飾_レ日深公鑑_レ、家老種子島郷兵衛時

雍拜_レ之、

○同日、大風、

○同日、鹿籠浦之權兵衛船_三帆_三、船長甚九郎水手十六

人釣_レ鹿籠洋中_レ、遇_レ逆風_レ漂_レ到馬毛島_レ破船、

以_レ島中無_レ人茫_レ不知_レ所_レ爲_レ、九日見_レ漁船_レ

招_レ之告_レ之、即乘_レ四人_レ歸而告_レ之、故遣_レ船盡

迎_レ之、令_レ井元出右衛門_レ司_レ炊爨_レ養_レ之、且與_レ

錢_レ一貫文、

○八日、名代家老羽生半兵衛能寧詣_レ于大會寺、

十三日、名代家老前田太兵衛宗周詣_レ于慈遠寺、

各祭_レ先祖・宗祖且戰死靈_レ、十四日、名代家老

種子島郷兵衛時雍詣_レ于本源寺_レ祭_レ宗祖_レ、十六

日、名代家老時任丈左衛門時子於_レ本源寺方丈_レ

祭_レ祖先且戰死靈、

○九日、長野良助・三浦藤兵衛祭_レ爲_レ倉吏_レ三年、

爲_レ覺第代官_レ簿中不_レ載_レ錢百四十六貫文餘之

入_レ、且米價每_レ月有_レ增減_レ、賣米不_レ詳_レ其價、

作_レ簿甚不正、故坐_レ之也、

○十六日、日高半十郎罷_レ西之表庄屋_レ寺_レ入于妙昌

寺_レ四七日、作見舞荒木休五左衛門罷_レ作見舞_レ

寺_レ入于清淨寺_レ四七日、坐_レ私_レ庶民之貢稅_レ詐

爲_レ未進_レ也、叱_レ作見舞榎本善次郎_レ、坐_レ知_レ日

高_レ荒木之私_レ速不_レ告_レ之也、

○同日夜、野間村中宿石黒雲仙宅火、人馬・宗門手

札等無_レ恙、

○十九日、叱_レ十番番頭_レ、以下有_レ疵_レ傷所_レ飾_レ于廣

間之鐘之金物^上者、直衛不嚴^上也、

○廿二日、叱^二高奉行^一、坐^下不^レ得^レ命以^二稻木仲右衛門所^レ有之^二圃^一爲^二上妻藤四郎圃^一也、

○同日、稻木仲右衛門寺入二七日、坐^下訴^下高奉行強以^二己圃^一爲^二上妻藤四郎圃^一其言胡亂^也、

○廿四日、馬追、名代家老種子島郷兵衛時雍、馬役平山藤助・西村權太夫・西村蔵多・遠藤忠之允、

○同日、以^二西之村足輕名越惣四郎^一爲^二一世郷士^一、以^二納^二錢三十貫文^一也、

○同日、褒詞莖永村池亀八百右衛門・上里村有留有右衛門、以^下池亀納^二錢十五貫文^一有留納^中十貫文^也、

○同日、西之村足輕日高善助以^二納^二錢五十貫文^一爲^二代々郷士^一、納官村一世足輕平野平左衛門以^二納^二三十貫文^一代々足輕、濱津脇浦之孫右衛門以^二納^二二十八貫文^一代々野町、同所一世野町嘉兵衛以^二納^二金一兩代々野町^一、

○廿七日、上西之表百姓新左衛門製^レ瓦^{價當}三納^レ之、

故爲^二一世足輕^一與^二榎本氏^一、下西之表百姓文次郎以^二納^二錢三十貫文^一爲^二一世足輕^一與^二山添氏^一、野間村百姓彌平次以^二納^二三十貫文^一爲^二二世足輕^一與^二大山氏^一、

○廿九日、以^二前田十九郎^一爲^二用人見習^一、時任平右衛門組頭、上妻才次郎船奉行兼^二組頭^一、西村周左衛門船奉行、川内覺右衛門高奉行、

○同日、以^二宜順院^一爲^二大會寺住職^一、
○按^二察鬼利支丹宗^一告^二于^二官^一、如^レ例、

○八月朔日、與^二中紙各二束于慈遠寺^一・大會寺^一、二箇寺亦獻^二同品^一、

○六日、官命以呂波丸船長甚五左衛門、水手長五郎・甚左衛門・正太郎・新九郎・周蔵・嘉四郎・五郎・喜太郎・惣五郎有^レ罪囚^レ之、故書^二親族與家財于籍^一、以^レ可^レ呈^レ之、事如^レ左、

○一九三 鎌田哲二郎達書

いろは丸船頭

種子嶋之

甚五左衛門

右同水手

甚左衛門

右同

正太郎

右同

周藏

右同

五郎

右同

惣五郎

右同

長五郎

右同

新九郎

右同

嘉四郎

右同

喜太郎

右者、於評定所被召込候条、早々立會家財相改、

親類組中杯江堅固預置、銘々帳面老冊ツ、相調可

差越候、右ニ付案文差越候条得与見届、案紙之趣

を以可相記候、

一右ニ付、親族付御用候間委敷相記、銘々帳面老冊

ツ、相調可差越候、是又案文差越候条得与見届、

案紙之趣を以諸事細々相分候様可書記候、尤案紙

拾三ヶ条不残有之訳可相糺候、

但名頭名子村名等札表引合、無間違委敷可書載
事、

右者、別而急成御用ニ付申越候条、相糺早々可申

越候、聊大形有之間敷候、右ニ付差越候家財改様

之次第書、親族付案紙・親族家財帳老緒ニ返納可

有之候、以上、

八月六日

鎌田哲二郎

種子嶋

役人中

○十五日、蓮勝寺獻上、如例、

○廿日、締方横目三崎嘉之助・川上源七郎来、

○廿一日、長島郷士本田七郎左衛門妻有罪見放

来、即賜莖永村庄屋、事如左、

○一九四 北郷権五郎達書

西彦太郎移地頭長嶋

郷士

本田七郎左衛門妻

袈裟龜

右、依科郷士召使候段先達而申渡置候処、望之者無之ニ付、右格式を以種子嶋預被仰付、此節前之濱出帆種子嶋之半兵衛船江乗付被差越候条、廿廿二日五ツ時下石燈爐筋下江相廻り候様可被申渡候、左候而船中飯等之儀者如例可被申渡旨御差圖ニ而候、以上、

ヲ八月廿一日 北郷権五郎

○廿二日、以安城村足輕鮫島新吉一爲古田村庄屋、以從二他村一移居、歲與米一石八斗、
○廿四日、以家老前田太兵衛、物奉行西村甚五太夫、用人前田十九郎、高奉行西村喜右衛門・羽生主右衛門、普請奉行田上市郎、船奉行上妻才次郎・西村周左衛門一爲勝手方一、令出座于勝手方、謀貨殖一聽砂糖之事上、北條時昭所定議也、

○與上下一領銀五枚于渡邊勘右衛門直、所納

于大坂之貢税金大不給、事及艱難、勘右衛門登坂、與菱刈氏借力胥議、貸得許多之金、以納貢稅、事屬無事、故賞之也、

○官以下村貞之助學譯不怠能達、公家之用、歲賜米十八俵、

○前大守公見賞家老知覽才兵衛多年之勤勞、且命猶在本府盡力以宜助家政、事如左、

○一九五 北条時昭達書

(行寛)
知覽才兵衛

右、十七ヶ年定府相勤、正道致精勤、當時專御用立候間、白金御隠居様御内、被聞召通、御褒美被思召上、當時者御名跡之儀も候間、一涯致精勤、往々相勤候様可申付置旨、御内沙汰被為在候段致承知候、誠以恐入次第難有可奉承知候、老年も相成り候得共、右式故當分之通被召置候ニ付、猶又致精勤候様被仰付候、

八月

（北条時昭）
總部

○住吉村田地六賦以五石為一賦不入、賦田五十四區、野間村三賦不入、賦田五十四區、島間村十賦不入、賦田十七區、中之村百五十八賦不入、賦田五百二十六區、平山村六賦不入、賦田四百二十五區、莖永村三十八賦不入、賦田八十六區、上里村八賦、風災不熟減定賦、有差、

○九月六日、大雨傷安城村・住吉村田地、

○同日、油久村阿高儀之清助船從島間運送米三十石餘于覺府、於大泊破船、米盡沒了、池田浦之善太郎船於間泊破船、島間浦之榮太郎舟載米十五石、於兒ヶ水破舟、僅得七八石、即於彼地卑價而賣之、

○七日、以前田十九郎為用人、兼本源寺社奉行僉議方・異國方掛、勝手方如故、西村七郎加本源寺社奉行僉議方・異國方、時任平右衛門・上妻小左衛門加慈遠寺社奉行、種子

島大九郎・前田新五兵衛船奉行、西村周左衛門加組頭異國方、西村九郎兵具奉行、

○九日、使西村七郎講法令書于廣間、如例、

○十六日、國老川上久馬久芳傳命、以呂波丸船頭甚五左衛門、水手甚左衛門・長五郎・新太郎・周藏・嘉四郎・五郎・喜太郎・宗五郎・正太郎・甚藏為百姓僕、罪竊商砂糖也、事開于左、

○一九六 川上久芳達書

（二九六の）

写

いろは丸沖船頭

種子嶋之

百姓召仕

右同

甚五左衛門

右同

甚左衛門

右同

長五郎

右同

新太郎

右同

周藏

右同

嘉四郎

右同

五郎

右同 喜太郎
右同 宗五郎
右同 正太郎
右同 甚藏

右、去丑春喜界嶋砂糖積船船頭・水主とシテ罷下、塩・大豆・酒類を以砂糖可致交易申談、買入積下致交易掛占候処、式萬式百斤ニ及候ニ付、入樽百六拾壹挺都而無手形ニ而積入、山川沖江汐繫之折、久志浦江甚藏自船天神丸船頭吉右衛門江可相拂致約束、百斤ニ付六貫三百文ニ相究、代錢者賣捌候上可請取談置、夜中都而積移山川江致入津候処、御用掛相成、段々問付之上申出、抜砂糖取締之儀者分而敵敷申渡置候得共、右仕方別而不届ニ付、右之通百姓召使申付候条、御城下并古郷江(ハリ紙)「久志浦江甚藏之用番帳ニ御座候」差越候儀、且親兄弟妻子迄對面停止申付候、

九月十四日 (川上久芳) 久馬

(一九六の2) 右之通、九月十四日嶋津李御取次を以被仰渡候

間、此段申渡候、

御船手
寺尾庄兵衛

九月十六日

種子嶋

役人中

○十七日、以凶歳免大山野租税、

○十八日、官見許商ニ牛馬所謂驢、事開ニ于

左、

○一九七 菱刈隆観申渡書

亡種子嶋伊勢

親類江

右者、伊勢先祖代拜領被仰付野方江召置候牛馬、御用分外自他國商賣御免被仰付被下度旨、願被申出置趣有之、願之通被仰付候条、自他國牛馬買賣之振合通可被取計旨申渡、可承向江茂可申渡候、

九月 (兼刈隆観) 李之助

種子嶋屋敷

役人江

○一九八 厩申渡書

一牛馬御領國中江賣渡候節者、何毛何歲何某方江賣渡候旨、役人方より届申出候ハ、買主より札銀六分上納之上、馬札可相渡事、

一右馬他國江牽出候節、役人より毛年相改、送状相添、御厩又者駒拂方且勤先江差出候様、左候ハ、何分御見分之上、自他國出馬同様式拾式匁上納候様、左候而手形を以引出候様可然事、

右者、種子嶋野方江召入置候牛馬、自他國商賣御免ニ付、仕向之儀相伺候処、右之通取計候様、丑九月十七日比志嶋相馬御取次を以被仰渡候間、此段申渡置候、

丑九月十八日

御厩

○欲_レ遷_二催馬樂熊野權現宮于濱崎邸_一、ト_レ之得_レ吉、即造_二宮宮殿_一安置之、

○縮方横目福島半之進・河野八右衛門歸、

○十月朔日・二日、家老・組頭觀_二諸士武藝_一、

○自_二十九日_一至_二二十三日_一、名代家老種子島郷兵衛時雍詣_二于本源寺_一祭_二宗祖日蓮_一、

○十五日、以_二放光院殿一周忌_一、赦_二下西之表百姓長四郎・孫太郎_一、

○十九日、上野帶刀篤實傳_レ命、令_二橘丸船頭松下滿右衛門納_一科錢五貫文、去_レ年夏赴_二于德之島_一、及_レ歸伴爲_二海苔壺_一藏_二砂糖_一、稱_二德之島人載貨_一、故罪_レ之也、

○廿九日、大島人喜志行中圓來教_レ製_二砂糖_一、

○縣官命_レ持_二故_一朱判金銀_一者速出_レ之、可_レ易_二新製金銀_一、

○十一月朔日、與_二米二斗于三箇浦水梢_一、交代船歸帆、風浪惡不_レ能_レ操_レ船、逼_二于諸古瀬_一將破_レ船、皆勵_レ精保護免_レ難故也、

○二日、平山翁之進加_二異國方_一、美座玄助爲_三兵具奉行_一、

○八日、現和村足輕長山安右衛門寺入七日、坐_レ不_レ修_三馬堵_一令_三牛馬喰_二人之禾_一也、

○十一日、與_二金子_三兩于鮫島孫右衛門_一、覺府第大破壞、令_三孫右衛門修_二補之_一、從_二取_レ材之初_一至_二成功之終_一、謀_二便利_一省_二費用_一甚大矣、故賞_レ

之與_レ之、連_二及惣大工柳田今右衛門_一與_二金子百疋_一、北條時昭所_二議定_一、

○十七日、家老時任丈左衛門時子請_二致仕_一、

○廿二日、砂糖横目上村休之允來、

○廿五日、京都本能寺・尼ヶ崎本興寺贈_レ書、甲_二放光院殿_一、事關_二于左_一、

○一九九 本能寺・本興寺役者書狀

一翰啓上仕候、然者御嶋主伊勢様御儀長々御不例之處、不被爲叶御養生、去五月十四日御卒去之由、本源寺より申越驚所候、右御愁傷申上度、此

段宜敷御披露可被下候、恐惶謹言、

十一月廿五日

本能寺役者印
本興寺役者印

種子嶋伊勢様

御役人中

○廿八日、慈遠寺方丈落成、

○廿九日、笹河彌五右衛門寺_二入本因寺_一七年、己

船赴_二覺府_一息半吾爲_二船頭_一、船中以_レ失_二知覽才兵衛所_一託錢、命償_レ之拒_レ之不肯、其言甚不遜也、故罪_レ之也、

○同日、笹河半吾寺_二入于滿德寺_一一七日、坐_下爲_二

船頭_一船中失_二知覽才兵衛錢_一也、

○同日、叱_二知覽才兵衛用達吉良勝兵衛_一、訴_二半吾所失之錢_一、其言不_レ詳、故坐_レ之也、

○同日、河野庄左衛門・梶原源左衛門寺入各七日、罪_レ嘗爲_二種子島代官_一簿書不_レ正也、

○二階堂伊豆行典傳_レ命、令_三家老種子島五郎左

衛門・羽生平兵衛・時任丈左衛門・前田太兵衛・種子島郷兵衛納_三科銀各四_匁、坐_下法令不_レ敵令_中長五郎・太次右衛門商_上大歸來_二也、

○諏訪治部武敬傳_レ命、令_下自_二他郷_一來不_レ持_二拳書_一者速逐_二斥之_一事_上、開_二于左_一、

○二〇〇 諏訪武敬申渡書

諸郷江無證文者差越度儀者屹与不相成段、先_々より被仰渡事候得共、到此比間_二ハ無證文者多人數諸郷江入忍居、為定職分茂無之、不宜儀共取企候者も有之哉_二相聞得、不可然事候間、以來郷々請持之役、氣を附、右様不埒躰之者相見得候ハ、在所名前等相糺早々差返し、分而妨_二相見得候者者、其郷受込之締方横目江可申出候、大形_二相心得不埒躰之者召置候者ハ、屹与可及迷惑候、

右之通諸郷・私領江可申渡候、

十一月 (諏訪武敬) 治部

○縣官傳_レ命、以_レ乏_二米穀_一減_二釀酒_一、事如_レ左、

○二〇一 幕府触書

當寅年諸國違作之國物多、米穀拂底_三付、酒作人共作來高之三部一相減申、三部_二可致酒作候、若隱作等於致者、勿論其所役人迄吟味之上、屹与可申付候条心得違無之様、御領者奉行・代官并御手形所、私領者領主地頭より早々可被相觸候、

十一月

○二〇二 幕府達書

申渡候

當寅年之儀違作之國物多、既其食差支候場相聞得候_二付、當年酒造之儀、此迄造來候高三部一減石・三部_二造被仰出候、依之改方之儀、関八州者御領・寺社領・小給所共御ふしん役相廻、減石出之不用道具可預置旨、村役人より被差出、其外御領

・寺社領并小給所之分者、最寄御代官手付手傳廻村為致、同様為相改候間、御領分之儀、茂右ニ準、滅石之御趣意行届候様可取計也、

右者、水野出羽守殿之御沙汰ニ付此段申達候、以上、右之趣土方出雲守申達、

十一月

○按三察一向宗告于官、如例、

○十二月一日、議定、島主在ニ于覺府一則以ニ名代家老行ニ年頭歲暮等之佳儀、今也、放光院殿逝去嗣子未立、無由稱ニ名代、以ニ家老一行之、

○十日、改三天保、

○十日・十一日、修三本光院殿十七回忌于三本源寺、初日八講真讀、結日頓寫說道、種子島五郎左衛門政賢代ニ于松樹院殿、肥後惣左衛門代ニ于久美・婦美・政袈裟ニ行レ香、法事奉行上妻小左衛門・時任平右衛門、靈膳奉行國上伴九郎・西村九郎、手長下村九之允・子島龍助、僧三十五人、

○十二日、下西之表六十郎宅火、燒三宗門手札數失、事聞于官、

○十三日、上妻新七獻ニ斗搗之餅恒例以名代雖受之、今放光院殿逝去、未有嗣子故、以家老受之敬之、

○十五日、以三西村甚五太夫時員為ニ家老、

○十七日、移下妙久寺于本源寺境内上、

○廿七日、鍛治及三箇寺・廿人家獻上、如レ例、

○廿九日、以三本光院殿十七回忌一赦三梶原小一郎、古市六郎左衛門・河野琴司、

○川上久馬久芳傳レ命、以ニ廿人樋口儀兵衛赴ニ德之島一私ニ砂糖、没ニ取家財一為ニ百姓僕、無ニ請レ之者一之際囚レ獄、

○穎娃信濃久喬傳レ命、以下廿人荒木拙之助在ニ覺府一竊盜上、没ニ取家財一流ニ于德之島、

○國老川上久馬久芳・島津但馬久風・島津丹波久長・穎娃信濃久喬傳レ命、私ニ砂糖二者處ニ死罪、與黨者處ニ于流罪、事記于左、

〇二〇三 穎娃久喬外三名連署達書

拔砂糖取締之儀ニ付而者、先年以來追々申渡、殊更惣御買入之儀御趣法被召立候ニ付而者、別而嚴密申渡之趣有之候得共、兎角利欲ニ迷候哉、不正之手筋不相止、別而不届之至ニ候、依之向後拔砂糖取企候本人者不依誰人死罪、本人任申同意之者ハ依輕重遠嶋可被仰付旨、屹与御規定被相居候条、若此後犯御法候ハ、御用捨被仰付間敷候間、御仕置之期ニ至り後悔有之間敷候、人命ニも相掛不容易之事候得共、自然末々に至り汲受薄、御制度を破候而ハ、乍罪人不便之至り候ニ付、前廣御制度之次第茂申聞置事候間、此旨奉承知、彌以御法令相守り、聊取違無之様頭人・主人より稠敷可被申付候、

右之通、組中支配中其外可承向、江茂不洩様可致通達候、

但琉球嶋々江茂可申渡旨御勝手方江相達、諸郷ニハ地頭・領主・大番頭より申付候、

十二月

（川上久秀）
久馬

（島津久風）
但馬

（島津久長）
丹波

（穎娃久喬）
信濃

〇官以_三以呂波丸水梢甚蔵私_二砂糖_一、爲_二福山佳例川村牧野門名頭釜市僕_一、禁_内往_二來于覺府及故

郷_一相_二之_一遇父母妻子_甲、

〇歳暮、規式、如_レ例、

(表紙)

天保二年
種子島家譜
廿三代
四十七
名跡

- 天保二年辛卯正月元日、國上村獻野老、
- 二日、覽馬、家老種子島郷兵衛時雍、馬役知覽才之允、
- 同日、國上村獻瀨物、現和村庄司浦獻、
- 同日、八箇寺獻上、如例、
- 四日、上之郡庄屋・小觸獻上、如例、
- 六日、初狩、組頭西村周左衛門時哉・上妻才次郎

- 宗敏・西村七郎時民、山奉行河東雄兵衛・鮫島甚之允・河東仲太夫・知覽翁之允、夕狩場、家老西村甚五太夫時員・物奉行西村甚四郎時宴・用人時任平右衛門、西之表庄官獻上如例、獲鹿一、
- 七日、中之郡・下之郡庄屋獻上、如例、
- 同日、與米一石于西之村本因寺番僧、砂糖製師範徳之島之前久保於西之村一病死、爲償其喪祭・石碑等之費用也、
- 十一日、甲冑之賀筵及蓮勝寺獻上、如例、
- 同日、本源寺軍陣・温座祈念、如例、
- 同日、的初、家老西村甚五太夫時員、物奉行・用人不詳射手一番美座六七、二番上妻庄太郎、三番日高六、川内六七、下村黒人、八板、平次、
- 同日、官命屋久島藏火消及新橋柵門之守衛、
- 同日、贈佳札于洛陽本能寺・摂陽本興寺、
- 廿八日、納三狩所獲鹿皮一枚于官、
- 廿九日、以國老川上久馬久芳傳命、二十家樋口儀兵衛爲百姓之隸、事開于左、

○二〇四 川上久芳申渡書

種子嶋伊勢名跡二十家

樋口儀兵衛

右、依科百姓召仕候段者先達而申渡置候、依之山川福元村木之下門名子兵右衛門召仕候条、御城下并古郷江遣候儀、且親兄弟妻子江對面停止申付候、

右可申渡候、

正月

(川上久芳
久馬)

○檢察丁夫・病夫者及有職者聞于官、如例、
○二月三日、縣官命以古金銀・鎔替金銀、故藏古金銀者出之可易于新金銀上、國老傳之、

○六日、奉公命、令下庶流種子島六郎・種子島次郎右衛門參北條時昭而議中家政上、

○七日、官被命有唐茄烏賊茄者可燒中滅

之上、

○十日、下坂井村之農夫仲右衛門于獄、坐殿杖其親也、

○十九日、以美座七郎右衛門爲物奉行、

○廿四日、以下増田村之伊藏爲日州波見之紋太郎舟水手、於波見港破船之日溺死上、波見之吏告之、

○廿六日、平山二郎大夫・長野良左衛門・高崎孫兵衛各逼塞七日、嚮在職之候以聞不稱職之說也、雖固舉其過失而可也罪、然以勝手方勤勞之功、贖之而緩其罪矣、長野未辭職則論以病辭職、其上書之日直可免之、

○同日、叱美座七郎右衛門以聞奉職而不竭力之說也、命今不舉其過失、已後宜戒慎而勤仕上、

○廿七日、官命榮翁公昇進從三位、自是宜奉稱中三位公上、

○廿八日、嚮官勸蠶於島中而買其糸所謂、庶

民悦_二其高價_一、勵_レ精蠶桑、偶喰_二甘藷之苗_一生_レ虫、年益繁昌、終喰_二所_レ藝之甘藷之莖_一、故不熟民及_二飢餓_一、舉_レ世以爲、其虫蠶所_レ化也、然以_レ無_二其實_一令_二民強蠶_一、民猶不_レ肯、故訴_レ之不_レ免、又強勸_レ之、不_レ聞、是以訴_二試暫息_一之、得_二三年之許_一、

○廿九日、縣官示_レ商_二買唐貨_一之法、由_レ是官達_レ之、事開_二于左_一、

○二〇五 幕府触書

唐船持渡之藥種荒物類買物并荷物并合引當取組候者共、近来賣買を危踏通融不宜趣_二相聞得候_一、右商賣携候町人者勿論、都而國_二、而取捌候者共_一至迄、縱令公事出入吟味中_二而茂無障取計可致候_一、若又正銘唐物致所持、猶又并合引當等付取置申候共、妻子_二不拘當人計御仕置被成候節者、其品不及欠所妻子江可被下候、吟味中家財を改封印候得共、正銘於唐物者封外之条少も無疑念、向後

手廣可令賣買候者也、

右之通文化之度相觸候處、年月相立不_レ弁者茂有之哉_二相聞得候_一、向後唐紅毛物共正銘之品者危踏なく手廣可致賣買旨、御領者御代官、私領者領主・地頭より可被相觸候、

二月

○同日、監_二察一向宗_一告_二于官_一、如_レ例、

○三月三日、令_二用人讀_二法令書於廣間_一、

○同日、與_二草餅于三箇寺_一、慈遠寺獻_二同品_一、

○同日、西之表庄官賀_二瀬引_一、如_レ例、

○同日、締方横目黒田次郎兵衛・新納十郎來、

○十四日、以_二砂糖製師範大島之喜志行爲_二酒狂_一送_二于慶府第_一、

○廿一日、三役・組頭覽_二射禮于本源寺弓場_一、締方横目新納十郎・黒田次郎兵衛來視_レ射、日高周左衛門・古市熊太郎束_二矢于軍勢書入_一、

○廿二日、國老川上久馬久芳傳_レ令、禁_二製_二藍玉_一

商也之、

○同日、締方横目三崎嘉之助・川上源七郎歸、

○以三年穀不_レ登諸人採_二馬毛島之蘇鉄_一爲_レ食、

○四月四日、縣官命_レ不_レ可_レ買_中贈_二于唐土_一之貨

物_上、故 官傳_レ命、事開_二于左_一、

○二〇六 幕府触書

(二〇六の1)
一於長崎唐船江相渡候煎海鼠・干鮑・鱧鱒之儀、天

明五巳之年相觸候通、長崎會所直買入_二相成候、

以來爲出增國々之内追_レ請負之者取極、右請負之

人方江買付等長崎會所江爲差出候場所茂有之候

處、近来諸國共_二出方相劣、且又請負之人共方江

者不相渡、外々江相對密賣いたし稼人も有之趣相

聞得、不埒之至_二候、以來出方相增候様精出し相

稼密賣堅致間敷候、若右躰之密賣いたし候者於有

之者、吟味之上急度可申付候、

右之通浦方有之國々御領者代官、私領者領主地

頭より可被相觸候、

二月

(二〇六の2)

別紙之通從 公義被仰渡候条、組中・支配中・

諸郷江可被申渡者也、

四月四日

御家老座

○七日、官以_二東市街之榎本甚五左衛門_一爲_二百姓

之隸_一、且抄_二没家財_一、以_二密商_三砂糖_一也、

○八日、異國方御用人北條織部時昭傳_二糸荷船之

令_一、如_レ例、

○同日、虫喰_二松葉_一樹將_レ枯、故令_二庶民驅_レ虫、

○十五日、以_二異國船來之候_一國老傳_二長崎奉行之

令_一、如_レ例、

○十六日、西村善次郎・日高善次以_レ闕_二本出米_一、

隨_二其米_一而收_レ祿_一祿一石價
十五貫錢也、

○廿一日、以_二上妻才次郎_一爲_二用人見習_一、西村源

助船奉行、渡邊長助兵具奉行、

○廿五日、日高勇四郎寺入于妙泰寺七日、點見爲三覺府第普請方下吏之簿上、以レ欠レ記三長木及竹二也、

○同日、以三野間村之大山彌平次一爲三代々足輕一、嚮以レ納三四金一爲二世足輕一、今又以レ納二金一也、

○廿六日、縣官命云、近世市人農夫營三造棺槨及石碑一、或高大、或壯麗、不三顧其分一之甚也、今定三限制一、向來不レ可三敢冒レ之、故 官傳レ命、開三于左一、

○二〇七 幕府觸書写

写

近來百姓町人共身分不相應三大造葬式いたし、又者墓所江壮大之石碑を建、院号・居士号等附候趣相聞得、如何之至三候、自今以後百姓町人共葬式者、仮令富有或者由緒有之者三而茂、集僧十僧より厚執行者致間敷、施物等茂應分限致寄附、葬碑

之儀茂高臺石共三四尺を限、改名江院号付居士号等決而附申間敷候、尤是迄有來候石碑者其俣差置、修覆之節者院号・居士号相除、石碑取縮候様可致候、

右之趣御領・私領・寺社領共三不洩様可觸者也、

右之通可被相觸候、

四月

○五月二日、以三現和村之鮫島善七殺レ妻而自盡一、北條時昭上書聞レ之、事開三于左一、

○二〇八 北条時昭口上覚

口上覚

種子嶋伊勢名跡

家來

鮫嶋善太右衛門

嫡子

鮫嶋善七

右者、當二月廿三日妻を打果、其身致切腹相果、子細相知不申候得共、不圖乱心之躰相見得申候ニ付、手計を以仕置申付度御座候間、御免被仰付被下度奉願上候處、願之通被成御免候ニ付、科目向之儀者可奉得御差圖旨被仰渡、右ニ付而者善七儀存命御座候得者切腹申付度御座候得共、其身茂致切腹相果候付而者、右科相當ニ而死躰無構筋申付度御座候、尤同人妻儀茂死躰無構筋、是又申付度御座候、當分名跡付掛御用人江も申談、私より奉得御差圖候間、何分被仰渡被下度奉存候、此旨被仰上可被下儀奉頼候、以上、

北條（時昭）織部

フ
五月

本文善七事、存命候得者死罪相當之者候得共、相果候ニ付死躰之取捨被申付、妻死躰之儀者申出候通可取計候、

○五日、與ニ粽各ニ束于三箇寺一、慈遠寺獻ニ同品一、

○同日、自ニ昨夜一至ニ今朝一大雨、平山村農夫仙七女幼稚喪ニ父母一、長ニ於親族庄市家一、今朝爲レ雨山崩壞レ家、壓レ梁而死、直告ニ于官一、

○十一日、嚮ニ以上西之表足輕長野覺之進有レ罪爲ニ百姓一、且抄ニ没宅地一、今以レ改レ過復ニ本姓一反ニ與祿一、

○十二日、以ニ増田村之市次郎竊盜一下レ獄百日、

○十三日、西之村・古田村・住吉村・安納村・現和村村吏奏下田地爲ニ洪水一多破壞上、

○十三日・十四日、於ニ本源寺一令下僧三十五人修中

放光院殿日悟尊靈三年忌上、家老羽生半兵衛能寧代ニ松壽院殿一行レ香、用人種子島茂助代ニ女子三人一行レ香、法事奉行前田十九郎・上妻才次郎、

靈膳奉行西村熊之助・河内熊右衛門、

○十五日、上西之表足輕長野覺之進寺ニ入于滿徳寺一十七日、以レ聞ニ不正之說一也、

○十七日、國上村郷士向田庄右衛門寺ニ入于隆興

寺一七日、且剝_二向田氏_一、是素以_二足輕落合氏_一繼_二向田家_一、而然日歸_二落合家_一爲_二足輕之務_一、以_二其行_{フヲテ}慳_一也、

○同日、國上村足輕榎本紋次寺_二入于本蓮寺_一七日、當_二亥年改定_二宗門手札_一、冒_二向田氏_一爲_二鄉士_一、是事及_二今之札改_一發露、故及_レ茲、

○廿日、與_二米二斗于西之村之土民孫兵衛後室_一、以_二砂糖製師範德之島之前久保自_三病臥_レ床_二至_レ死、常在_レ側而盡_二篤誼_一也、

○廿一日、令_下船奉行平山翁之進加_二用人_一在中_レ舊職_上、種子島茂助用人見習、

○廿二日、嚮令_下高奉行日高杉右衛門爲_二船奉行_一在中_レ舊職_上、今轉_二船奉行之務_一、

○廿三日、以_二美座十左衛門・西村藏多_一爲_二納戶奉行_一、

○廿四日、東市街之榎本甚五左衛門有_レ罪、官抄_二沒家財_一、令_下吾横目齋_中其家財_上、納_二其價六百九十一錢于_二官_一、

○廿五日、以_二醫師山下要輔_一爲_二一世組士_一、嚮爲_二池野氏養子_一之日命_二奧醫師_一、今辭_二池野家_一歸、而然以_二身分奧醫師_一也、

○廿九日、監_二察一向宗_一告_二于_二官_一、如_レ例、

○六月朔日、釋_二坂井村百姓仲右衛門_一、嚮以_二鞭_一答親_下獄、今出_レ之爲_二西之村塩言_一僕_一一個年、

○十五日、普請方鍛冶屋火起、柳田源太夫・同源兵衛・松下仁右衛門速馳至得_レ消_レ之、即賞_レ之與_二米貳斗_一、

○十七日、普請奉行上妻新右衛門寺_二入于本法寺_一二七日、坐_二三十五日火起之時爲_二當番_一警_レ火不_レ嚴也、連及叱_二鍛冶平瀨友次_一・長野長之進、下吏

牧十太夫、庄屋代羽生_三之進_一、

○廿五日、日高七郎左衛門・種子島權左衛門・遠藤喜兵衛・日高七郎太夫・柳田善助・鮫島藤之允・

平瀨次郎七・阿世知清之允・松下孝治・大山善次・牧瀨新藏・桑山五郎左衛門・德永次三太・宇多津勘次郎・宇多津喜平次・榎本伊兵衛・山口茂兵

衛・濱田金次郎・岩坪市次郎・岩坪榮次郎・大木七太郎・榎本次兵衛・桑原孝四郎・榎本直吉・桑原直右衛門・中村善兵衛・木原長次・木原長左衛門・西村市左衛門・阿世知友七欠納本出来、隨米多少収禄、有差、

○晦日、夏越之式、如例、

○七日五日、以西村次郎兵衛爲物奉行、

○七日、家老種子島五郎左衛門政賢拜日深公鏡于廣間、

○八日、種子島五郎左衛門政賢詣于大會寺、十三日、羽生半兵衛能寧詣于慈遠寺、各祭先祖・宗祖及戰死靈、十四日、前田太兵衛宗周詣于本源寺祭宗祖、十六日、種子島郷兵衛時雍於本源寺方丈祭祖先及戰死靈、

○同日、以西村次郎兵衛・河内覺右衛門・遠藤仲之允爲勝手方掛、

○十二日、與米二斗于巧匠山下太右衛門、以下役于覺府勤勞于修補也、

○十五日、親戚北條時昭等賞諸人納米錢救中府庫困窮、事開于左、

○二〇九 鹿兒島役所達書

去年御出米上納及間違、限月御上納不相調、御傳來之御高三茂相掛程之御難渋而、種子嶋三茂及掛合、一統御難渋之旨趣申渡三相成候処、厚汲受銘々心落を以米錢差出、一廉之御用相立、拜借金限月通御上納金相濟、無此上御幸之御事銘々殊勝之心掛、依而御伺被成、御褒美米錢都而御借入二而、三年符御返納之筋、尤滯納等有之人者差引可被仰付、織部様其外様より致承知候間、如例此旨御掛合申越候、

七月十五日

鹿兒嶋

御役所

種子嶋
御役所

○十八日、以西之表足輕榎本覺左衛門爲二代々足輕、嘗納瓦爲一世足輕、今又以納錢二十貫文也、

○同日、有留善太夫寺入于本法寺一七日、上妻三助寺入于本蓮寺一七日、有留五太郎寺入于隆興寺一七日、牧傳四郎寺入于妙泰寺一七日、木原半藏寺入于本成寺一七日、以西不納雞卵價數促之不致肯命也、

○廿三日、以種子島茂助爲慈遠寺社奉行、上妻才次郎大會寺社奉行、

○同日、國老川上久馬久芳命家老前田太兵衛宗周・種子島鄉兵衛時雍携横目二人竊到于本府上、種子島六郎承命達之知覽才兵衛行寬、行寬即促飛船達于種子島、

○廿四日、島間浦利右衛門船二枚水手庄次郎・清九郎三人、從濱津脇到于赤尾木港、途中遇東北風大起、隨風潮漂流、廿八日夜漂到于小宇治島、破船、助命然以無人島故絶食二日、

時加勢田小浦之市左衛門者釣在于大字治島、見利右衛門船到于小宇治島、怪其後無消息、謂必破船者、於是携食到于小宇治島、果三人將餓死、即令飲食而初免死、市左衛門令已船送于秋目、秋目浦役人贈錢各二百文、八月二日送于山川、其際盡受市左衛門之扶助云、

○廿九日、馬追、家老羽生平兵衛能寧、馬役前田次郎左衛門・西村惣次・知覽才之允・羽生十太郎物奉行・用人失姓名、

○同日、以鮫島孫右衛門爲高奉行、猶聽普請方事、

○按察鬼利支丹宗告于官、如例、
○八月朔日、與中紙各二束于慈遠寺・大會寺、二箇寺亦獻同品、

○八日、日高仙太夫寺入妙泉寺、上妻七郎左衛門寺入滿德寺、各七日、以下爲慶邸代官簿書不_レ正也、

○九日、家老前田太兵衛・種子島郷兵衛、横目種子

島友右衛門・岩河喜太郎促飛船赴于本府、

○十三日、西之村村吏告七月廿七日・八日潮水溢

田禾大損、

○十五日、蓮勝寺獻神酒・棗盛、如例、

○晦日、以西村七郎時民爲勝手方掛、用人如

故、

○四月四日、奉命松樹院殿以樹字易壽、

○同日、減西之村賦税、

○八日、見止砂糖方横目下島、以締方横目監

察焉、

○九日、使前田十九郎講法令章于廣間、如例、

○十八日夜、西村周左衛門殺坂井村百姓周五郎、

周左衛門以私事與八板平次共行于坂井村、

是夜里人於淨光寺塔中上之坊爲野樂、周左

衛門就見之、周五郎以杖笞周左衛門額、周

左衛門曰、爾何爲者而笞吾乎、吾是西村周左衛

門也、曰、爲妨觀也、何撰人乎、周左衛門既

將殺以二人叢裏、故牽出于門外、周五郎奔

逃、追之不_レ及、少焉與平次共_レ到其宅、呼

名不_レ應、開_レ戸入搜索、見_レ脫腰刀、擁_レ頭潛居

于盛粟俵間、斯殺之告_レ廷、締方横目黒田次

郎兵衛・新納十郎、吾横目種子島友右衛門・上妻

才次郎檢察、聞之于官、

○廿五日、現和村田之脇浦之孫吉宅火、延及_レ休八

・吉右衛門・彌七・孫平・長右衛門宅、手札等

無_レ恙、

○廿八日、北條時昭上疎請令平山二郎太夫・長

野良左衛門・高崎孫兵衛・八板藤角・羽生直一郎

・羽生十太郎居於七島、見_レ許_レ之、事記于

左、

○二一〇 北條時昭口上覺

口上覺

種子嶋伊勢名家來

平山二郎太夫

長野良左衛門

高崎孫兵衛

八板藤角

羽生直一郎

羽生十太郎

右者、子細有之候付、右之者共七嶋之内居住為
仕申度候間、御免被仰付被下度奉願候、此旨
被仰上可被下儀奉頼上候、以上、

北條時昭織部

卯
九月廿八日

張紙

本文願通申付候条、次郎太夫事悪石嶋、良左衛
門事臥蛇嶋、孫兵衛事平嶋、藤角事宝嶋、直一
郎事中之嶋、十太郎事口之嶋江便船承合、御引
付被願出候様可申渡候、

○十月二日、北條時昭上疎、以三平山・長野等七島

居住之事、請三北條吉左衛門・種子島壯之允及
足輕之官暇、事關于左、

○二二一 北条時昭願書

御勘定小頭

北條吉左衛門

右者、種子嶋伊勢名跡家来嶋元江罷居候者之内、
依願嶋方居住申付候一件三付用向有之、右付吉左
衛門頼越申度御座候間、用向相濟迄之間御暇被成
下度奉願候、此旨被仰上可被下儀奉頼候、以上、

北條時昭織部

十月二日

張紙

願之通御暇被下候、

十月 （二階堂行典）
主計

○二二二 北条時昭口上覚

口上覚

御兵具方御足輕

三人

右者、種子嶋伊勢名跡家来嶋元江罷居候者之内、依願嶋方居住申付候一件付用向有之、末家之内より兩人罷下拵付、彼地江自分頼ニ而列越申度御座候間、右兩人罷帰迄之間御免被仰付被下度奉願候、此旨被仰上可被下儀奉頼候、以上、

北條（時昭）織部

十月二日

張紙

可為願之通候、

十月

（川田佐藤）
信濃

○二二三 北条時昭口上覚

口上覚

横目

種子嶋壯之丞

右者、種子嶋伊勢名跡家来嶋元江罷居候者之内、依願嶋方居住申付候一件付用向有之、壯之允頼越申度御座候間、用向相済迄之間、御暇被成下度奉願候、此旨被仰上可被下儀奉頼候、以上、

北條（時昭）織部

十月二日

張紙

願之通御暇被下候、

十月

（川田佐藤）
信濃

○同日、家老贈レ書告平山・長野等七島居住之所ニ

由来、事開ニ于左、

○二二四 鹿兒島役所覚

覚

先達而前田太兵衛殿・種子嶋郷兵衛殿被罷登候一
件之儀、其後何分之儀仰渡も無之、御出府之御而
人御案内之通ニ而、共々ニ内々ニ而可成丈相働候
趣茂有之付、何れ其通社可被仰渡与相待居申候
處、先月廿四日八板藤角一件被仰渡、誠ニ案内外之
儀何共及當惑申次第、枝葉之藤角さへ右之御取計
付而者、其餘者如何御取計可有之哉与存居申候
處、翌日種子嶋次郎右衛門様ニ茂被聞召通訳有
之、何分不被仰渡内慎御承知有之、然處廿七日別
紙之通被仰渡、誠以絶言語申次第、此上者何様共
及力申儀ニ而茂無之、御案内之通御家老様ニ茂最
初者御引受宜、何様之儀ニ而右躰重御取計相成候
哉与、内々極隱密ニ而承合申候処、最初之通ニ而
御伺ニ為相成由候處、上様御腹立甚敷、當分御
名跡中之儀一統茂一入可相慎之處、輕上黨を與候
趣意難遁との御事ニ而、中々御聞入無之、御家老
衆再三吟味為被仰渡由ニ而、御家老衆茂難黙止、
右之通御吟味ニ為相成ニ而も有御座間敷哉与内々

承申候、此節之御取計付、被對江戸表不輕御儀与
之御沙汰之趣極内々承知仕、何共驚入次第、夫故
次郎右衛門様御取計之儀茂大嶋居住被仰附、廿九
日被成乗船候、此上ニ可成丈ハ与存申候得共、中
々手之付處茂無之、只恐入申迄ニ御座候、右躰御
上より被附御手候格別成御政道之儀付、久馬様御
内差圖ニ而、御親類北條吉左衛門様、御横目種子
嶋壯之允様、外ニ附役三人御下之筋及御治定、今
便より被成御下候、中々不能紙上行行之儀者專種
子嶋六郎様・菱刈八郎太様御引受ニ而、北條吉左
衛門様御達有之候故、御聞通被成、夫々御取計可
被成候、

鹿兒嶋

御役所

十月

種子嶋

御役所

○種子島六郎傳三川上久馬久芳令、命下家老諸有司各慎謹諸事、以宜處置七島居住之事上、事開于左、

○二二五 種子島六郎達書

當時御名跡中殊更此節子細有之候者共、公義より夫々不輕取扱向を茂被仰付ニ付而者、此上萬一御政事向等も不行届儀共有之候而者、第一被應公邊江御申分茂無之事候間、重役之面々萬端掛心頭、諸向一涯入念致精勤候様、屹与可申渡旨、久馬殿依御差圖申達候、以上、

但

此節及御取扱候者共、餘黨可有之儀も難計候間、委細相糺、其餘類於有之者早々可申越旨、久馬殿御差圖ニ而候条、此旨申達候、以上、

種子島六郎

天保二年卯

十月

種子島

御役人中

○四日、免大山野賦稅半、

○九日、家老種子島五郎左衛門政賢詣于本源寺、盛中供宗祖日蓮一菓子、

○十日、北條吉左衛門・種子島壯之允、足輕小野彦

七・牧野甚七・松脇徳之助來、

○同日、北條吉左衛門・種子島壯之允携足輕三

人、出席于會所、家老種子島五郎左衛門政賢

・羽生半兵衛能寧・前田太兵衛宗周・種子島郷兵

衛時雍、横目種子島友右衛門・上妻小左衛門・上

妻才次郎、待席召平山二郎太夫・長野良左衛門

・高崎孫兵衛親戚各二人、命下設牢于家室各

可也囚之、

〇二一六 役所達書

一 平山二郎大夫

右、聞得之趣有之付、座敷取拵召入候様、大目

附栴山伊織様より依御沙汰被仰付候、

十月

御役所

長野良左衛門

高崎孫兵衛

右同案

〇十一日至二十三日、於三本源寺一修三日蓮五百五十年回忌、十一日前田太兵衛宗周、十三日種子嶋

郷兵衛時雍、詣之祭之、

〇十二日、剃三羽生直一郎・羽生十太郎官、見レ

命三囚三于私室、如三平山・長野等、

〇同日、召三八板藤角親戚、見レ命三七島居住、

以三即今藤角在三三覺府、不レ及設レ牢、

〇十四日、北條吉左衛門・種子島壯之允召三家老于

旅館、傳三公命、事開三于左、

〇二一七 川上久芳口達写

久馬殿より被相渡候御口達之写

種子嶋伊勢家跡

差引入江

種子嶋伊勢家跡家来

平山二郎大夫

長野良左衛門

高崎孫兵衛

八板藤角

羽生直一郎

羽生十太郎

右者、子細有之候付、七嶋之内江居住家法通被願出候様可申渡事、

但

張紙三、九月廿七日久馬様より御用人島津全

取次を以、差引入坂元平左衛門殿御承知有之

候事、

〇二二八 樺山久成申渡書

種子嶋伊勢名跡家来

平山二郎太夫

長野良左衛門

高崎孫兵衛

八板藤角

羽生直一郎

羽生十太郎

右、七嶋之内江居住被願出、其通被仰付候、右付便
船有之迄之間、仮揚屋願出可被差置旨可申渡候、

但

右六人之内御當地江罷在候者は、右通被願
出、在所江罷有候者は、仮揚屋之格を以於所
牢込被申付候様、是又可申渡候、

九月

(樺山久成)
伊織

〇二二九 役所達書

平山(武正)二郎太夫

右、子細有之候付、悪石嶋江居住、川上久馬様依
御差圖被仰付候、

十月

御役所

〇二三〇 役所達書

長野良左衛門

右、子細有之候付、臥蛇嶋江居住、川上久馬様依
御差圖被仰付候、

高崎孫兵衛

右、子細有之候付、平嶋江居住、川上久馬様依御
差圖被仰付候、

宝嶋

八板藤角

右書同断、

中之嶋

羽生直一郎

右書同断、

口之嶋

羽生十太郎

右書同断、

十月

御役所

○十五日、松下仲兵衛船到、吉平新六・足輕川野清
吉護送八板藤角一來、船中設牢囚之、不許
上陸、

○十六日、締方横目三崎嘉之助・久保七兵衛來、

○十九日、促三船三艘二送三放平山・長野・高崎等于
七島、各使三足輕二人監三送之、

○廿日、北條吉左衛門・種子島壯之允歸、

○廿二日、山奉行知覽翁之允・河東仲太夫寺入各七
日、坐三爲レ商買令レ取レ材之日紀綱疎也、

○同日、令三西村藏多・河内熊右衛門・日高源七郎
兼三勝手方、

○晦日、上妻三助逼塞七日、不レ納三鷄卵之價、數
責促不三敢肯レ令、故及レ茲、

○官每人至三牛馬船一令レ出三銀一匁、今年期盡以三
官庫困窮、從二來年一又令レ納之、事開于左、

○二二二 二階堂行典外四名連署達書

御所帶方御難涉付、御領國中琉球嶋々迄一統人別
・牛馬・船卷勿出銀被仰付置、當年迄二而年限答
合諸回困窮之折柄故、來年より者出銀御用捨被仰
付答候得共、三都御借財等今以被相償候程無之
付、來辰之年より引續三ヶ年、是迄之通可相心得
候、此旨表方江致通達、奥掛御勝手方江茂可相達
候、

川上久芳
久馬

十月

島津久風
但馬

島津久長
丹波

川田佐橋
信濃

二階堂行典
主計

○榎本甚五郎有不正之事、文化五年辰四月、親
戚請レ流之于沖永良部嶋、申歲於二彼地一受三宗

門手札、后得_レ赦歸、今歲當_レ受_レ宗門手札、而不知_レ其處置、故家老上疎請_レ命、事關_二于左_一、

〇二二三 種子島時雍口上覚

(二三) 口上覚

種子嶋伊勢名跡家来

榎本甚五郎

右、不行跡有之、一往為折檻、文化五年辰四月、依願沖永良部嶋江遠嶋被_レ仰付置候處、申年札御改後赦免被_レ仰付罷登_リ候付、此節手札御改_二付而者_一、何様可被_レ仰付哉、奉得御差圖候、此等之趣被_レ仰上被_レ下度奉願上候、以上、

但

嶋手札相添差上申候、

種子嶋伊勢名跡役人

種子嶋郷兵衛(麻理)

卯 十月

(二三) 右之通願申出趣、種子嶋伊勢名跡親類北條織部被

承届、掛御用人及御相談、私より此段申上候様被_レ申聞候、以上、

用頼代

染川伊兵衛

卯 十月

〇二二三 札改奉行所達書

此表申出趣相達候条、當年宗門手札御改付、此證文を以新札可申請候、以上、

但

島札取揚割捨候、

天保二年卯

十月

札改奉行所

種子嶋

役人

〇十一月四日、以_二下村惣太郎・河内六郎_一為_二文書

方掛、

○十一日、以種子島大五郎・種子嶋大九郎・上妻彌九郎爲組頭、下村惣太郎船奉行勝手方如故、岩

川助七納戸奉行、日高源七郎・鮫島甚之允高奉
行、日高周左衛門馬役、

○十二日、家老種子島五郎左衛門政賢致仕、

○同日、與米各一石八斗于種子島五郎左衛門政賢
・時任丈左衛門時子、賞數年勤勞于家老職也、

○十六日、櫻井玄甫逼塞七日、櫻井造小舟繫之于田舎浦、官以點檢大小船、命轉送之于赤尾木港、輕其命轉送遲滯、故及茲、

○同日、武田市郎兵衛・阿世知惣之允逼塞各七日、
武田息權六妻伐甘蔗、阿世知妹亦伐甘蔗、
共坐平日教訓不嚴也、

○廿三日、以平山傳一郎爲家老、

○同日、締方横目黒田次郎兵衛・新納十郎歸、

○廿七日、與米一石于本源寺、助造拜殿費

用、

○北條織部時昭・種子嶋六郎時傳(マ)國老川上久馬久芳之書、命令不正之徒居住于七島、自今益家老等慎謹庶事、不可輕謾家政、事

開于左、

○二二四 川上久芳達書写

久馬殿より被相渡候御書付之写

(時昭)
北條織部

種子嶋六郎

右者、種子嶋伊勢名跡家来之内不束之者共有之、
夫々嶋方居住申付候、右付而者此以後取締向之儀者勸弁茂可有之候得共、名跡之儀候得者、分而不行届候而者難叶候間、猶又深遂吟味差引人江茂申談、聊茂不締之儀無之様、末々迄茂嚴重可申付候、

十月

(川上久芳)
久馬

〇二二五 種子島六郎・北条時昭連署申渡書
別紙御書付之通、久馬殿より被仰渡趣有之、恐入
次第候、此上万一御政事向等不行届儀共有之候而
者、被對 御上御申訳茂無之事候条、御役々以下
一統一涯入念致精勤候様可被申渡候、以上、

北條時昭織部

十一月

種子嶋六郎

種子嶋

御役人中

〇國上村百姓仁三太納科炭四十俵、坐私田地
也、

〇按察一向宗告于官、如例、

〇十二月二日、住居于洲之崎、足輕古市喜五郎、

買十一月十九日漂到于長濱天草之源太郎船、

與濱津脇浦甚四郎者二人乘是舟、發長濱

赴於赤尾木、中途風浪大起不知行處、事

聞于官、

〇十三日、上妻新七獻餅、如例、

〇十五日、以美座矢太郎・美座玄助爲山奉行、

〇同日、嶋津圖書臣舊藥丸氏四郎左衛門以尊崇

一向宗、見放來、事開于左、

〇二二六 島津久風申渡書

種子嶋伊勢名跡親類江

本宮之城家來藥丸名字之

四郎左衛門

右者、一向宗依科遠嶋之格を以私領預申付候間、

嶋中狼徘徊いたし候儀、且親子兄弟妻子江對面停

止申付候段者、別段申渡候条、役々兼々氣を附、

宗門ニ付少々、而茂疑敷儀有之候者、早速可申出

旨、屹与可被申渡候、左候而年中三度ツ、疑敷儀

有無之訳被承届候様可申渡候、

十一月

(島津久風)
但馬

〇三二七 島津久風申渡書

宗門改役江

本宮之城家来葉丸名字之

四郎左衛門

右、依科遠嶋之格を以種子嶋預申付候段者、先達而申渡置候、此節種子嶋之船頭并元弥吉船より船張_三而差下候条、中途相搦幸領相附、明十六日本船江乗付候儀共如例可申渡候、

右申渡可承向江茂可申渡候、

十二月十五日 (島津久風) 但馬

〇三二八 伊地知半助・三原六郎連署申渡書

本宮之城家来葉丸名字之

四郎左衛門

右、依科遠嶋之格を以種子嶋預被仰付、明十六日種子嶋船頭并元弥吉船より船張_三而差越候段被仰渡候間、受取方之儀右船頭江可申渡候、此段申渡候、以上、

宗門改方

三原六郎

十二月十五日

伊地知半助

種子屋敷詰

役人

〇賜_三抱地八反于知覽才兵衛行寛_一、以_丙前太守公賞_三行寛多年勤勞_一私_レ命_乙恩賜之事于松壽院殿_甲也、事開_三于左_一、

〇三二九 北条時昭申渡書

(行寛) 知覽才兵衛

一抱地八反

右者、多年定府相勤、正道致精勤候段、白金御隠居様御内、被聞召上、屹与褒美沙汰申付、往_レ可被召仕置旨、松壽院様御内、被遊御承知候付、右之通永代拜領被仰付、場所之儀者、追而可申渡候、以上、

十二月

(北条時昭)
織部

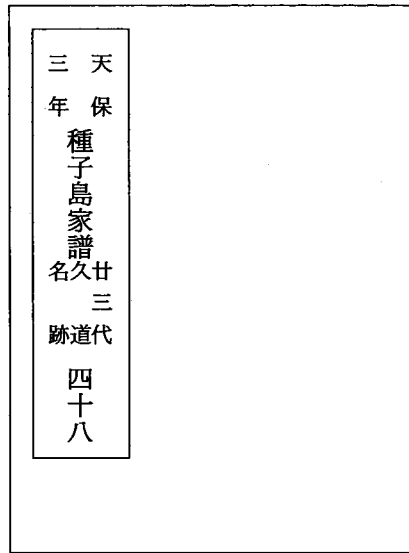
○與_二銀五枚于鮫島孫右衛門_一、以_レ勤_二勞于作事_一也、

○以_二濱田清吉_一爲_二廿人格_一、賞_下府庫困窮不_レ能_レ給_二出米金納等之用_一、清吉在_二魔府_一與_二楢原彦太郎_一共謀借_二得許多之金子_一以_助府庫也、

○廿七日、廿人家及三箇寺・鍛冶獻上、如_レ例、

○歲暮、規式、如_レ例、

(表紙)



- 天保三年壬辰正月元日、國上村獻_ニ野老_一、
- 二日、覽_レ馬、家老平山傳一郎武世、馬役_{失姓}、
- 同日、國上村獻_ニ瀨物_一、現和村庄司浦獻_レ鯉、
- 同日、八箇寺獻上、如_レ例、家老西村甚五大夫時員、
- 同日、上之郡庄官・小觸獻上如_レ例、家老種子島郷兵衛時雍、

○六日、初狩、組頭上妻小左衛門定直・種子島大九郎時習・種子島大五郎時義、山奉行河内十郎・河東仲大夫・美座源助・美座矢太郎、夕狩場、家老平山傳一郎武世、物奉行美座七郎右衛門時資、用人_{失姓}、西之表庄官獻上、如_レ例、

○同日、始命_ニ的始射手種子島郷兵衛時雍庶流子島龍助_一、子島上言曰、聞的初者皆代_ニ宗家_一吾亦做_レ之乎、由_レ是問_ニ記錄方_一、記錄方拳_ニ正徳五年之例_一、因使_ニ子島代_ニ宗家_一後做_レ之、正徳之例開_レ左、

○二三〇 西村時乘外三名連署伺書
(二三〇の1)
 年頭御旧式御的始射手組座配之儀、家々不依嫡庶名字ニ付前、御賦相済来申候、然處近年縱令美座家ニ而も庶流之人候得者、御氏族之内別家嫡流之人與種々申分有之、無案内之私共難究、漸至當日御傭杯ニ而相調申躰御座候得者、先以御佳例之儀不成合事ニ候、尤御氏族之分流御系圖ニ相見得候

得者、嫡庶ニ付高下之次第相知可申儀御座候得共、支流段々ニ有之高下之次第、中々私共難及了簡ニ、依之前々之格式者御氏族并他家共ニ不依嫡庶、其名字ニ付御旧式之勤方ニ被仰付置度奉存候、可被奉 窺候、以上、

午

十月廿七日

上妻惣左衛門
(宗世)

知覽孝左衛門
(行年)

前田六郎右衛門
(重之)

西村權右衛門
(時乘)

西村九郎左衛門殿
(時應)

(111062)
備貴覽奉窺候

御朱書

右見届候、嫡庶ニ付段々六ヶ敷申立差支之由、依之不依嫡庶ニ其名字ニ付而之勤方ニ申付候ハ、可被宜由、尤之儀ニ候、美座ニ而も、河内ニ而も、西村ニ而も其嫡家之勤ニ申付候、左候得者其嫡家之人老人又ハ役目相勤、或者病氣差

合候節者、其爲名代庶流之内より相勤可然、左候得者座者名代ニ付而嫡家之座ニ可申付候、他家も同然ニ申付可然候、此上難決訳も候ハ、又々可申聞候、

右之通被 仰出候間、可被奉得其意候、

午十一月廿日

西村九郎左衛門
(時應)

種子島

御役人衆中

(コノ文書ハ二三〇の1号文書ノ行間ニアリ)

- 七日、中之郡・下之郡庄官獻上如例、家老西村甚五太夫時員、
- 十一日、甲冑之賀筵、如例、
- 同日、本源寺軍陣・温座祈念、如例、
- 同日、蓮勝寺獻上、如例、
- 同日、在郷諸寺獻上、如例、
- 同日、贈佳札于洛陽本能寺及摂陽本興寺、
- 同日、的始、家老前田太兵衛宗周、用人^名失姓、射

手一番美座六七、二番鯨島安太郎、三番日高六次郎、
子島龍助、下村源藏

○十七日、嚮島間浦之利右衛門・庄次郎・清九郎
所乘之船於宇治島一破、加勢田之市左衛門及秋
目之浦役人扶助三人、由是令三人徒贈金百
疋于市左衛門、青銅百疋于浦役人、謝難船扶
助之恩也、

○廿八日、収三狩所獲之鹿皮一枚于官、

○同日、國老川上久馬久芳・二階堂主計行典命云、
近世諸郡懈租稅、從是令郡奉行監租稅之
事、開左、

○二三二 二階堂行典・川上久芳連署申渡書

寫

寫

諸鄉御年貢等之儀付而者、以前より屹与被定置
候御作法有之候處、近来緩ニ成立、早竟受持之役
場者勿論、所役不行届等閑ニ打過候處より、連
々右次第之時宜ニも相成、今通ニ而者往年如何様

之儀欵可致到来茂難計、別而不可然事候間、此節

細、掛被仰付、受持郷之儀者被任置候条、兼而御
用透見計、受持之郷、江茂不時致廻勤、應成行時
、得差圖候儀者其通ニ而諸事細密ニ加下知、第一
御作法不相乱様聊不束之取扱等無之様、一涯可致
精勤旨、郡奉行別段申渡候条、夫々地頭前より右
之趣を以、所役、江等閑之取計無之様分而可被申
渡旨、諸所地頭并大番頭江可申渡候、以上、

正月

川上久馬

二階堂主計

○點檢丁夫・病夫・有職者等一聞于官、如
例、

○二月三日、年與三米一石於種子島權左衛門、庶
流今家貧、故欲賑濟之而一世與之、

○十八日、日高杉右衛門所貸之錢穀統消貸籍而
與之、從放光院殿幼稚之時、屢近待于本府、

今亦爲_二納殿役人_一爲_二覽第一年之務_一、賞_二其勤勞_一也、

○十九日、以_二住吉村鄉士日高十兵衛_一爲_二一世組士_一、古田村寡_レ爲_二筆算_一者_上、故嚮以_二十兵衛_一爲_二彼村吏_一、今請辭_レ吏、然免_レ之則無_二代_レ之者_一、由_レ是不_レ免故勵_二其志_一、且賞_レ累歲無_二過失_一而勤勞_レ也、

○廿日、以_二美座矢太右衛門_一爲_二納殿役人兼普請奉行_一、

○同日、以_二榎本新吉列_一二十人家_一、與_二俸祿三石五斗_一、是依_二荒木拙之助竊盜而黜_一家格_一代_レ之也、

○廿二日、嚮所_レ謫之島津圖書臣藥丸四郎左衛門、於_二配所住吉村_一病死、即聞_二于官_一、

○廿六日、札改檢使日高清太夫・黒田次郎兵衛來、

○廿七日、締方横目小倉源左衛門・川上源七郎來、

○廿八日、以_二日高杉右衛門_一爲_二組頭_一、

○同日、水手_二三右衛門_一・庄藏、去_レ々年欲_レ爲_二商賈_一

渡_二于喜界島_一、歸來之候洋中逢_二逆風_一漂_二着于唐土_一、去年乘_二來朝船_一將_レ還、洋中逢_二難風_一破_レ船溺死、唐人告_二之長崎官廷_一、長崎奉行達_二之國王_一、故_二官傳_一其命、

○廿九日、以_二森十郎右衛門_一爲_二物奉行_一、

○同日、增田村甚之進宅火、人馬・手札無_レ恙、

○同日、監_二察一向宗_一告_二于官_一、如_レ例、

○三月朔日、渡邊吉架斐元服、加冠家老前田太兵衛宗周、理髮物奉行美座七郎右衛門時資、獻_二太刀

・馬代_一、賜_二字源十郎及矢_一、

○三日、令_レ讀_二法令書于廣間_一讀者姓名不知

○同日、與_二艾餅于三箇寺_一、慈遠寺亦獻_二艾餅_一、

○同日、西之表庄官賀_二瀬引_一獻_上、如_レ例、

○六日、收_二河島嘉軒高二斛_一、彼親族上言曰、存命中借_二府庫錢穀_一、今無_二嗣子_一而迹既絕、由_レ是請_レ收_レ高、以_レ償_二其所假貸_一之錢穀_上也、

○七日、阿高磯之新八舟載_二島間倉米_一趣_二于本府_一、洋中逢_二逆浪_一於_二馬毛島_一破_レ舟、由_レ是遣_二物奉行

一人・倉役一人二而點檢之、濕米甚多、

○十八日、官取一統民戶鷄卵、載其稅卵之舟於港爲西風一破壞、鷄卵等悉沈沒、即告于官、

○廿七日、羽生傳之允所一假貸錢穀許多、家貧而無償之術、故請納高一石七升二勺一寸而償之、今憐取其田祿一則外無餘財一益貧竄、取三之一而爲永作人地、蓋命及其地所產之穀合所貸之錢穀一而可返、

○同日、締方横目三崎嘉之助・久保七兵衛歸、

○廿八日、麥三詞西村喜右衛門一與一上下一具、自一蚤歲一近侍于本光院殿一多年、又自放光院殿幼稚之時一爲傳累歲勤勞、已後亦數十年奉職無懈、又每三君有祭祀一獻青銅百疋、比月當二主連夜一奉燈禮拜、且買高二石一而與三宗家西村太平次一、松壽院殿以三甚感一其志一及茲、

○同日、嚮官命云、仄聞水手仲五郎流於硫磺島・竹島・黑島一而買禁制之藥種一、糺之而告其

狀、且諸有司可請傳令疎闊之罪、由是令三吾横目糺三仲五郎一、白云、始不知三制品於三硫磺島一買三縮砂一、而后聞禁制一、即返三商主一不渡三餘島一而還、故聞其趣于官一、和藥種懸家老種子島五郎左衛門政賢・羽生平兵衛能寧、横目西村次郎兵衛・西村十郎次、船方役人西村喜右衛門・平山翁之進、浦役中村半助・落合四郎兵衛、各上疏請罪、

○四月六日、西之表足輕長田權之進約不還、事聞于官、

○七日、始定組頭職列位、用人職兼組頭者位下船奉行職兼組頭者之上、役人組爲無役組頭者亦位下船奉行兼組頭者之上、雖諸奉行家爲無役組頭者位下役人組船奉行兼組頭者上、是船奉行者以下從組頭卑官也、其坐列無長幼之別一貴本官也、

○八日、異國方御用人北條織部時昭禁密商唐貨一、及傳系荷船之令一、如例、

○同日、頃仄間射者爭勝負、由是命輟爭而可正習練、

○同日、以當時無祭主、親族相議以松壽院殿欲爲祭主、謀事臧否于市田義宜、答云、吾朝固有女帝、是以視之爲祭主可乎、由是名跡中爲祭主、

○同日、命元服及年首三箇寺獻上等之日、以來家老座於廣間次之間、從今少降上之間名代之位可占坐、

○同日至九日、於本源寺令僧三十五人修大觀院殿日喜尊靈三十三年忌、家老西村甚五太夫時員代松壽院殿行香、河内六郎時然代久美・婦美・真佐一行香、法事奉行上妻小左衛門・種子島友右衛門、靈膳奉行肥後惣左衛門・渡邊長助、

○十日、牧藤五郎寺入三七日、坐爲慶邸普請方下吏簿中重與實飯於匠人^{也所謂二重解放也}

○同日、八板十郎左衛門・長野源角各寺入二七日、

坐爲慶邸代官簿中出納有重複也、

○同日、叱中村半助・下村善左衛門・上妻良齋・大山太郎右衛門、以下中村爲慶邸役所筆吏下村物奉行所筆吏上妻爲茶湯大山爲庖宰共作簿疎也、

○十五日、國老二階堂主計行典・川田信濃佐摸・島津但馬久風・川上久馬久芳傳異國船之令、如例、

○廿八日、以旱魃令三箇寺僧徒禱雨、

○同日、與米二斗于三箇寺僧徒、是謝數日禱雨之辛勞也、

○五月朔日、以西村藏多・遠藤壯兵衛・河内六郎爲稽古講談役、

○五日、與粽各一束于三箇寺、慈遠寺獻同品、

○七日、三役・組頭覽武術于廣間之庭、鎗術羽生紋九郎^{代平山二太夫}・羽生嘉右衛門^{代種子島大五郎}・天真流師範

日高源七郎・遠藤壯兵衛、示現流師範宮浦半之允・吉良勝兵衛、性一流師範西村惣次、水野流師範

羽生嘉右衛門・梶原小一郎・知覽才之允代長野良左衛門

・下村黒人、眞影流知覽龜太郎代長野良左衛門、無双流

師範大瀬源兵衛・鮫島休之進是兩人道真師

○十日、下古田村之兵太郎于獄一百日、坐竊盜也、

○同日、叱猶原六郎次、平生鬻博奕札、博奕天下大禁、今以下顧禁法爲中上之妨上也、

○十二日、三役・組頭覽射於本源寺弓場、軍勢書入束矢大牟禮良七・子島龍助、金之的束矢鮫島安太郎、

○十九日、以名跡中家政益不可不齊整、故命組頭宜勸諸士文武正一統風俗、乃又命組頭及横目、頃習射者聞好爭事賭、故曩出書箴之、向來有違犯之徒則宜禁之、

○按一察一向宗一告一官一、如例、

○六月一日、去年冬肥州天草舟逢難風漂到於納官村海濱、濱津脇浦之衆民持衣食一到而救其飢寒、就中仁作勵力而救之、德次郎欲趣

于府下而途中見其舟、即馳還而告是於浦長、是以速得救、皆憫困厄之情堪感、故令有司船奉行褒詞仁作・德次郎及濱津脇庶民、納官村篠川林右衛門亦持人參疾馳來而救危難、以盡其篤誼令村吏褒詞之、

○十四日、與米二石於市人牧瀬仁兵衛、謝屢借彼舟二艘載倉財之事上也、

○十七日、國老島津丹波久長命云、水手嘉助於東武邸盜白砂糖而賣之他、其事發露故糾明之、即乘舟而送于本土、於相州浦賀港溺死、存則為百姓之隸、今死亡釋葬骸、事開于左、

○二三三 島津久長申渡書寫

寫

御船三社丸

水主種子嶋之

嘉助

右者、江戸御用物積入、彼地江着船之上、透を計、御用物之内札付箱一聊示、白砂精四十式斤入付有之付、外方之者江預置候處、相頭候旨問付之上申出、不屈之仕形付、存命候得者百姓召仕申付者候得共、大廻船より被差下候折、於相州浦賀致溺死候付、右科相當ニ而死躰無御構候、

右可申渡候、

六月

(島津久良)
丹波

○十八日、命羽生平十郎小普請入禁為吏、謂、是考下檢為西之表祖吏之文簿上、欠載眞米十四石八斗餘・赤米一石九斗餘、坐其緩怠也、

○同日、命長野長盛寺入三七日、嚮為蠟澄屋下吏其簿中以有冒禁法也本落本立不足之、刑也

○廿日、下西之表足輕大瀨源太郎・岩坪榮次郎・大瀨直太郎、熊野塩屋之金助・岡右衛門・弥三次、

石寺之喜助・仲藏・善左衛門・兵之允、國上村湊之市太郎・五郎八、坐盜鯨、修道路一數十

日、

○同日、令兵具奉行叱大瀨源兵衛、嫡男源太郎・二男直太郎竊下所寄于熊野濱之鯨上、以生平生教戒之疎薄也、

○廿一日、坂井村之古市八百吉寺入于本法寺二年、自去年至今年遊獵而盜猪、故及茲、

○同日、住吉村行司牧半右衛門寺入于滿徳寺二七日、赴安城村之田獵中途獲猪、而其行状似將盜之、故及茲、

○廿九日、和雛之式如舊、乃西之表庄官獻上、如恒、

○七月六日、住吉村之七七之允納科錢十貫文、以盜杉木也、

○七日、飾日深公之鏡、家老前田太兵衛宗周拜之、

○八日、家老種子島郷兵衛時雍詣于大會寺、祭祖先及宗祖・戰死之靈、

○九日、以種子島大五郎再為用人、種子島友

之助番頭、一湊六郎兵衛・中田宇平太兵衛奉行、知覽翁之允山奉行、西村權太夫山奉行見習、羽生新四郎馬役、

○十三日、家老種子島郷兵衛時雍詣于慈遠寺、祭先祖及宗祖・戰死之靈、十四日、家老羽生半兵衛能寧詣于本源寺・祭宗祖、十六日、家老前田太兵衛宗周詣于本源寺方丈、祭先祖及戰死之靈、

○十八日、以頃日旱魃、令僧徒會本源寺誦經乞雨、

○同日、住吉村・坂井村告田地旱損、

○廿日、莖永村・増田村告田地旱損、

○廿四日、上里村告田地旱損、廿六日、西之村告田地旱損、

○廿五日、吉良六兵衛寺入于妙昌寺三七日、坐爲覺邸普請方下吏簿書不_レ正也、

○官以府庫困窮、故命封國一統薄飲食衣服禁驕奢省費用、諸有司歸質素之風宜_レ謀

富_レ府庫、

○晦日、以寬正院爲大會寺住職、

○按察鬼利支丹宗告于官、如例、

○八月一日、與中紙各二束于慈遠寺・大會寺、二箇寺亦獻同品、

○十三日、從七月十八日於本源寺祈雨、無驗自今日於甲女川岩立祈雨、十四日得雨、

○十五日、蓮勝寺進上、如例、

○十七日、以凶歲止馬追之式、令執唯及二歲駒_上、

○十八日、莖永村・中之村・西之村潮大湧傷禾、

○廿七日、締方横目萩原喜藤太・寺師六兵衛來、

○九月九日、令種子島友右衛門講法令書于廣間、如例、

○十一日、大風一島傷田園不可勝算、城内及船手等多破損、其餘倒家九十軒餘、

○十三日、下西之表足輕大瀬源太郎寺入于本法寺二七日、大瀬甚兵衛寺入于滿徳寺二七日、大

瀬源太郎妻・海士泊浦之吉兵衛女令掃除道路
各七日、共坐犯_レ法伐_二甘蔗也、

○廿三日、囚_二下西之表彌吉于牢_一、以_二犯_レ法夜中
徘徊_二于米倉門内也、

○廿七日、西之村之郷士河東新右衛門寺入七日、

以_二西之村之彦左衛門船遇_二逆風_一漂_二到于屋久
島_一、及_レ歸横目河野林右衛門托_レ贈_二于札改檢使
日高清太夫_一書信上、新右衛門令_レ彦左衛門不_レ
達_レ之也_一屋久島 官振禁往來之
地故、河東令匿之者也

○同日、縮方横目川上源七郎・小倉源左衛門歸、

○現和村・安納村・住吉村・古田村・増田村・上里
村・野間村・莖永村・平山村・中之村・西之村・
島間村、以_二旱損風損潮損_一隨_二其損_一減_レ賦、有_レ
差、

○十月十一日、褒_二詞下村太左衛門_一與_二有紋染布_一
反_レ、以_レ製_二甲冑_一故勤_二仕于御兵具方_一、數年在_二
于寢邸_一、與_二火消及邸内外掃除等之事_一有_レ功、
故賞_レ之也、

○同日、以_二凶歲_一免_二大山野賦稅_一、

○以_二岩河十右衛門時行_一爲_二物奉行見習_一、猶聽_二用
人之事_一、西村九郎船奉行且與_二米六斗_一、自請重_レ
期役_二納戸方_一、且兼_二馬役_一勤仕故也、

○中之村郷士鮫島市三爲_二一世組入士_一、爲_二調菜
人_一數年勤仕故也、

○國老島津丹波久長・穎娃信濃久喬命_レ以下、太守
公厄年禱_二爾于諏訪明神_一今年厄過上、十一月・十
二月之際撰_二吉日_一爲_レ賽之時各隨_レ分宜_レ獻_二品
物_一、事開_二于左_一、

○二三三 穎娃久喬・島津久長連署申渡書
大守様御晴厄_二付_一、十一月朔日より十二月朔日迄
之間、吉日次第御結願之節進上物、左之通、

一御肴代金子百疋宛

嶋津山城殿

嶋津内匠殿

嶋津讚岐殿

嶋津安藝殿

嶋津又

(A)

嶋津又次郎殿

嶋津又八郎殿

嶋津静水殿

嶋津市正殿

嶋津啓之助殿

松壽院殿

御家老座

一右同銀式匆宛

若年寄

大目附

大目附格

一右同銀三匆宛

大番頭

寺社奉行

御勘定奉行

御小姓與番頭

當番頭

詰衆

無役一所持

一所持格

寄合

御側御用人

御側御用人格

御用人

町奉行

町奉行格

御側役

御側役格

寄合并

一右同青銅二十疋宛

龜山主右衛門

山田孫五郎

此余略之

右之通御物御取替を以御着進上候而、御札并目録相添被差上御願文申可被下候、尤御札調方之儀者、去年御願文調方同前御取替を以、御札紙諏訪大宮司并福ヶ迫諏訪神主方江可申渡候条、此旨向江不洩様致通達、可承向江茂可申渡候、

但目録之儀者自分調可被差上候、且京・大坂諸人数御願文差上置候面々、御結願ニ付御札進上等之儀者、先例之通可被相心得旨可申越候、

(島津久長) 丹波

十月

(頼娃久壽) 信濃

○十一月四日、與ニ錢五十貫文于種子島郷兵衛時雍、錢六十貫文于山崎筑右衛門、以ニ出来之事

役于大坂^二之時所^レ假^二于府庫^二也、

○五日、與^二米^二斛于鮫島孫右衛門、不^レ論^二輪替^一、
三役^二于覺府^一勤^二仕于作事^一、故及^レ茲、

○十日、以^二上西之表百姓惣之允^一爲^二代々足輕^一、
與^二藤崎氏^一賞^レ納^レ錢也、

○廿四日、與^二米^一斛于中之村庶民、以下今年洪水
大傷^二田地^一、修^二築之^一村民辛苦、且凶歲^上及^レ茲、

○廿七日、議^下定家老役^二于覺府^一、一期加^中與扶持
高五石^上、

○國老諏訪治部武教令^二西之村郷士鮫島五右衛門^一、

赤尾木足輕古市喜右衛門各納^二科錢五百文^一、嚮
屋久島之五郎右衛門船載^二飛魚^一到^二于種子島^一、
五郎右衛門教^二之商^一于上之関、且喜右衛門爲^二
夥長^一導^二水路^一、故坐^レ之也、

○按^二察一向宗^一聞^二于官^一、如^レ例、

○閏十一月一日、以^二凶歲^一請^レ見許^二一匁出銀^一、
故^二官令^一締方横目檢^二察一島之榮勞^一、事開^二于
左^一、

○二三四 締方横目達書

種子嶋之者共^一統當辰之年人別并牛馬壹匁出銀御
免之願申出、榮勞見分被仰付候間、每家差入致見
分、極老・幼少又者壯年之者共^二而茂身賣鉢^一
而、居宅等度不致所持、今日之宮調兼何れ成出銀
難相調程之者共候哉、面付帳取仕立、家内人数内
書^二其訳相記可被申出候^一、尤出銀相調丈之者、見
分之形行、細^レ可被申出候、此旨大目附被仰候、
以上、

一當辰之年早魃大風等之災殃凶作^二而、種子嶋中竈
出銀月延等、又者御免之願申出、榮勞見分被仰付
候間、每家差入榮勞之次第委數被致見分、出銀可
相調者又者不調訳、別冊家内帳取仕立、無滯成行
細^レ可申出候、此段可被申越旨大目附衆被仰付
候、以上、
右之通被^レ仰渡候間可得其意、每家差入可致見分
候間、無親疎可致吟味候、

閏十一月朔日

締方横目

- 十四日、横目久木田主右衛門從_レ屋久島_ニ到_レ于島間_一、十五日、達_三于赤尾木_一、鞠_レ問西村周左衛門殺_レ坂井村之周五郎_一之事_上、
- 廿二日、夜盜破_三船手之鎖_一、偷_レ錢、搜索不_レ得、
- 廿八日、久木田主右衛門歸_三于屋久島_一、
- 同日夜、武田善平盜_三鯨島貞哉甘藷_一、廿九日下_レ獄、嚮盜_三船手之錢_一、亦彼所_レ爲_レ令_下横目到_三彼宅_一、偏搜索_上、有_三金子_一、其余可_レ疑物數件、即鞠_レ問善平_一、白狀曰、船手之事敢不_レ爲_レ去ケ年入_三米倉小拂所_一盜_三金銀錢三十七貫文_一、於_レ是召_三當時倉吏八板矢一兵衛_一問_レ之、曰、然也、以_三己之財而非_レ府庫財_一、不_レ告_レ之云、
- 美座矢太右衛門以下從_三今年三月_一兼_中知納殿役人_上、與_三米二石五斗_一、又期_三來年三月_一役_三于納殿役人_一、故加_三與扶持高五石_一、
- 晦日、西街市人濱田喜七納_三金子三百兩_一、

○同日、官傳_三三位公之命_一、令_レ獻_三牛馬_一也驢馬牝牡二匹、

○十二月四日、締方横目萩原喜藤太・寺師六兵衛巡_三回一島_一檢_三察榮勞_一、上之手萩原喜藤太、横目種子島五郎衛門、郡役羽生嘉右衛門・日高源七郎、下之手寺師六兵衛、横目岩河十右衛門時行、郡役上妻新七・河内寛右衛門、

○十三日、上妻新七獻_レ餅、如_レ例、

○廿七日、三箇寺・廿人家・鍛冶進上、如_レ例、

○歲暮、規式、如_レ例、